

**学校法人 佑愛学園
愛知医療学院短期大学**

2020年度 授業評価レポート



2021/6/23

目次

■ 資料

- 1 学生による授業評価実施要項
- 2 学生による授業評価アンケートの実施要領

■ 授業評価レポート

【教養基礎科目】

- 1 生命の科学
- 2 エネルギーのしくみ
- 3 情報処理
- 4 論文講読
- 5 心理学基礎
- 6 人間関係論
- 7 コミュニケーション論
- 8 レクリエーション
- 9 外国語 1（英会話）
- 10 外国語 2（韓国語会話）
- 11 外国語 3（中国語会話）
- 12 現代社会の理解
- 13 生物と環境
- 14 教養演習 [PT]
- 15 教養演習 [OT]
- 16 教養演習 [PT]
- 17 教養演習 [OT]

【専門基礎科目】

- 18 解剖学Ⅰ
- 19 解剖学Ⅱ
- 20 解剖学Ⅲ
- 21 解剖学実習
- 22 生理学Ⅰ
- 23 生理学Ⅱ
- 24 生理学実習
- 25 運動学総論
- 26 運動学Ⅰ
- 27 運動学Ⅱ
- 28 運動学実習 [PT]

- 29 運動学実習 [OT]
- 30 人間発達学
- 31 一般臨床医学
- 32 公衆衛生学
- 33 医療安全学・救急医学
- 34 健康科学
- 35 リハビリテーション概論
- 36 社会福祉学
- 37 臨床心理学
- 38 内科学
- 39 整形外科学
- 40 神経学
- 41 精神医学
- 42 小児科学
- 43 リハビリテーション倫理
- 44 障がい者スポーツ演習

【専門科目】

- 45 理学療法概論
- 46 理学療法研究法Ⅰ
- 47 運動療法総論
- 48 検査測定法
- 49 検査測定法実習
- 50 人体触察法実習
- 51 老年期障害理学療法学
- 52 臨床実習Ⅰ（見学）
- 53 理学療法研究法
- 54 臨床運動学
- 55 理学療法評価法
- 56 理学療法評価法実習
- 57 中枢神経系障害理学療法治療学

58	中枢神経系障害理学療法治療学実習	93	臨床実習Ⅱ（地域）
59	整形外科系障害理学療法治療学	94	作業療法治療学研究法
60	整形外科系障害理学療法治療学実習	95	臨床運動学
61	内部疾患系障害理学療法治療学	96	作業療法評価法実習
62	内部疾患系障害理学療法治療学実習	97	身体障害作業評価学
63	小児疾患系障害理学療法治療学	98	精神障害作業評価学
64	小児疾患系障害理学療法治療学実習	99	発達障害作業評価学
65	老年期障害理学療法学	100	作業療法治療学理論
66	日常生活活動学	101	作業療法治療学実習
67	日常生活活動学実習	102	身体障害作業療法学Ⅰ
68	義肢装具学	103	身体障害作業療法学Ⅱ
69	義肢装具学実習	104	身体障害作業療法学実習
70	物理療法学	105	精神障害作業療法学
71	物理療法学実習	106	精神障害作業療法学実習
72	理学療法特論Ⅰ（神経生理学のアプローチ）	107	発達障害作業療法学
73	理学療法特論Ⅱ（関節運動学のアプローチ）	108	発達障害作業療法学実習
74	理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法）	109	老年期作業療法学
75	理学療法特論Ⅴ（吸引・喀痰法）	110	日常生活作業学Ⅱ
76	生活環境論	111	日常生活作業学実習
77	地域理学療法学	112	高次脳障害作業療法学
78	地域理学療法学実習	113	義肢装具作業療法学
79	臨床実習Ⅱ（評価）	114	義肢装具作業療法学実習
80	臨床実習Ⅲ（総合Ⅰ）	115	作業科学
81	臨床実習Ⅳ（総合Ⅱ）	116	人間作業モデル論
82	卒業研究	117	リハビリテーション関連機器
83	総合演習	118	地域作業療法学
84	作業療法概論	119	地域作業療法学実習
85	臨床運動学	120	就労支援学
86	基礎作業学	121	臨床実習Ⅱ（評価）
87	基礎作業学実習	122	臨床実習Ⅲ（総合Ⅰ）
88	作業療法評価法	123	臨床実習Ⅳ（総合Ⅱ）
89	作業療法評価法実習Ⅰ	124	卒業研究
90	身体障害作業評価学	125	卒業研究
91	日常生活作業学Ⅰ	126	総合演習
92	臨床実習Ⅰ（見学）		

◆集計データ結果について

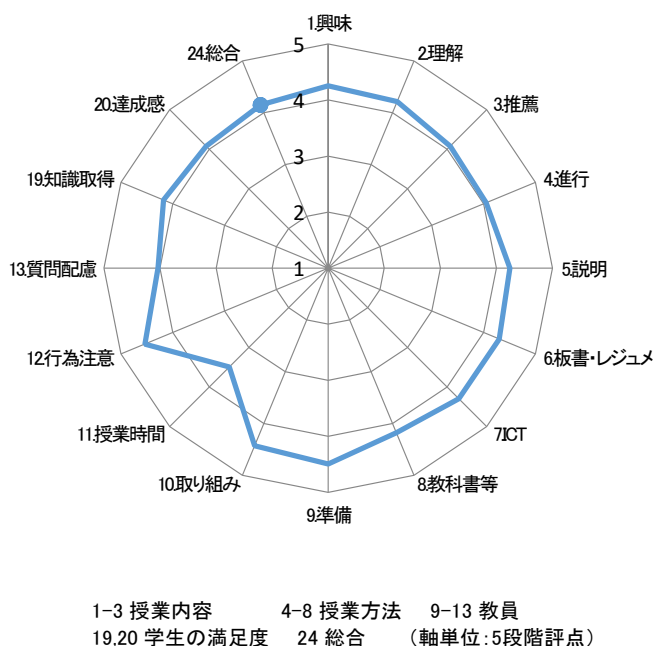
本年度は第1回の講義からオンライン形式となり、途中で対面での講義となってもソーシャルディスタンスを保つことが求められたため、例年どおりの形式で講義を行うことができなかった。具体的には、グループワークで生命について科学的に考えさせるなど、アクティブ・ラーニングを取り入れることができなかった。また、講義ごとに提出するポートフォリオをGoogle Formsを使って集めたため、ポートフォリオにコメントを入れて返すことができず、形成的な評価を十分行うことができなかった。その代わりに、ポートフォリオで全員から集めた質問や疑問については必ず答えを書き、全員で共有できるようにした。結果については、「総合評価」の平均は約4.1で、昨年度と同様であった。その他の項目についても、本年度はほんの少し低めに平均値が出ているが、「質問配慮」を除けば、全体的には昨年度と同様であったと言える。「質問配慮」については、例年高い値ではないが、昨年に比べ0.5ポイントほど低かった。確かに授業中に学生が質問する時間は取っていないが、今年は上述したように全員から質問や疑問を授業ごとに集め、それぞれに回答したものをGoogle classroomに挙げ、次の授業までに全員が共有できるようにしてある。自由記述にも「質問に対して細かく、丁寧に返して下さったのが良かったです。」とあったように、その気があれば分からないことも十分開け、理解を深めることができたはずである。その点残念である。今後、さらにアンケート結果から浮き上がった問題点への対応策を検討し、次年度に向け、講義の改善につなげていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記述の意見で多かったものは、「生理学や解剖学などとも関係づけて、学ぶことができた」「動画などの視聴覚教材が理解を助ける」「プリントが分かりやすくまとめられていた」「詳しい説明で分かりやすかった」などの趣旨の意見で、例年と変わりはない。これらのことから、基本的には来年度の講義はアクティブ・ラーニングを復活し、自作のプリントと映像教材を使った現在の講義の進め方を続けたい。しかし、少数ではあるが、プリントについて「枚数が多すぎる」、授業に関連するつもりでしている話も「たまにする雑談がとても好きです」から「話がよく脱線して何が重要なことなのか分かりずらかった」、授業のスピードについても早すぎるから遅すぎるまで幅広い意見が見られた。授業時間については「開始が早すぎることもある」「延長が多い」という声が見られた。これらは、多様な学生の感じ方や意識の差が集計データにも現れていると考えられる。ポートフォリオについては、「ポートフォリオシートに一番大切だと思った事を書く欄があり、それのおかげで学んだ事を自分の物に定着する事ができたので良かった。」と肯定的な声が聞かれた。これらから、次年度以降も大きく指導方法を変える必要はないが、さらに細く内容を検討し、学生にとって一層効果的な講義をつくっていきたい。

◆今後の改善に向けて

高校教育が多様化し、入学してくる学生の学習履歴や学び方も千差万別となっている。学生の多様化が進む中、今回の学生のデータの結果や自由記述の内容を見ても、多様化だけでなく何年か前の学生と感じ方や意識も変わってきていると感じる。そのため、講義のレベルを落とさずに多様な履修者を全員満足させることはますます容易でなくなっている。そこで、以前から進めていることでもあるが、学習内容や教材の検討をさらに進め、今後もより多くの学生が満足できる講義に向け改善に務めていくことがますます重要となっている。また、自由記述の内容からも分かるように、本学の学生にとっては、生命科学の講義の内容を生理学や解剖学の内容と関係づけていくことも必要である。この点については、一昨年度から一部学習内容を変え、取り組みは始めているが、その効果を調べるまでには至っていない。今後、調査を行い、より効果的な講義内容の構成について検討していきたい。一方、学生の中には、高校までの暗記に頼るような学習方法から脱却できていない者が少なくない。そのため、講義にアクティブラーニングを取り入れ、ポートフォリオで自分の学びを振り返らせ、自分で考え、考えをまとめることをさせているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で、アクティブラーニングを行うことができなかった。学生が医療短大でリハビリテーション科学を学ぶための基礎を作るには、初年次の講義で、学習に対する意識を切り変えることが重要であるので、その点残念であった。



科目名

2. エネルギーのしくみ

担当教員

後藤 理夫

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

79名

◆集計データ結果について

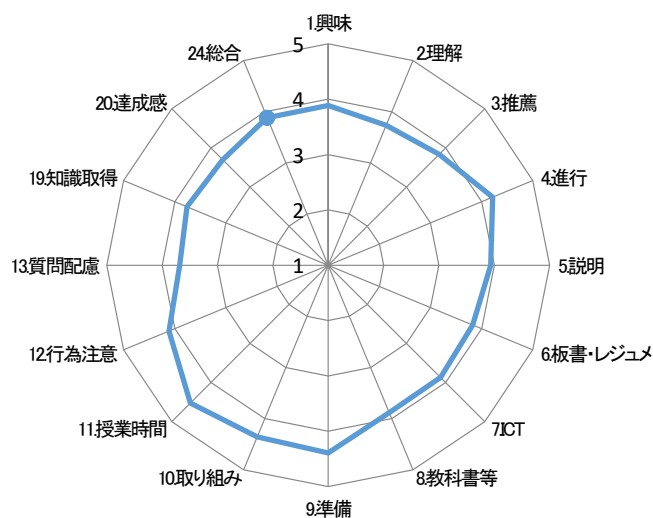
高等学校において「物理」を履修・習得していないで本講座を受講している学生が多くいることは、毎年のものであり、十分承知の上での授業展開をしている。がしかし今年は学生・私自身にとって初めての特異な条件下での講義になった。特に感じたのは、学生の反応が見れない一方通行の授業展開になったことと毎週の課題問題を通しての復習活動ができなかった点で興味・関心・理解度に大きく差が生じたのではないかと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

- 1 板書・文字について 電波状況 席が後方であった ホワイトボード・ディスプレイの枠内での記述等々の理由はあるものの見えなかった、読めなかったのも事実。来年度も同じことが起きたら・・・今から悩んでもどうしようもない。
- 2 授業展開について 遅いもっと早く進めて ちょうど自分に合っていた 理解できない までのいろいろな意見があります。が私としては教化的に「嫌い」「苦手」と言う学生でも何としてでも引き上げる、押し上げることに力点を置いています。

◆今後の改善に向けて

全体を通して言えることは、「文字は大きく、丁寧に」が皆さんからの「単純で最大の声」に感じました。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

3. 情報処理

担当教員

斎藤 末広

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

77名

◆集計データ結果について

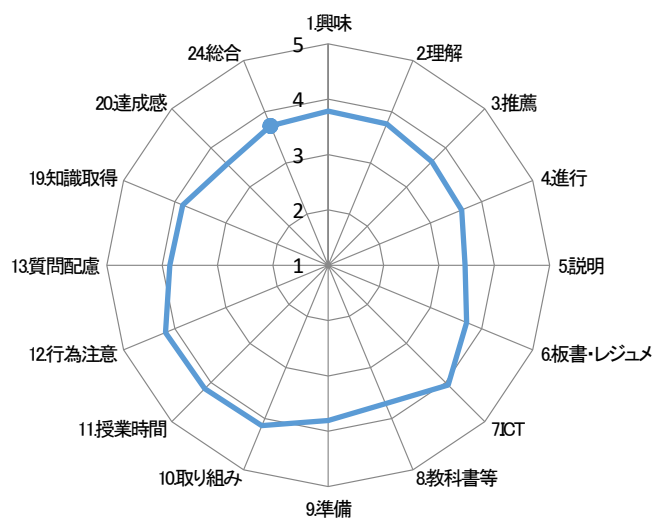
3の後輩に推薦したいか、19の知識習得に満足しているか、20の学習の達成化は得られたか、が4をきっているのは、反省すべきことです。
それぞれ、もっと5に近づくよう、創意工夫が必要であると反省しました。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

エクセルを高校等で学ぶことが多く、教科書の内容では不満を感じているようです。

◆今後の改善に向けて

エクセルの技能は、教科書レベルを維持し、応用で、統計的なデータを扱い、統計処理をするために、エクセルを使うを意識していこうと思います。



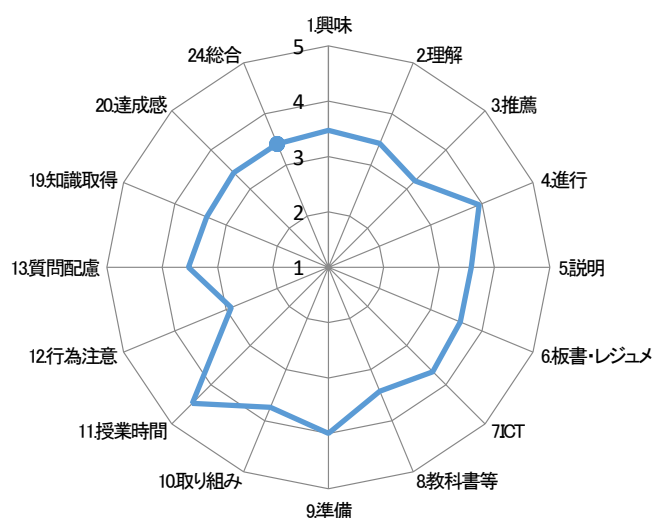
1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

高等学校までの授業の中で『論文』を目にする機会のまったくなかった学生にとって、この講義の内容はさぞ縁遠いものだっただろう。必要性や意義についても、シラバスの説明ぐらいでよく理解できるものではない。グラフの『内容』、『理解』や『達成感』の値が2.5ぐらいになっているのは、そうした状況が反映したものと思われる。学生さんには、専門科目を優先するようにと最初に言っていることもあって、帯グラフの赤が広くでているのもうなづける。つまりは講師の言葉によく従ってくれたということだ。『質問対応』と『行為注意』がいつものように低く出たが、コロナ対策でマスクとフェイスシールドを着用して教室に出たため、いつもに増して自分の声しか聞こえない状態となっていたかもしれない。『準備』や『進行』が比較的高く評価されたのは喜ばしい限りである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義内容は『論文』紹介が半分、『英語』の復習が半分という時間の取り方をしたのだが、前者については「難しすぎる」、後者については「分かりやすかった」という意見が多かったようである。論文は、先輩の卒業論文の一部を紹介することから始まり、日本語の論文から最後は英語の論文と数学の証明を見てもという順に進めた。後半は内容がハイレベルになってしまったが、「卒業論文を見られたのがよかった」という声があったので、ホッとしている所である。英語に関しては、毎回の小テストを点数を気にしないで受けてもらったことがよかったのだろう。出席シートの代わりとして毎回提出してもらっていたので、苦戦している様子はよく分かった。「先生が楽しそうに話していた」という感想が複数見られたが、もっと講義の中身に注意を向けてほしいとおもいながらも、こういう注目のされ方も悪くはないと感じている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

第1に、「論文を読むことの必要性」をなんとか学生さんたちに理解してもらえるようにしなければならない。本年度は「論文とは何か」の説明により重点をおいてしまったため、技術的な面が先になってしまい、「なぜこんな訳の分からないものを読まされるのか」という疑問を持ち続けたまま最後まで来てしまったという人が多かったと思われる。唯一、先輩の卒業論文は、やがて自分たちもこうしたものを書かなければならないんだということを感じられるものだったわけで、この紹介は次年度も引き継ぎたいと考える。第2に、英語の小テストのほうも継続したいと考える。今年は単純な文法問題を中心にしたが、論文の読解につなげるよう、英文和訳の作業をもっと取り入れたい。最終試験の英文和訳が惨憺たる結果だったのを踏まえての反省である。第3に、論文とまではいかずとも、ある程度の長さの文章を書く実践練習を加えたい。本年度はこれがまったくできなかったのが心残りとなっている。「論文講読」がテーマではあるが、文章をまともに書いたことのない人は、人の文章を正確に読むことができない、ということを学生さんたちに訴えたい。

◆集計データ結果について

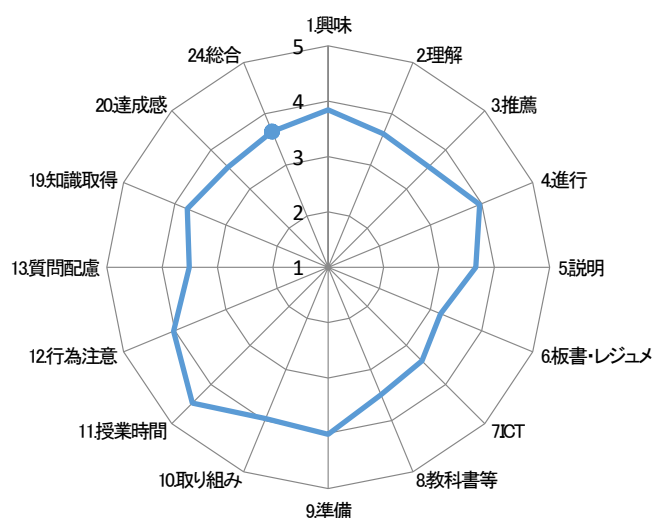
「総合評価」は、3.65で、評価を上げる必要がある。各評価項目の中で、とくに低く評価された項目は、「授業方法」であった。その主因は、後述の学生の自由記述からみると、(PowerPointのスライドが見にくい)ということにあると考える。

また、学生の意識に関する内容で、とくに低かった項目は「質問」、「予習」、「復習」、「DPとの関連性」、「学習到達目標」であった。シラバスには、それらの項目内容(「質問」を除く)が明記されているが、学生に十分伝達されていなかったものと推察する。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

改善すべき主要な点は、前述のPowerPointで使用した(スライドの見にくさ)についての記述が相当に多かったことである。

一方、良かった点については、「例を交えて話してくれるのがわかりやすかった。」、「先生の実体験がきけておもしろかったです。」、「とても興味深いお話を沢山聞き、学ぶことが出来て良かったです。心理学は、医療の世界でも重要だと思いますが、普段でも活用でき、コミュニケーションをとるうえで重要になってくると思います。学んだことを活かしていきたいです。」といった内容の記述が散見された。このことは例示や体験話をするなどして説明したり、解説したりすることが理解を促進する上で有効であることを示唆するものといえよう。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆今後の改善に向けて

PowerPointで使用したスライドの文字の拡大、色の変更を行うなどして、スライドを見やすいものにする。学生の意識に関する内容である「質問」、「予習」、「復習」、「DPとの関連性」、「学習到達目標」については、授業初回のガイダンスで、シラバス(「質問」に関しては振り返りの中にその個所が設定されている)に基づき平易かつ丁寧に説明するなどして、その内容の周知徹底を図り改善していく方針である。

◆集計データ結果について

「総合評価」は、3.91で、もう少し上げる必要がある。各評価項目の中で、低く評価された項目は、「授業方法」であった。その原因は、後述の学生の自由記述からみると、(PowerPointのスライドが見にくい) (スライドの切り替えが速すぎる)といったことにあると考えられる。

また、学生の意識に関する内容で、低く評価された項目は「学習態度」、「ディプロマポリシー(DP)の把握」であった。

シラバスには、「学習態度」の項目である(予習)(復習)の内容、(DPに基づいた学習到達目標)が明記されているが、学生に十分伝達されていなかったものと推察する。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

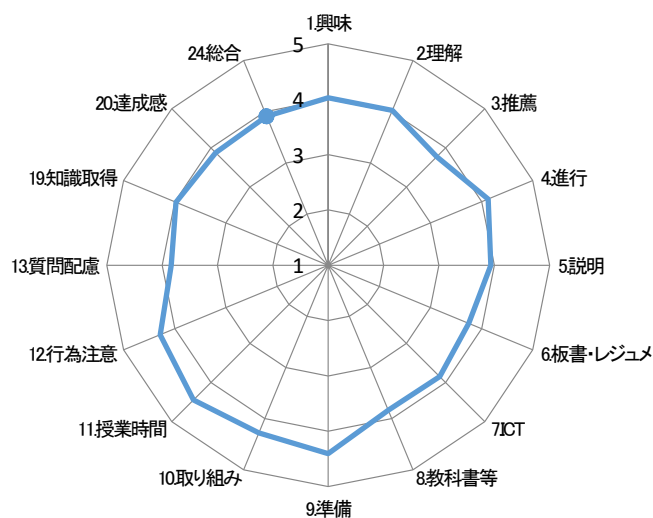
改善すべき主な点については、前述のPowerPointで使用した(スライドの見にくさ) (スライドの切り替えを含む授業進行の速さ)についての記述が多かったことである。

一方、良かった点については、「講義を聞くだけでなく、コミュニケーション方法を実践したりする時間もあってとても良かったです。また、周りとのコミュニケーションをし合う機会も設けられてあり、楽しい授業でした。」といった内容の記述が少なくなく、実習を導入した分野において好評を得たといえよう。

◆今後の改善に向けて

PowerPointで使用したスライドの文字や色を更新し、見やすいスライドにする。また、学生の筆記状況を十分に確認して、スライドを切り替えたり、説明したりするように努める。

学生の意識に関する内容である「学習態度」、「ディプロマポリシー(DP)の把握」については、授業初回のガイダンスで、シラバスに基づき平易かつ丁寧に説明するなどして、その内容の周知徹底を図り改善していく方針である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆集計データ結果について

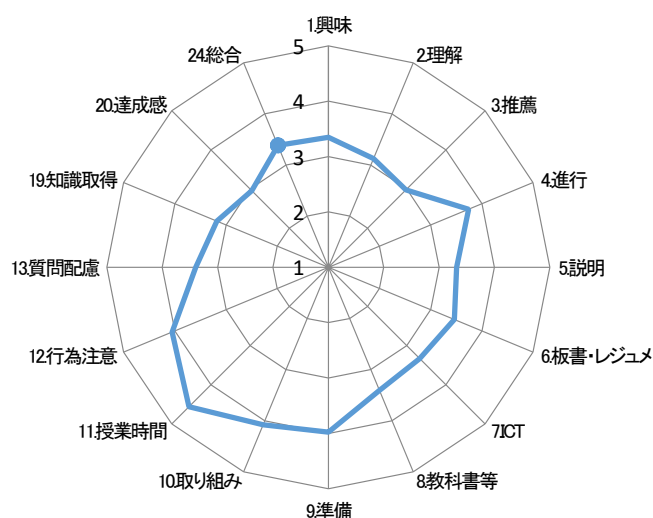
質問項目が従来の対面授業を前提としたもののままなので、オンライン授業の結果の場合にこれでよいのかは検討の余地がありますが、一応、その集計データに基づいて以下に記入することにします。講義をする側としては、私語や居眠りの一切ない環境の中で、スムーズにお話できたと思いましたが、その主観的な感想とは裏腹に総合評価は3.4弱となりました。これまでがほぼ4.0前後であったのに比べて、かなり低く出たことに驚かされ、オンライン講義の難しさを実感した次第です。質問項目の1～3の内容に対する関心度は3.0を若干上回る低さで、一般教養の講義の宿命のようです。4～8の授業方法については3.4前後で、大いに工夫が今後必要なのは当然ですが、初めてのオンラインにしては大きな失敗がなかったと言えるかもしれません。教員の8～13は4.3ぐらいになっていてホッとしましたが、行為注意が4.0となったのは驚きでした。19・20の満足度はかろうじて3.0で、これが総合評価に影響したものと思われます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

まず気づかされたのは、学生の反応のバラツキがこれまで以上に大きかったということです。通信環境の良し悪しの影響で、音声や画像の不良が原因となる苦情が目立ちました。もともと声の大きさには自信があるのですが、「音声途切れたりしてなかなか聞き取りづらいところがあった。」「オンライン授業で声が聞き取りにくい部分があったので改善してほしい。」という意見が今回は多いようです。「プリントを配布してくれたらもっと分かりやすかったです」という反応がありましたが、プリントが届いていなかったのかと不思議でした。一方で、「チャットで質問や意見を言っても見てもらえないことが多くやる気は出ませんでした。」「質問を何一つみてなかったと疑ってしまうほど、なにも反応がありませんでした。」という声には見落としていたことを反省させられます。チャットにちっとも慣れていないことを反省する必要がありそうですが、フィードバックに際して『質問がある場合はこちらに記入すること』という欄を別枠で設けてもらおうと、このような不満はなくなるのではとも思いました。「何について学ぶ授業なのかがあまりわからなかった。」という感想は毎年出てきますが、ひょっとして学生さんはシラバスを読んでいないのではないのでしょうか。ネガティブな意見ばかり引用しましたが、「先生がいつも偉人の歴史などを面白い話なども交えて話してくださったので、そこがよかったです。」という記入もあり、講義のし甲斐を感じます。

◆今後の改善に向けて

今後はまたオンライン講義のみになるのか、対面ができるのかが分からない現時点では改善点の考え方も違ってきますが、もしオンラインだったらどうするかという観点で記入させていただくと、まず、コンピューターの使い方の勉強と訓練が必要だということがあります。学生さんの苦情にもあったことですが、チャットという機能にまったく対応できなかったことが大きな問題点でした。そもそも画面の文字が小さくて読めないという視力の問題が当方にあり、コンピューターから離れて黒板を同時に使うというやり方で行く場合は、『質問時間』を特別に割くが必要になるかもしれません。一方で、チャットがもし殺到したら、これも処理しきれないことになり、大変そうです。その他共有の機能でどのようなことができるのかを勉強し、使えるようにしないといけないのでしょう。デジタルデバイスの活用は、学生さんの方がはるかに進んでいるので、追いつくのはほとんど不可能なように思われます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆集計データ結果について

教科書の使用を除くすべての項目で平均4.4以上であり、おおむね良い評価であった。教科書については、感染症拡大の影響により、リモートと対面を組み合わせた予定外の形態であったため、実施内容を大幅に見直したり削減した結果、今年度は十分に教科書を活用することができなかった。学生の意識については「14.熱心さ」で「どちらかといえば取り組んだ」「取り組んだ」と答えた学生が100%であり、制約の多い環境の中、授業に対する興味を引く授業展開ができていたと考える。

一方、予習・復習時間がまったくないとした学生が多かったが、授業内で間に合わなかった準備や練習を行うよう指示し、そのように各グループとも行い授業に間に合わせてきたため、教員の求めるレベルの学習はできていたと思われる。準備や練習は、予習・復習には当たらないと考える学生が多かったのかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

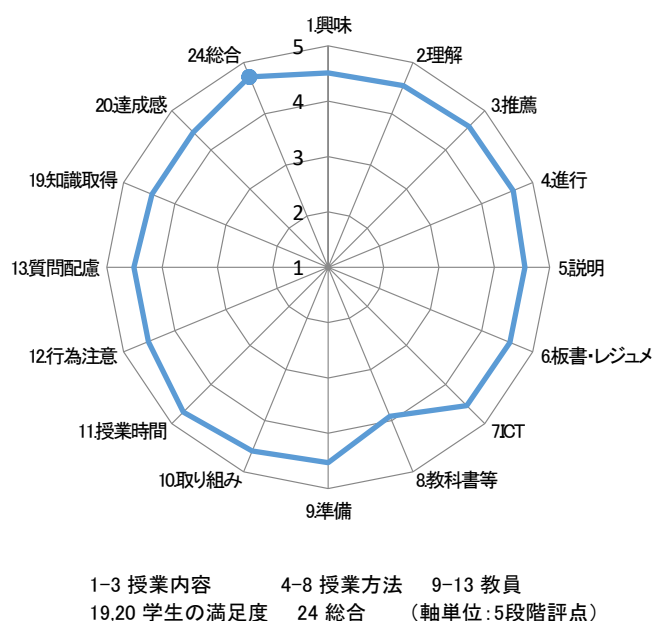
「OTとは画面越しだったが今回で交流があって楽しかった」「PTとOTが唯一関わった授業で、レクリエーションの内容もとても楽しかった」「PTの人とは一緒にグループで出来なかったけどOTでグループを作ったことによってより仲が深まったのではないかなと思った。それぞれのレクリエーションが楽しくこれから活かしていきたいなと思った」「オンラインでもレクは出来るということが分かった」「グループみんなで考えることによって絆が深まった」など、制約のある中でも積極的に学生同士が学ぼうとする姿勢を伺うことができた。

一方で、「グループでレクリエーションを考えるのは楽しかったが、学びとしては少なかったのもう少し座学の授業をしながら患者さんへのレクリエーションを学びたかった」「リモートでの実施が残念だった。全員で行える環境があればもっと楽しい授業になったと思う」「教科書を全く使わなかったので、使うか買わないかの選択をして欲しい」との意見も挙げられた。イレギュラーな形態の中、受講生には不便を強い1年であった。今後の課題である。

◆今後の改善に向けて

今年度は、感染症対策で、PT、OTの2クラスを各ホームルームで同時に実施し、双方の教室をオンラインで接続して、交流を促した。教員は双方の教室を行き来した。このようないつもと異なる状況の中で、例年行っているミニレクチャーがほとんど行えなかったり、教室の制約により教科書に掲載されているレクリエーションが実施できず、結果として教科書を十分に使うことができなかったりと、多くの制約を伴う場面が多く、受講生には不便を強いと考えている。しかしその中でも、教員、学生ともにできることを見つけ、実行できたことは収穫である。

次年度は、クラス別の実施となる予定である。クラス間交流という目的を果たすことができなくなるが、与えられた環境で最大限の成果を得られるよう、今年度の経験を存分に活かしていきたい。



科目名

9. 外国語 1 (英会話)

担当教員

James Higa

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

50名

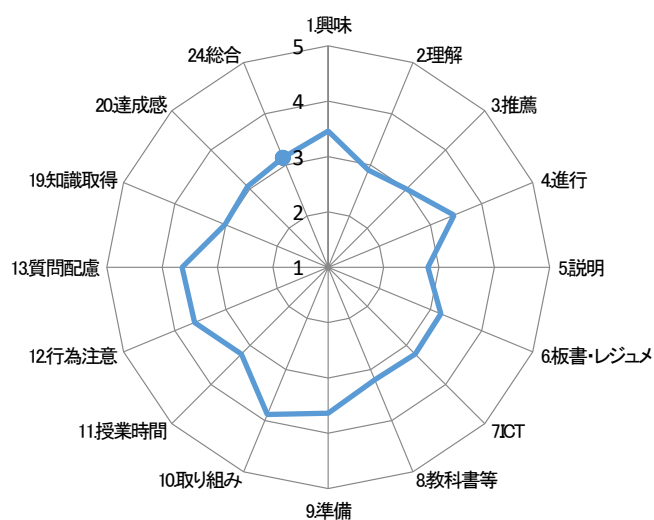
◆集計データ結果について

It seems like the students have been satisfied with the English lessons. One objective of the class was for the students to interact among themselves using the English that they felt comfortable using. For most of the students, their attitude towards speaking English in class seemed positive.

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

The students tried their best to understand the contents of the English lessons. However, because of the all English content of the class, some students could not keep up and felt お互いに伝わらなくて、困ることがよくあった。In general, the students communicated and used the English they know and did very well.

I appreciate the students' honesty and the time they took to fill out the class evaluation.



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

I am grateful for the honest comment that the student's made.

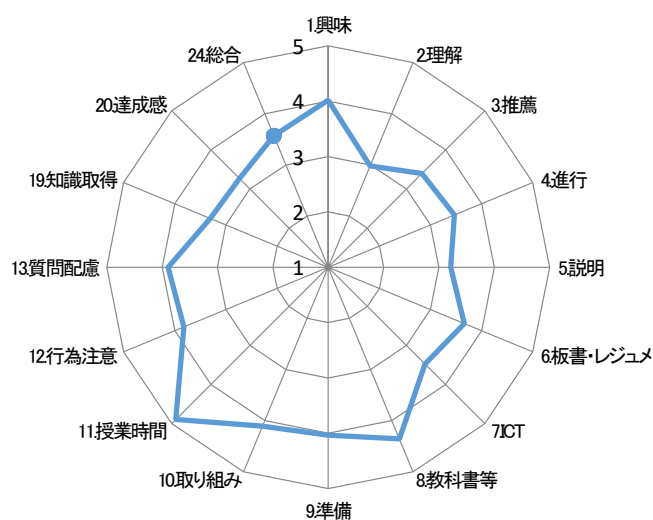
The students gave some useful feedback and I appreciate it very much. Will try to incorporate the suggestions into my future lessons.

◆集計データ結果について

今年はオンライン授業だったせいか、授業が早く進みすぎたようです。多くの学生の評価です。対面授業の方がわかりやすいとの意見でした。教える側も学生と対面授業をする方がやりやすいです。オンラインでは一方的で、学生の反応がわかりません。授業をさぼって、ついていけなくて困っている学生も何人かいました。学生からの質問には答えていたつもりですが、全部の質問ではなかったようで、そのパッシングが多かったです。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

いつもは、会話とハングルをしていましたが、今年はオンライン授業で会話を全くしませんでした。会話は楽しい授業の時間ですが、今年はできなくて残念でした。ハングルを勉強するだけの授業で硬くなりました。オンライン授業でしたが、楽しく韓国語を学んでくれた学生も多くいたので良かったです。8回の授業が終わって、韓国語を学ぶことができて嬉しいような学生の顔を見るのは、いつも嬉しく、やりがいを感じます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

韓国語の授業は8回だけですから、1回目からハングルの勉強をしなければなりません。1回目の授業を休むと、授業についていけなくなるので、韓国語の授業を選択する学生は必ず1回目から休まず参加することが必須です。今年1回目の授業を聞かなかった学生は、最後まで授業についていけません。また一時間半の授業で勉強することが多いので、休まず参加することが大事です。今後はオンライン授業であっても会話をしていく方がいいと考えています。

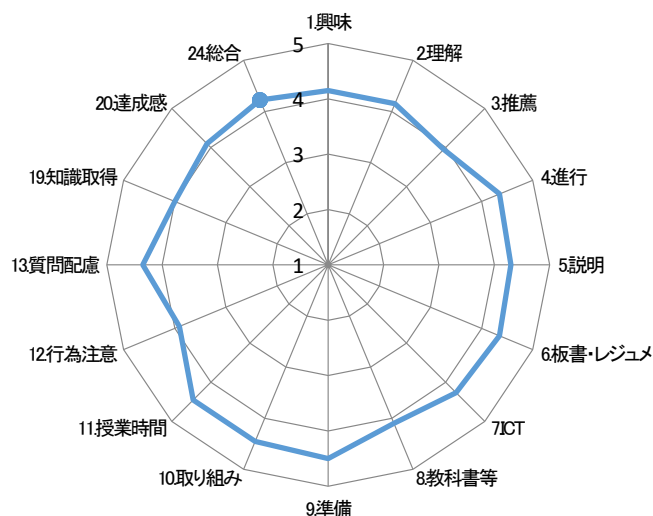
◆集計データ結果について

集計結果の各設問において

- 質問15「理解できない点などを質問しましたか」に対し、質問をしていないとの回答者が半数以上いました。授業の後質問時間を設けて5人ぐらい質問してきましたが、もっと全員に質問しやすいよう工夫するのは今後の課題だと考えます。
 - 質問17「この授業1回につき、予習にどのくらいの時間をとりましたか」と質問18「この授業1回につき、復習にどのくらいの時間をとりましたか」に対し、一時間未満との回答者は半数以上いました。新しい言語の発音と基礎文法を学ぶ時、授業以外の予習と復習が必要です。皆さんは毎日医療の勉強で忙しいとのことを伺いましたので今後短時間で予習と復習ができるように取り込んでいくと考えております。
 - 質問21「この授業の授業到達目標を知っていましたか」と質問22「この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか」に対し、知らなかったと達成できなかったとの回答者が半数以上いました。
- 近年メディカルツアーで来日した中国人や中国人の留学生や中国からの観光客がどんどん増えている中で、医療現場で中国語や中国人とのコミュニケーションが身近な物になってきていると伺いました。将来医療従事者としての皆さんに第二外国語として中国語を勉強する必要性を伝え、広い視野で外国語の勉強に取り組んでもらえるよう意識付けをしていくことが今後の課題だと考えます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

- 中国の文化にも触れることができて嬉しかったということが伝わってきました。
- 一方でプーチ会話の例文などを習った時に、周りの友達など実際に例文を使い会話をしてみたりすると良いと思うとの声もありました。コロナの状況を見ながらできる限りにいろんな形の練習をしながら授業を進めていくことが課題だと考えます。
- もう少し医療に関する中国語を勉強したかったとのコメントを頂いて大変嬉しかったです。今後医療現場で使える単語や会話を取り入れて新しい授業を進めていくことを考えております。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

- 中国語の発音が一番大事なもので、今後も引き続き発音の練習を重視した上で実用的な基礎会話を学んでいただきます。
- 授業到達目標やこの授業科目がディプロマポリシーとどのような関連があるかについて、今後もっと明確に生徒さんに説明し、皆さんの学習モチベーションを高めて授業を進めていきたいと思います。
- 医療関係の会話内容を取り入れて、私の知っている来日及び在日中国人の医療関係の話を紹介しながら、中国語授業へのモチベーションや大学生としての学習意欲を高めるような授業を行っていききたいと思います。

◆集計データ結果について

「興味」「理解」「推薦」「進行」「説明」「板書・レジュメ」「ICT」「教科書等」「準備」「取り組み」「授業時間」「行為注意」「質問配慮」「知識取得」「達成感」「総合」の各項目については、いずれも4前後の評価であった。コメントシートを通した学生とのコミュニケーションにより、授業内容や授業形式を流動的に変更したことが評価に影響したと考えられるが、今回の集計データをふまえより改善を目指したい。本授業は教養系の科目であるため、とくに「興味」「理解」「達成感」などの向上を目指したい。一連の項目の中で比較的评价が低かった「行為注意」については、今回はオンラインのためなかなか授業態度が把握できないという問題があった。来年度以降に対面授業が実施される際には、とくに配慮したい。

また、質問や予習復習をした学生が少ないのが目立ったため、これらの点は優先して解決すべき課題である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「オンライン授業の分かりやすさ」「具体例や経験談の多さ」「コメントや質問の共有」への評価が目立った。これらは、毎回のコメントシートでの学生からのフィードバックをもとに確立していったものである。学生とのコミュニケーションが比較的円滑な授業運営につながったと考える。学生のコメントを共有することは「自分のが読まれた時嬉しくなるのががんばって書こうと思った」という意欲につながるケースがあったため、来年度以降も積極的に実施していきたい。また、授業では学生に寄り添うために自身の経験談を話すこともあったが「率直におっしゃっていただけているのだとわかり、好感がもてました」などのコメントがあり、オンライン環境下での信頼関係構築につながったと考える。

他方で、「オンライン授業のため質問がしにくかった」「もっと図があればよかった」「オンラインなので集中しづらかった」等のコメントもあった。これらは配慮しきれなかったため、来年度に改善したい。

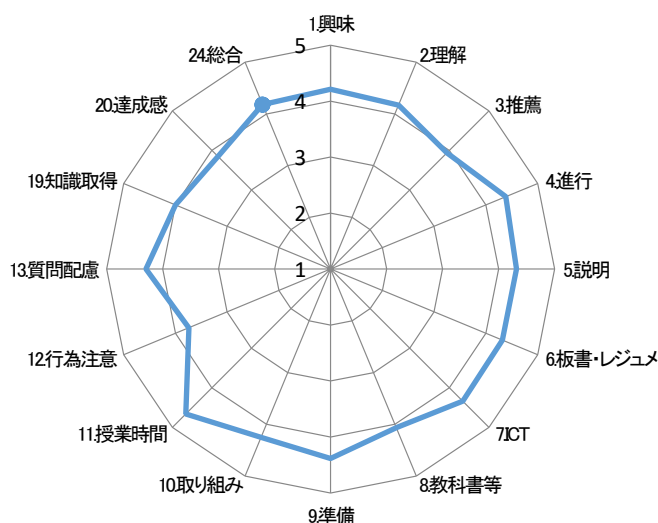
◆今後の改善に向けて

まずは学生とのコミュニケーションを一層緊密にし、期末の授業評価アンケート以前の授業期間中に、可能な限り授業改善への意見を収集できるように努めたい。それによって、より臨機応変に授業内容・形式を変え学生の満足度を高めていきたい。

集計データ結果の全般的な向上を目指す、とくに「興味」「理解」「達成感」などを向上させるため、今年度のフィードバックもふまえ講義の内容と時事問題や学生の身近な経験とを関連させる、積極的に動画や写真、図などを活用するなどの工夫を図りたい。

質問に関しては、授業中にもコメントシートにも機会を設けていたが、なかなか質問できなかった学生がいたことがわかったため、質問例を出したり、他の学生の質問を共有したりして発言しやすい空気づくりを心がけたい。またオンライン授業が実施される際は、数分の休憩時間を入れるなどして学生の集中力維持の工夫もしていきたい。

予習復習をする学生が少なかったことについては、課題を出す、予習復習の仕方を助言するなど改善していきたい。



1-3 授業内容

4-8 授業方法

9-13 教員

19,20 学生の満足度

24 総合

(軸単位:5段階評価)

◆集計データ結果について

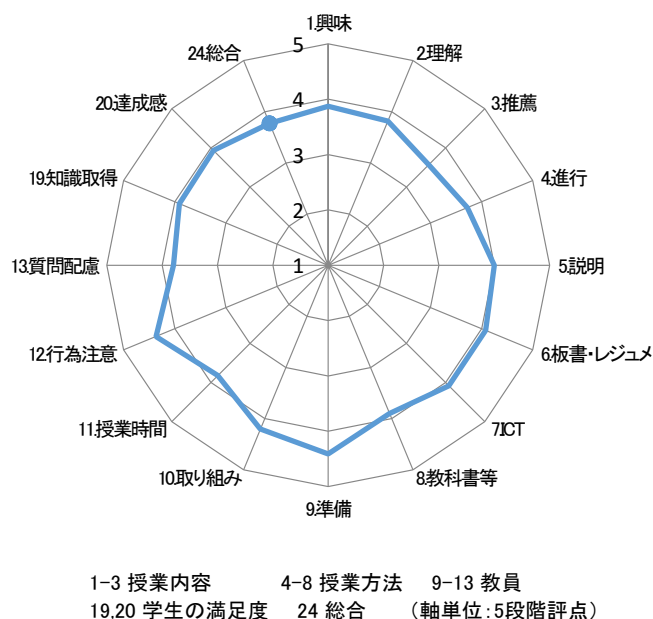
昨年度より、すべての項目において数値が低下している。新型コロナの影響でグループワークなどは縮小せざるを得なかったが、講義の内容や進め方は基本的に昨年通りであった。そのため、数値が低下している理由はあまり思い浮かばないが、考えられる理由は以下のことである。「① 昨年より評価そのものに対して学生の出す点数が低くなっている」「② 昨年に比べ学生の質が大きく変わり、授業そのものに対する捉え方が変化している」「③ 前期の授業にオンラインでの授業だったので、対面式で90分行う授業に集中しきれず、興味を失った」などである。その他にも「後期の専門の授業であっふあっふの状態になっており、専門外の授業から目がそれがちになっていた」ことも挙げられる。60人近い受講人数に対してアンケートに答えた人数が40名ほどで、提出されたアンケートに無回答のものもあり、どこまで正確に数値ととらえてよいか疑問が残るが、それでも、結果を真摯にとらえて来年度に向け、学生に興味を持ってもらえるような授業の検討を進めたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「解剖学や生理学と関連づけながら学ぶことができた」「資料や映像をみせていただけたのでわかりやすかった」「プリントがすごく分かりやすかった」などがあり、集計データの結果に比べ、自由記載の内容は例年の結果に近い。半面、「当てる人に偏りがあって不公平だった」「当てる人が固定しすぎていた」などの記載が今年は複数あった。集中が途切れぬよう後ろの席の学生をいつもあてたり、前の席の学生と対話しながら授業を進めたりするのだが、本年はコロナの影響で講義全体を通して席が固定されていたので、例年に比べそうに感ずる学生がいたのだろう。しかし、このような感想は少し前までの学生なら思っても言わなかったと思うが、思ったことを素直に述べる学生が増えたものだと感じる。講義の終わりにアンケートを書くまでの時間が長すぎたグループがあったせいか、どう考えても私の講義についてではないことも複数書かれていたり、講義の中で何度も話していることをまったく聞いていないと思われる内容も見られ、残念な思いもあるが、「コロナ禍でなければ対面授業が望ましいと感じた」という意見には救われた。

◆今後の改善に向けて

本年度は、コロナウイルスの感染拡大防止のため、受講者を2分割して後期の前半と後半に分けて講義を行うことになった。また、座席が固定され、自由に移動できない状況下で、グループワークなどできない状況となった。それ以外は例年と同様に講義を行うことができた。アンケートの結果については、自由記載の内容では例年とあまり変化がなかったが、集計データから見ると、例年に比べあまりよくないものであった。上記「集計データの結果」で述べたように、その原因についてはあまりよくわからないが、今年の1年生は前期にテレビを見ているようなオンラインの講義に慣れ、集中する時間も長く密度の濃い対面式の講義に慣れないままのような気がする。オンライン講義だと集中力を保って聞いていなくても済んでしまい、気楽な講義の受け方が身についてしまっているのではないのか。そのため、対面式となっても講義で言ったことが例年に比べ伝わっていない気がする。とは言え、状況に合わせて講義の形式を変えていく必要もあるので、今後、この結果をさらに検討し、来年度の講義を組立てていきたい。



◆集計データ結果について

前半はオンライン、後半は対面での授業形態となった。

各項目は3点台後半から4点台半ばの範囲であった。理解できないことに関する質問をしたかの問には、70%強の学生が質問をしていない。今回は、オンラインでも対面でも授業後に振り返りシートを提出し、質問も受け付けていたがあまりなかった。授業内容としては、大学での学び方についての内容であったため質問もしにくい点はあったと思われる。予習に関しては60%が全くなし、復習は30%が全くなしの結果となった。その場で考える内容が多かったための結果と考えられる。DPとの関連性や授業の到達目標の理解はともに50%前後が、知らないや達成できていないと答えている。大学生の授業を受けていく上でDPを授業の中で確認をしたが、この科目自体の位置づけとして認識がされにくかったと考えられる。ほか科目で達成できることを期待したい。

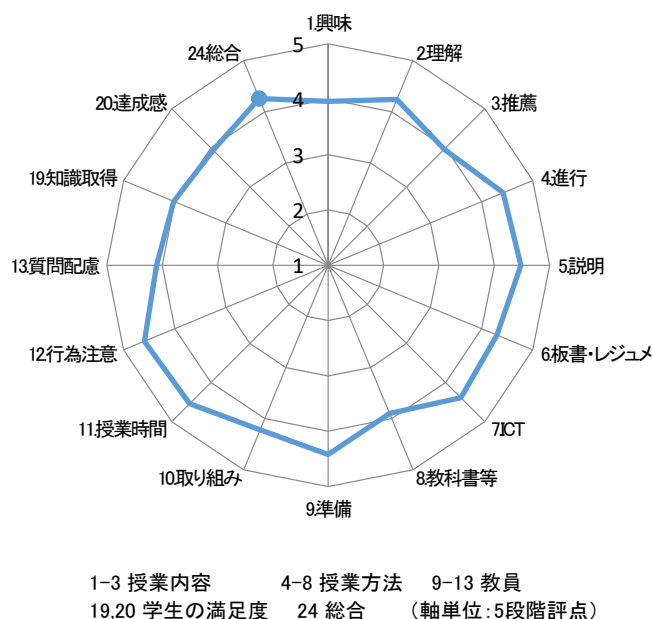
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

対面が可能になった時点で、グループワーク的な要素を取り入れて実施した。お互いに意見交換できた点の評価は良かった。今年度は特にお互いに話す機会が少なかったためコミュニケーションをとるきっかけになったと考えられる。資料の提示もしたが、提示内容が不十分であったとの意見が見られた。考えたり、調べたりするためのきっかけとなることを期待したが、適切な量については検討したい。オンラインでの授業では、意識的に進捗をゆっくりにした。その辺りは、理解しやすさと聞きやすさとして評価があった。また、臨床の話を混ぜることで、再度職業としての理学療法士を目指すことにつながったとの声があった。今後も継続していきたい。レポート課題を課したが、提示方法に問題があったため今後の課題である。

◆今後の改善に向けて

この科目は、1年次の前期に開講し本学での学びの意味や学び方の基礎を学ぶ授業としてとらえている。高校までの授業の受け方をシフトしていく重要な時期であるため、まずは社会からどのような人材が求められているかを自覚することを目標に、いろんな視点、考え方、意見のまとめ方の基礎を中心に展開した。

授業の準備として、題材と提示資料について検討が必要である。様々な考え方を持つ人がいることを理解し、その中で協働し、結果につなげるための人間関係の作り方、また自身の能力の高め方の基礎が身に着けるような内容を検討したい。レポートを課題とした。課題の提示が正確に伝わる方法が取れなかった点は反省点である。早めの提示により解決できると考える。授業の内容としてはコミュニケーションをとることは重要であるので、対面での授業が望ましい科目であることが確認できた。



科目名

15. 教養演習

担当教員

山下英美 ・ 横山剛 ・ 高田政夫

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

35名

◆集計データ結果について

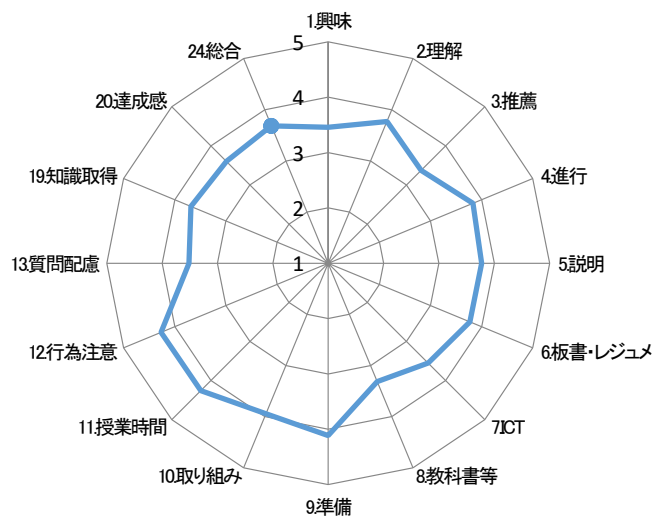
ほとんど3点台という結果でした。一部が対面授業でしたがほとんどがオンライン授業であり、1時限75分間の設定であり、本来予定しているものが十分にはできず急遽の変更で内容的に不備がありましたこと申し訳なく思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学習計画立案、実施のプログラムも含めていましたが、すでに学習計画立案時の自身が注意することなどについてお手知っている学生には物足りず何のための授業かわからない、といった意見があるように見えます。この辺りについて個別に対応するなど配慮してきましたが、必要ない時間であると認識されているようで残念であります。

◆今後の改善に向けて

大半がオンライン授業であったとはいえ、学生同士が知り合い、分かち合える授業を展開するべきでありました。その点を反省してオンラインにも十分に対応できる授業計画を継続していきます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

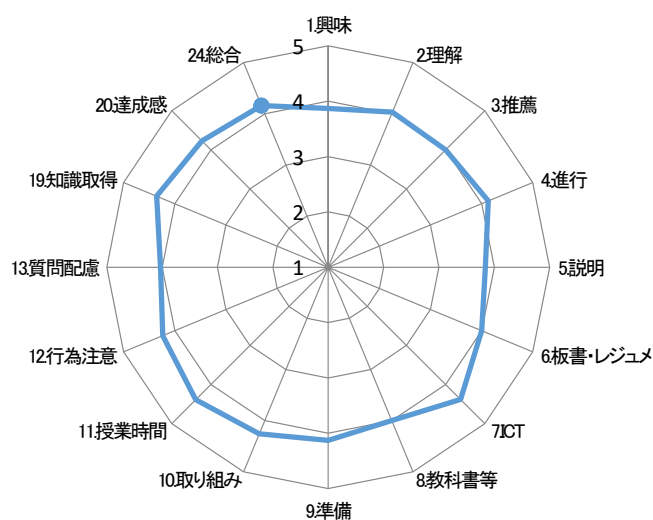
◆集計データ結果について

各項目3点台後半～4点台前半の結果であり、大きく課題となる項目はない。「興味」、「説明」の項目がほかの項目に比べて若干低かった。学生の取り組みとして、「目標を意識できた」、「どちらかといえばできた」を合わせ7割以上の回答であり、「熱心に取り組んだ」、「どちらかといえば取り組んだ」を合わせ8割以上の回答があった。集中して取り組めていたと考えられた。一方で、ディプロマポリシーとの関連性を理解できていないとの回答が7割あり、課題であると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学習環境や、グループワークについて肯定的な意見が多くみられた。学生自身の取り組みについても肯定的な意見が見られた。一方、新型コロナウイルス対策対応をした学習環境面に対する不満の意見もあった。時間の使い方の意図が十分理解できていなかったと思われる意見も見られた。

おおむね実施方法に問題はなかったと考えられるが、感染症対策を実施する必要があるため環境面への配慮を引き続き検討する必要がある。また、集計データの結果とも重なるが、ディプロマポリシーとの関連性の理解が不十分であると考えられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

実習を終えた学生が、学習の総復習をすること、理学療法士として社会貢献していく心構えを再度意識する時期である。グループワークによる学習を効果的に実施し、各自の知識の整理とコミュニケーションを通しての人的成長については引き続き図っていく。

目的を周知することを通して、ディプロマポリシーを意識付けし、目標に向かった学習時間の確保につなげたい。グループワークによる効果をしっかり説明することで、グループワークを有効利用した取り組みの工夫をしていきたい。

環境面においては、なるべく一人ひとりの学習しやすい環境に配慮しつつ、学習進度の違いや学習方法の違いを学生自身がお互いに理解し、解決に向け自発的な行動ができるよう促すことも検討課題である。

科目名

17. 教養演習

担当教員

高田 政夫 ・ 山下 英美 ・ 横山 剛 ・ 加藤 真夕美 ・ 清水 一輝 ・ 松田 裕美

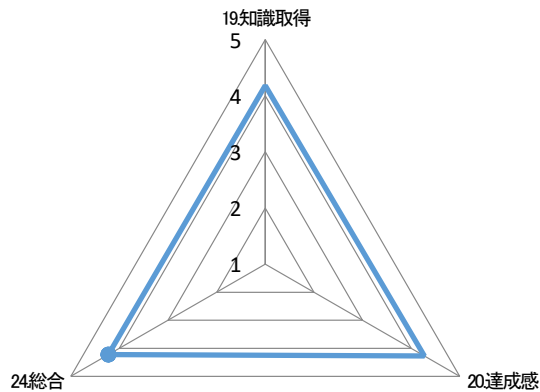
専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

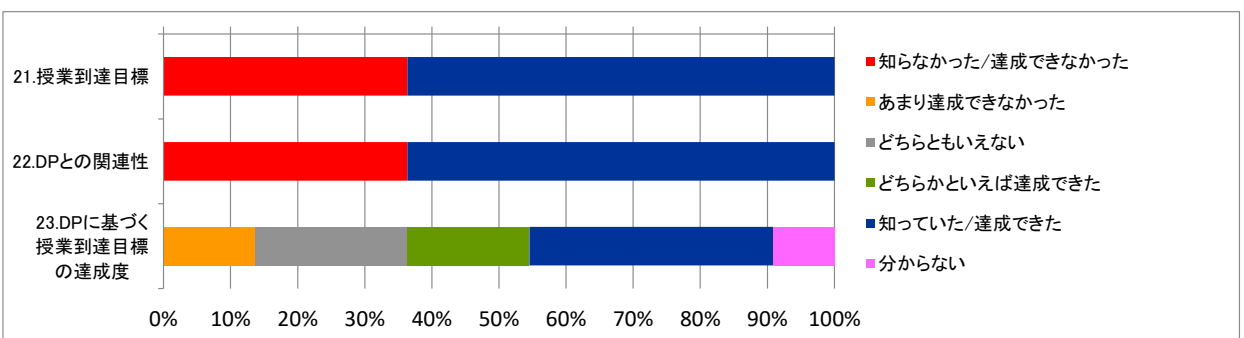
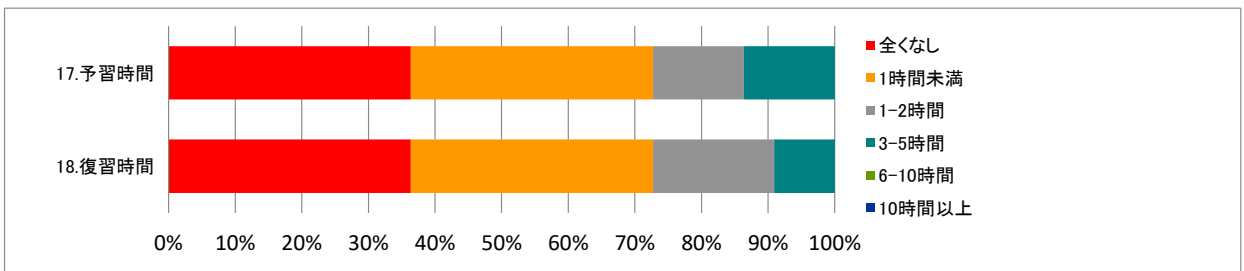
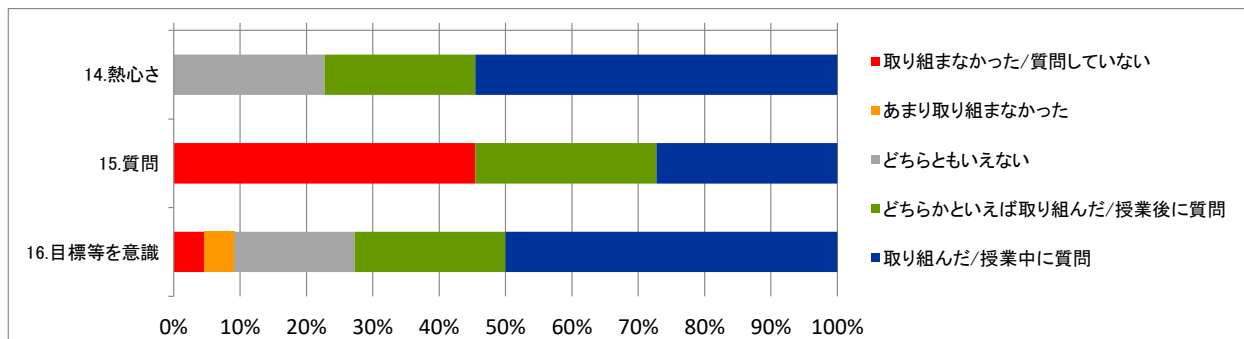
22 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



◆集計データ結果について

大きくばらついた結果となりました。入学後すぐの基礎科目でしたが、オンライン中心となったため、課題を中心としたスタイルとなりました。おそらく、「授業を受けている」という感じはなかったと思いますので、このような結果となるのは理解ができます。しかし、その方法をとる目的や、意義は最初に丁寧に説明したつもりです。大学の授業とはすべてが「与えられる」ものではないと思います。与えられた課題をこなすことを目標にすると、課題量は膨大であったと思いますので(それは、分かっています)、つらいばかりだったかもしれません。理解して取り組んでいただけた人は「自ら学ぶ」経験を積み重ねていったのではないかと思います。

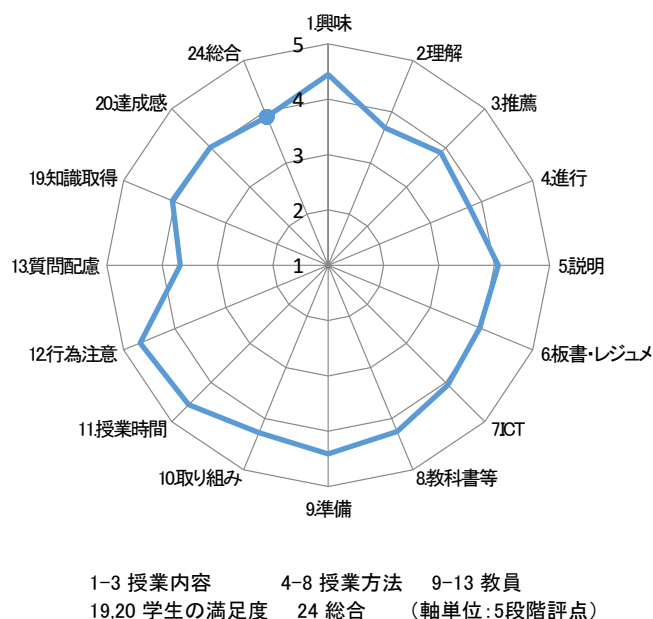
対面授業であったとしても、課題を中心とした授業スタイルは行おうと考えていました。でも本音を言えば、対面授業であれば、もう少し皆さんの理解度を確認しながら、分かりにくいところを説明することはできたかな、と思っています(一部、対面授業で行いましたが、あんな感じです)。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載も「授業を受けた感じがしない」「課題に迫られて大変だった」という人と、「何度も繰り返して行える形の課題だったので、よかった」「自分で確認しながら進められたので、理解できた」という人に大きく分かれました。これは予想通りの結果でしたが、やはりもう少し「理解しづらい」という人たちに対して、フォローできる手立てを考えるべきであったかと思います。ただ、質問は毎回の振り返りシートで受け付けていましたし、個別にメールで質問してくれる人もいました。ほとんどは、何らかのヒントは示したはずで、必要なものは、相手から与えられるのを待つのではなく、自ら手に入れるための行動を起こすことも大切なことだと思います。

◆今後の改善に向けて

解剖学を含め、基礎科目の授業は内容も多く、また医学の基礎となる部分なので、とても重要です。今回は授業スタイルもいつもと違う形でしたので、皆さんのご意見もそれをふまえて考える必要がありますが、今後も皆さんに分かりやすく伝わりやすい授業を行えるよう、参考にさせていただきたいと思います。

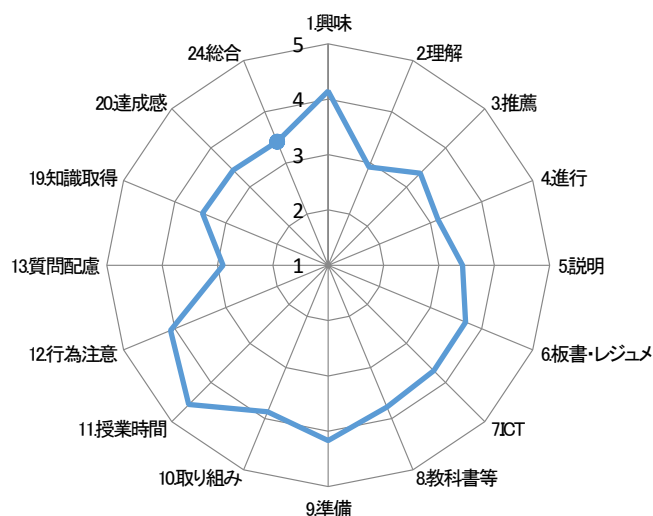


◆集計データ結果について

総合評価において、評価が5段階評価の3.41であり、評価は普通である。今回の評価では、「理解」「質問配慮」の項目が全体の評価に比べて低くなっている。遠隔授業であったため、学生側への通信環境の配慮などもあり、動画のリアルタイム配信を出来る限り短くし、課題や小テストで対応したために理解が難しかったと考えられた。また、授業が進むに従い、授業範囲も広がったため、1回の授業では補いきれなかったことも要因であると考えられた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この授業では前期で解剖学の全範囲を終えるため、予習・復習がしやすいように教科書に沿った授業を行った。また、その日の授業ポイントが予習や復習ができるように授業資料を準備し、終了前には小テストも実施した。しかし、どうしても説明する時間が短くなり、放置されていると思う学生もいたようであった。質問は24時間受け付け、毎回の授業振り返り時の質問にもメールにてすべて返信して解説したが、授業時にもっと丁寧に解説してほしいと思う学生が多いようであった。試験については、他の科目と重ならないように配慮した。授業終了時、学生からの質問は毎回同じ学生からが多かったため、学生自身で疑問に思うことは積極的に質問してほしい。次年度も遠隔授業となることも考え、もう少し授業を工夫して行いたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

小テストの振り返りは、学生からの評判も良かった。次年度から①授業開始前にキーワードを配布し、予習・復習をしやすいように、②小テストを実施する、③様々な資料を学生に見せて、文字ではなくイラストや写真のイメージを残すようにするなどの改善を図っていききたい。
解剖学は暗記になりやすいが、理解する授業を行っていききたい。

◆集計データ結果について

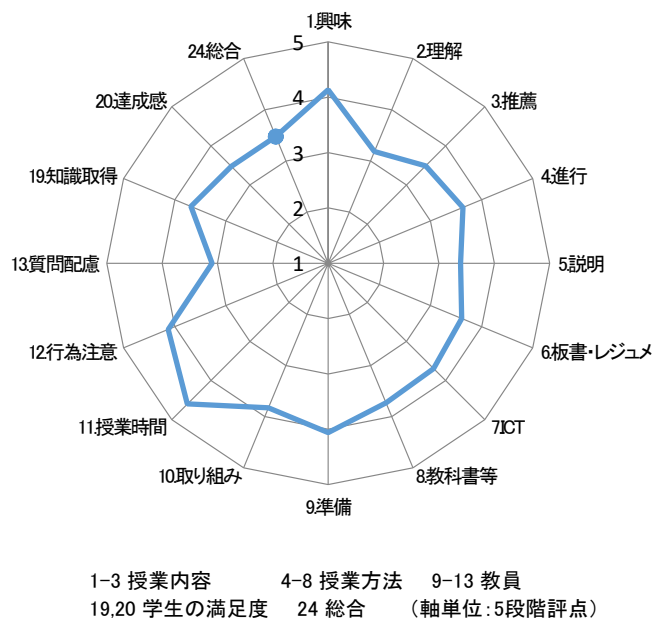
総合評価において、評価が5段階評価の3.47であり、評価は普通である。今回の評価では、「理解」「質問配慮」の項目が全体の評価に比べ特に低くなっている。遠隔授業であったため、学生側への通信環境の配慮などもあり、動画のリアルタイム配信を出来る限り短くし、課題や小テストで対応したために理解が難しかったと考えられた。また、授業が進むに従い、授業範囲も広がったため、1回の授業では補いきれなかったことも要因であると考えられた。解剖学Ⅱと同じように講義を行ったが、解剖学Ⅲは解剖学Ⅱの授業が終わった後でおこなったため、学生も慣れて評価が解剖学Ⅱに比べ良くなったと考えられた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この授業では前期で解剖学の全範囲を終えるため、予習・復習がしやすいように教科書に沿った授業を行った。また、その日の授業ポイントが予習や復習ができるように授業資料を準備し、終了前には小テストも実施した。しかし、どうしても説明する時間が短くなり、放置されていると思う学生もいたようであった。質問は24時間受け付け、毎回の授業振り返り時の質問にもメールにてすべて返信して解説したが、授業時にもっと丁寧に解説してほしいと思う学生が多いようであった。試験については、他の科目と重ならないように配慮した。授業終了時、学生からの質問は毎回同じ学生からが多かったため、学生自身で疑問に思うことは積極的に質問してほしい。次年度も遠隔授業となることも考え、もう少し授業を工夫して行いたい。

◆今後の改善に向けて

小テストの振り返りは、学生からの評判も良かった。次年度から①授業開始前にキーワードを配布し、予習・復習をしやすいように、②小テストを実施する、③様々な資料を学生に見せて、文字ではなくイラストや写真のイメージを残すようにするなどの改善を図っていききたい。
解剖学は暗記になりやすいが、理解する授業を行っていききたい。



◆集計データ結果について

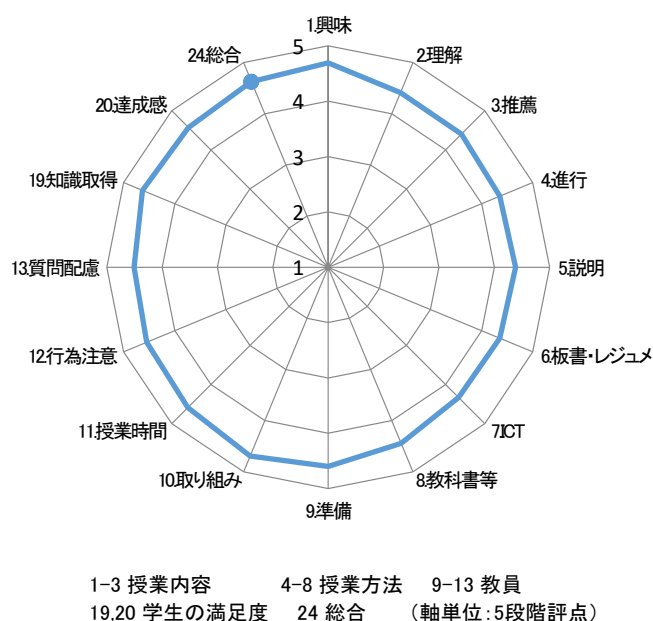
集計結果より、本科目は授業内容や方法、学生の満足度として概ね高い評価が得られたと言える。コロナ禍のため、前半は授業を録画してのオンライン形式をとった。骨模型も使用しながら動画を準備したが、やはり十分伝わらないことがあり、今後もしオンラインになった場合でも更なる工夫が必要と考える。また、質問をしていない学生が20%であり、今後はGoogleフォームへの回答だけでなく適宜質問はないか問いかける等の工夫も必要かもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目は実習科目であり、本来であれば実際の骨を触り部分名称を把握したり、献体の見学により人体の構造を理解することが目的であるが、コロナ禍のため、実際に骨を触って学習する時間の減少や見学の中止により実習機会が少なかったことは自由記載の通りと言える。授業内では、3次的に捉えられるよう工夫した声かけを教員から行うなどの工夫を行った。今年度は骨デッサンではなく、教科書の図表をみたデッサンとなったため、本来のデッサンの魅力である実物を3次的に捉えて模写するという形が取れなかった。このことについて、自由記述において不満が幾つか寄せられた。骨デッサンの方法等についても、今後の情勢に合わせて検討していく必要があると考える。

◆今後の改善に向けて

今後も可能な範囲で実習機会を設けられるよう工夫を続け、自宅での学習や教科書に掲載されている骨などの3次的な捉え方について学生が理解していけるよう教示法を工夫していく。また、学生が質問しやすい環境やツールの整備を図っていく。



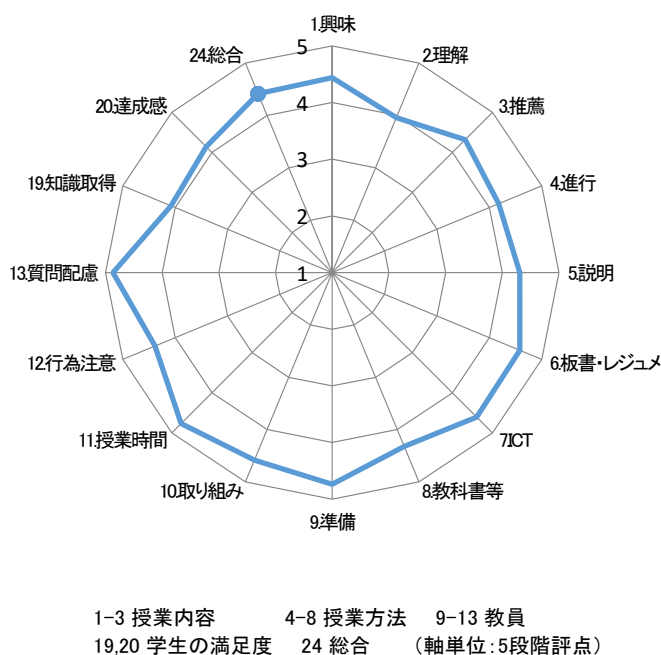
◆集計データ結果について

総合点が、4.4点と良好であった。項目別では、理解が平均3.9点、その他はすべて4点以上であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業前に、学習ポイントを明記した予習ガイドと、要点を示した予習スライドの配信し、授業前までに、学習ポイントに関連した予習課題に沿って予習内容を報告させた。授業では、音声入力した授業スライド配信、Meetでのリアルタイムでの質問&解説、授業約1週間後、復習の確認のため小テストの配信を行った。

学生からの自由記載の中で良かった点として、予習ガイド、スライド内容、音声スライド配信、スライド資料の配布、質問のしやすさ、予習してから授業があることなどが、多数あがっている。要望として、要点がわからない、スライドの音声が悪い(早い、遅い、小さい)、小テストの答えが欲しい、などがある。



◆今後の改善に向けて

急にオンライン授業をすることになり、自己学習(予習と復習)+解説付きスライド動画とリアルタイムのMeetを使った質問&解説という形で、授業を組み立てた。予習は、予習スライド動画と予習ガイドを配信し、教科書を読んで自己学習し、授業前までにgoogleフォームで予習の報告をさせた。授業では、授業スライド動画を視聴後、Meetにて、予習内容と合わせて学生からの質問や確認事項を受け、解説した。授業後は、各自で復習し、約一週間後、復習確認小テストを配信した。

オンライン授業だったが、学生からの評価は良好だった。予習後の授業スライドは理解がしやすく、予習→授業→復習というサイクルで勉強できたようである。1名からは、自宅での授業だったので集中できなかったというコメントがあったが、スライドを1週間程度視聴できるようにあったので、自分のペースで勉強できたことをメリットにあげた学生が多い。

要点が分からない、という学生がいた。学習のポイントは、予習ガイドに示してあり、スライドも学習ポイントに沿って解説している。予習ガイドを見ていない学生かもしれない。

スライドの音声に対する苦情も若干ある。手作業での録音なので、クオリティを上げるのは難しい。小テストは、スライドから出題しているので、配信したスライドやスライド資料を見れば、答えがわかる。小テストの答えが欲しいといっている学生は、スライドの視聴も復習もしていない学生なのかもしれない。

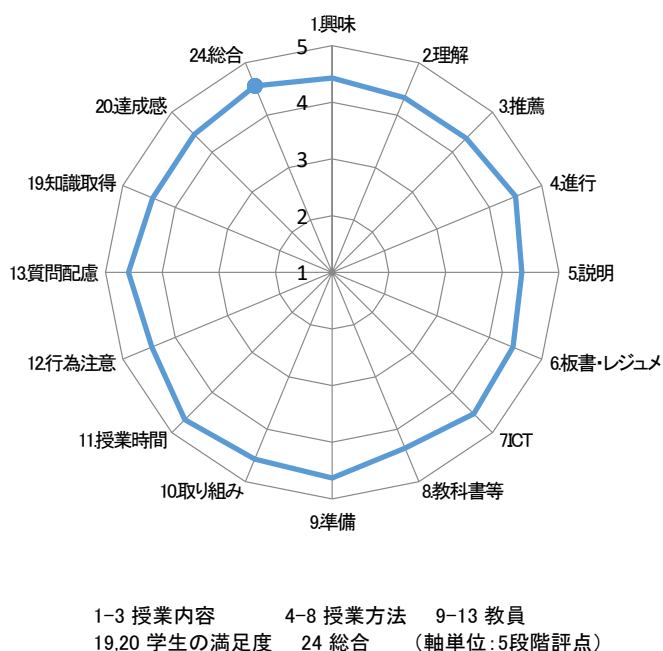
◆集計データ結果について

総合点が、4.6点と良好であった。項目別では、すべて4点以上であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業前に、学習ポイントを明記した予習ガイドと、要点を示した予習スライドの配布し、授業前までに、学習ポイントに関連した予習課題に沿って予習内容を報告させた。授業では、音声入力した授業スライド配信、Meetでの質問&解説、授業約1週間後、復習の確認のため小テストの配信を行った。

学生からの自由記載の中で良かった点として、予習ガイド、スライド内容、音声スライド配信、スライド資料の配布、質問のしやすさ、予習してから授業があること、オンラインなので自宅で受講できることなどが、多数あがっている。要望として、スライド視聴期間の延長、教科書の難しさ、予習フォームの評価の不満などがあつた。



◆今後の改善に向けて

生理学Ⅰと同じように、自己学習(予習と復習)+解説付きスライド動画とリアルタイムのMeetを使った質問&解説という形で、オンライン授業を組み立てた。予習は、予習スライド動画と予習ガイドを配信し、教科書を読んで自己学習し、授業前までにgoogleフォームで予習の報告をさせた。授業では、授業スライド動画を視聴後、Meetにて、予習内容と合わせて学生からの質問や確認事項を受け、解説した。授業後は、各自で復習し、約一週間後、復習確認小テストを配信した。

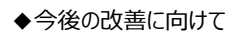
オンライン授業だったが、学生からの評価は良好だった。予習後の授業スライドは理解がしやすく、予習→授業→復習というサイクルで勉強できたようである。オンラインなので自宅で受講できることをメリットとしてあげる学生がいた。

スライドの視聴期間を授業後1週間とした。その点に関して、試験まで見れるようにしてほしいという意見が1名からあつた。対面の授業なら、スライドを使った講義は1回だけである。1週間の間、何回でも視聴できるようにすることは、どちらかというメリットであったと考えている。

また、教科書が難しいという意見もあった。予め知っておいた方がよいことや、要点は予習スライドで解説している。予習報告からすると、教科書を読まないで、ネットで検索して学習ポイントとは関係ないことを報告する学生が数名いた。教科書に従って予習するよう注意したが、なかなか改善しなかった。

◆集計データ結果について
総合点が4.3で、良好であった。個々の項目でも、4点以下はない。

自由記載には、良い意見として、「理解が深まった」、「協力して行うことの大切さがわかった」、「グループ学習のため、他の人の考え方を知ることができた」、「教員に質問しやすかった」などがあった。一方、良くなかった意見として、「班員の協力を得ることができず、一人でレポートを作っている人がいた」、「班の間に能力に差があった」、「頑張っている学生と何のしていない学生で同じ評価になるのはどうか」などの意見があった。



グループで、実習を行い、実習結果をレポートとしてまとめ、最後、実習班で発表した。グループ学習によって、理解が深まったり、協力して行う成果を実感している学生が多い。ただ、班員の中で、学習に対するモチベーションに差があると、苦労している。知識の共有をするよう、初回のコースオリエンテーションで丁寧に説明する。

班は、学生番号順に振り分けた。学生は、「班の間で能力に差がある」、と感じたようだ。昨年度までは、理学療法学専攻と作業療法学専攻の学生を混ぜて班を作った。今年度は、コロナ禍のため、専攻別に班を作成した。どちらにしても、成績順に並べて、班を作るのは難しいと思っている。

評価方法に関して、一人一人がレポートを作成して評価する方法もあるが、能力が低い学生は他の学生の力を借りて能力を高めて欲しいと思っている。それには、グループで協力してレポート作成や成果発表をする方が良いと考えている。

◆集計データ結果について

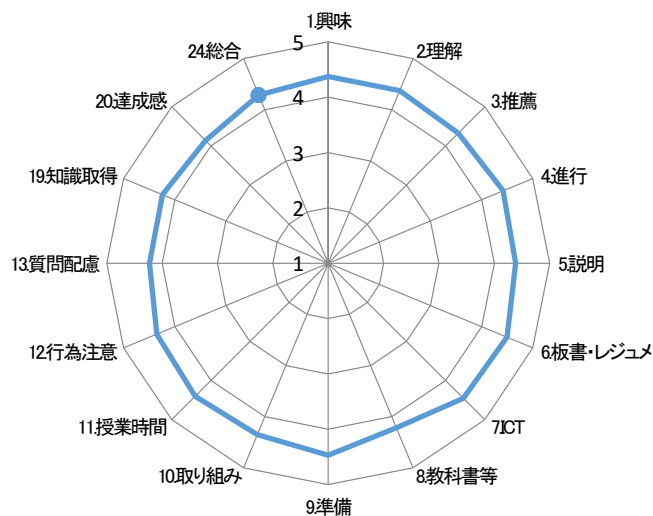
概ね良好な結果であったと認識している。

急な対面講義の中止など不測の事態もあったが、シラバスに記載したカリキュラムは全て完了したので一定の責任は果たせたと考えている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

配布資料のわかりやすさや説明の丁寧さなど、肯定的な意見が多い点は良かった。

「総論」であるので、わかりやすいということは良いことなのかもしれないが、高校の延長のような受講態度を促している側面もあると思われる。知識が提供されることを重要視するのではなく、自らが主体的に学ぶ場所であるという認識を促すことや自ら学ぶためのきっかけを与えることや、自分の力で物事を考える力を養うことを目的とした講義内容や形式も考慮すべきだと思われる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

新カリキュラムに変更となり、講義時間が7コマ分増加した。

コロナウイルスの影響により講義時間や方法が制限されたため、コマ数の増加に見合った内容が提供できたかは、やや疑問である。昨年度と比較すれば、時間数が増えた分、丁寧に解説することができたが、増加した内容(特に運動時の呼吸・循環・代謝)は、グループワークを中心に進める予定であったので、実施方法の大幅な変更が必要となった。

必要な内容はオンライン講義で解説したと認識しているが、初年度の学生にはやや難解な内容となった可能性はある。

グループワークが困難と判断した理由として、学生のネット環境や関連知識に個人差が大きいことが挙げられる。対面講義と並行できていれば、対応可能な問題であったかもしれないが、登校が難しい状況では対応ができない可能性が高かった。科目内で対応しきれない問題は疑問であるが、関係各所と協力して改善に向けて努力したい。

◆集計データ結果について

理学・作業1年生と数が多い中、オンラインで全ての授業を実施しました。授業の開始時に小テストを実施していたためか、予習、復習に多くの学生が1～2時間の時間を使っていました。小テストにより自分の理解度を確認できたとの声が多くありました。授業資料について、ギリギリまで内容を吟味していたこと、授業担当1年目で準備に時間がかかり配布が遅くなってしまったことは反省点でした。内容は見やすく、簡潔にまとまっていたとの意見を頂きました。授業に関連する動画やアプリを使用して、筋肉の動きを提示したことは好評であったようです。総合評価では約4.3点の評価を頂きましたが、今回いただいた意見を参考に、次年度に活かしていきたいと思ひます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

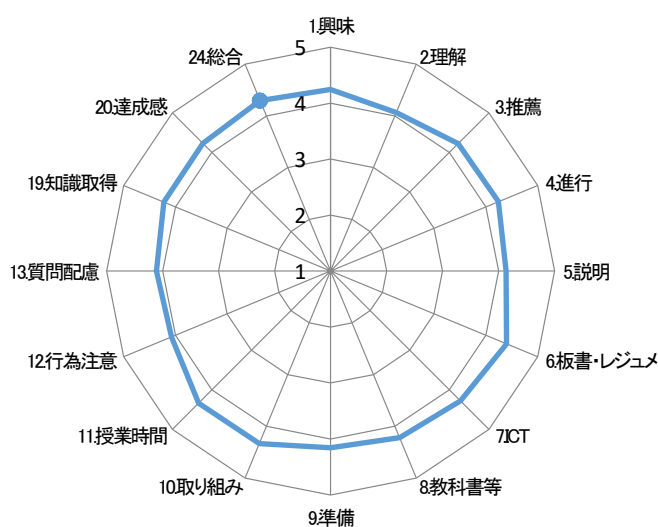
資料の配布が直前と遅くなってしまいました。次年度は、授業資料がありますので、内容を確認し、一部の変更程度で実施できると思ひます。3日前までに案内し、印刷したものを教室に置くように準備したいと思ひます。

授業の合間に、雑談を取り入れていました。授業に関連するもの、私自身が取り組んでいるものなど、臨床に関わることなどの内容でした。私が取り組んでいることについて、少し長かった、多かったとの意見を頂きました。適量を考え、学生が授業に集中できる工夫をしていきたいと思ひます。

オンラインのため、トラブルや音声に問題があったとの意見がありました。できる限り、学生に不利益が出ないように心がけ、必ず授業アンケートを毎回取っていますので、そこで意見を頂き、改善に努めてまいります。

◆今後の改善に向けて

事前に予習をするために、資料は3日前までに配布を心がけます。オンラインの授業では、90分集中することは難しいと感じています。適時、休憩をとり、授業に飽きることのないように、動画、雑談などを取り入れ上手に進めていきたいと思ひます。運動学は臨床においても、国家試験の出題についても重要な位置づけです。できるだけイメージしやすく、大切なところを明確にし、必要性についても説明し理解度を高められるよう工夫していきたいと思ひます。授業アンケートでは、多くの意見や質問がきます。これには的確に返答していきたいと思ひます。今年度は、学生に当てることはしませんでした。双方向の授業にしたいため、適時、対話の機会を作っていきたいと思ひます。



1-3 授業内容

4-8 授業方法

9-13 教員

19,20 学生の満足度

24 総合

(軸単位: 5段階評価点)

◆集計データ結果について

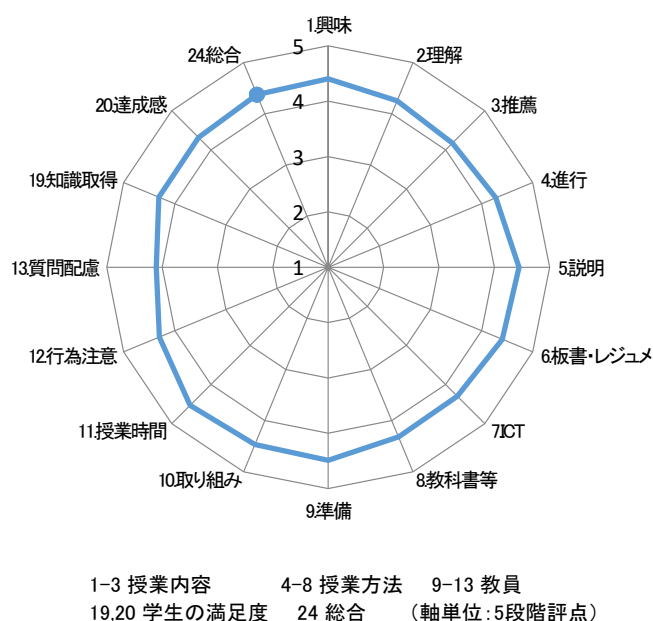
集計されたデータでは、全ての項目において4点台以上となっており、おおむね良好な結果を示した。熱心に目標をもって授業に取り組んだ学生が7-8割程度と多数を示したが、その一方で、質問に関しては5割強の学生が積極的な取り組みが行えなかったと評価していた。その結果を反映するように、項目ごとの点数では質問への配慮が最も低値を示した。また、授業に関連する予習復習に関しては、8割以上の学生実施できており積極的な取り組み姿勢を示した。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

全体の傾向として授業の内容に関しては、各教員共に非常にわかりやすいと評価された。特に授業資料であるスライド、配布プリントに加え、動画コンテンツ、実技を導入したことが好評であった。当授業では予習復習にレポート課題を課しており、その反応は学生によって異なった。課題を実施することで、多くの学生からは授業への理解が深まったと肯定的な意見がある一方で、負担が大きかったとの評価している学生の存在した。また、一部オンラインでの授業を実施したため、学生の反応が読み取れず、一部の学生から授業進行が早いとの意見が上がった。オンライン授業時の課題として今後取り組んでいく。

◆今後の改善に向けて

まず、予習復習として実施しているレポートについて、再検討を行う。一部の学生では、授業内容の理解度を深めるという目的が達成されず、レポート課題を出す事のみが作業的に実施されている傾向が認められた。次年度からは、レポート提出の回数を減らし、その代替として今以上に課題を明確化し、質の高い学習が進められるように調整していく。また、オンライン授業での進行速度が早いという課題に関しては、次年度以降は、全授業対面での対応を予定しており課題の解消に努める。さらに、オンラインで実施することになった場合でも、次年度からは、オンライン授業中の学生側のカメラを起動させておくことや、適切なタイミングで口頭にて学生の理解度を確認するなど細やかな配慮を実践していく。



◆集計データ結果について

ほとんどの項目で4点以上であった。「指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切であったか」の項目は若干低い結果となった。

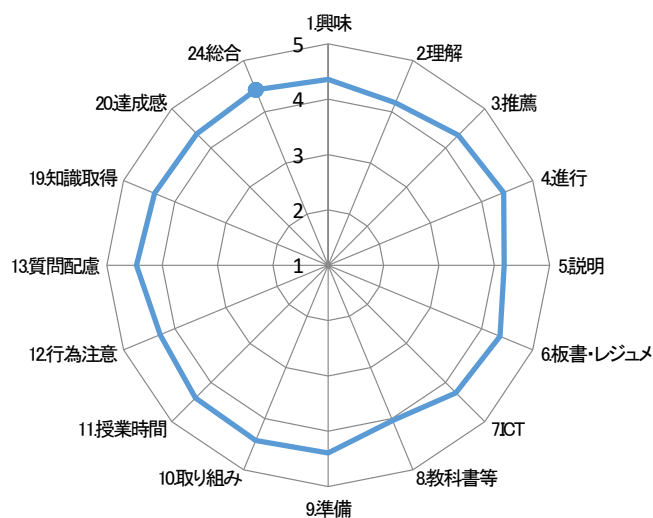
学生の取り組みとしては、7～8割の学生が目的を意識し、熱心に取り組んでいる。ただし、授業到達目標に関しては、理解できていなかったり、到達できていないと回答していた。

予習・復習については、6時間以上という学生もいれば、1時間未満という学生もあり個人差があった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実習科目であったことや、ほか科目との関連付けられた部分があったようだ。また、レポート課題に関しては、苦勞している様子を感じるが、そこから学べた学生がいた点は良かった。また、発表を通して、自身の不足部分に気づいた学生もみられた。実習課題は、別途プリントにて配布している。理解を深めるために文献の検索から利用までも含めまとめることを期待する。

一方で、グループで進めることによる弊害として、学生間で偏りを感じている学生も多かった。また、実験中のトラブルやうまく進まなかった点から、機器や教員への要望する意見もみられた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

1グループの構成人数が多くなってしまうことで、学生の中で偏りが生じやすい。偏りの生じ方が、やりたくてもできないというよりは、楽をしたいという方向になっているため負担が増えると感じている学生もいるようだ。実習を始める前に、実験を実施することがどのように役立つかを説明した上での結果であるため、各自がより主体的に取り組むための方策が必要だと考える。

機器を使用できることと合わせ、簡単に実施できる実験も組み合わせるなど、各自が役割を持ち、実施できる課題設定なども加えることを検討したい。

レポートを作成し、文章化する課題は、頭を整理し議論する上で必須の能力になるため、継続していく。

◆集計データ結果について

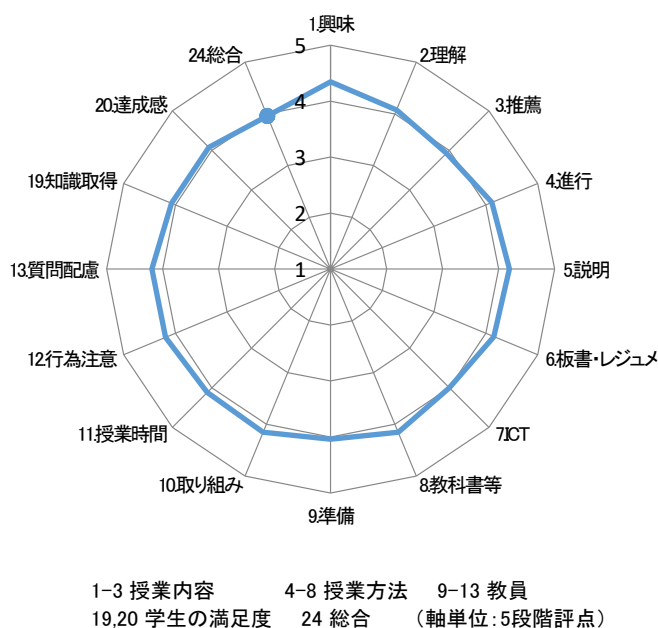
集計データ結果より、「興味」の平均値が高く、普段の日常生活を行う上でも様々な心身機能が伴って生活が行えていることなど座学で学習した内容の意義や必要性が感じられる内容であったと考えられた。本科目では毎回のレポート課題が課されていたが、予習時間では7割強の学生が、復習時間では2割強の学生が1時間未満の時間で、学生の負担感は比較的抑えられていると考えられる。理解、推薦、進行など6の項目で満足していない学生がいるため、説明の仕方、フィードバックの仕方など工夫の必要性を感じている。全体として総合評価では、約65%は4点以上と高い評価であったが、25%はどちらでもないとの回答があり、授業の構成や課題の出し方などで改善の必要性を感じられた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実施内容については、シラバスに記載されている内容で進めていた。一部の内容を修正した点について、事前に周知する必要性はあったと思われる。レポート課題について、事前に関書方の練習をする科目がなく、本科目でレポートの書き方からの指導となっていた。そのため、修正箇所が多く、個別指導の時間をかなり必要とした。また、他の科目と課題が重なり、レポート作成に疲弊している学生の声を多く聞いていた。そのため、課題量を減らし、グループディスカッションや意見・感想を述べる課題に切り替えた部分があった。これらの点について、次年度の改善すべき内容であった。各課題に対するレポートは苦勞した学生も多くいたが、回を重ねる毎に成長がうかがわれた。他者のレポートを見るなど今後の学習に繋がるよい機会となったことが予測された。

◆今後の改善に向けて

学科内で調整し、レポートの作成の仕方などの講義を1年生の前期で実施できるように調整している。また、他の科目とのバランスを考え、課題量の調整が必要と考えられる。授業の内容については、シラバスに具体的に記載していたが、事前に勉強すべきポイントなど、わかりやすく事前に周知すると、予習がしやすいと感じ、この点について改善をしていきたい。実習の構成は、作業療法に必要な運動が中心となっているが、実習で学んだこと全てを課題にするのではなく、焦点を絞った課題の設定をするよう改善を考えている。今後は、授業終了時に授業アンケートを聴取し、各回において修正すべき内容、再度説明する内容、質問や改善点などを把握し、タイムリーに授業改善に取り組んでいきたい。



◆集計データ結果について

出生前や新生児期の障害はその後の発達への影響が大きく、リハビリテーション学との関連性は高い。そこで講義では、この時期の解説にやや多くの時間を割いた。内容は生理学的発達と精神・心理学的発達を二本柱とし、それぞれの発達過程にみられる代表的な疾患を提示、発達過程と疾病成立との関連性を実感し、なるべく深く会得してもらうことを目指した。また、人の各発達段階に対してより広い視点でアプローチできるよう、各発達段階の成育ポイントを多数のイラストや写真、図、データなどを活用してプリントを作成、講義に用いた。

新型コロナウイルス感染症が講義にも大きく影響し、十分な対面授業を行うことができないなど不本意な点もあったが、学生のアンケート結果からは、予想以上の成果が得られたのではと考えている。

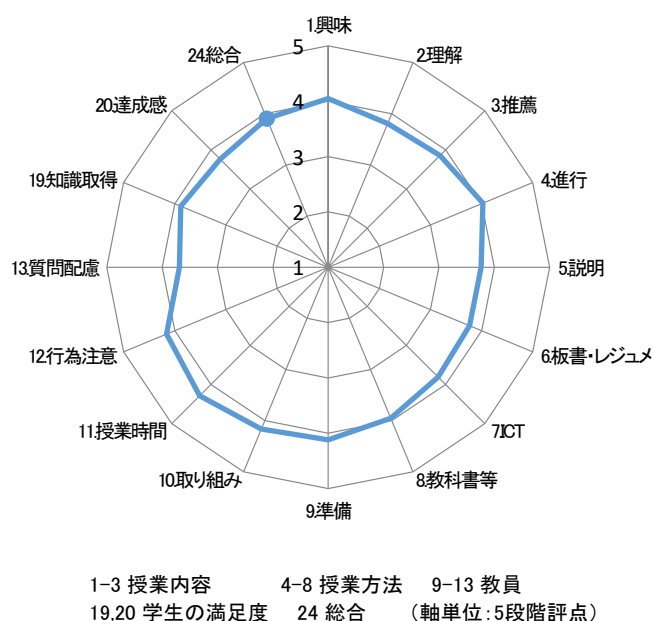
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

何人かの学生から「プリント枚数が多すぎる」「どこがポイントか分かりづらい」などの感想を受けた。そのため、授業開始時に前回の復習時間を設け、必要なポイントをまとめ上げ明示している。講義中の態度は、やや居眠りが多かったが、全体として真剣実も感じられた。一方で、「プリントは見やすい」「理解しやすい」との評価もあり、今後も継続予定である。

授業が単調に流れないよう、適宜ホワイトボードへの書き込みもする。学生から「読みづらい」との指摘がある。特に、併行して行っているサテライト教室では画面は見づらく、大きく平易に書くように心掛けている。早く、コロナ感染症の影響が解除されることを望む。

◆今後の改善に向けて

本授業はコロナ感染に制約された、対面とサテライトの併用である。学生自身の自覚を育てる意味でも、なるべく自由な雰囲気の中で学んでほしいとの思いから特に席順は決めておらず、総じて講義自体はやり易かった。ただ、学生とのつながりを得るのはかなり難しく、また一部の後方学生の私語が多い場面があった。授業中の注意叱責は教室全体の雰囲気を大きく損なう。猛省を促すと共に、卵のOT、PTに対して魅力ある講義を提供したい。

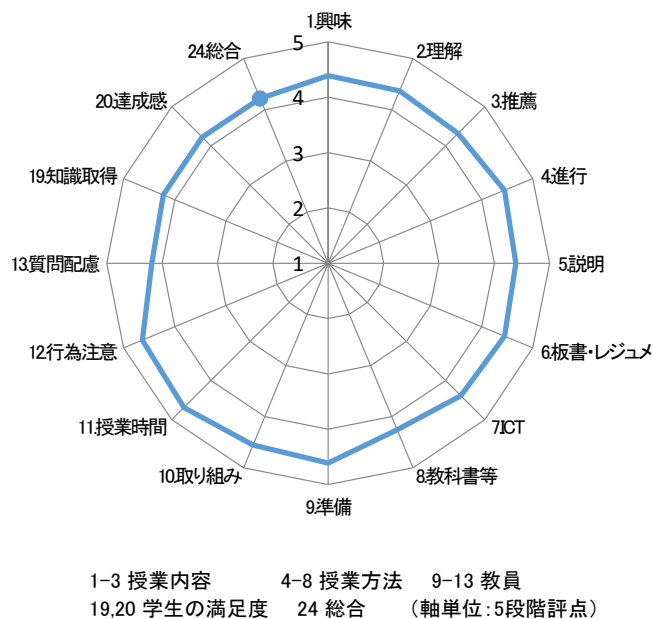


◆集計データ結果について

レーダーチャートを見ると、まあまあの結果だと思える。講義に際してプリントを配布することは、今や常識的になってきているが、予習や復習には有効であったようだ。質問時間をいつも割いていたが、授業中で質問されたことはほとんどなかった。説明が理解しやすかったのか、関心がないのか、明確には判断できないが、たまに授業終了後に質問を受けることがあった。恐らく授業中に質問する習慣がなかったのだろうと、と感じられた。チャートのグラフでは比較的バランスの取れた円形に近い形をしていることから、許される範囲内の授業形態であり、こちらの努力が通じているように思えた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

やはりプリントに関する記述が多い。今の学生にはプリントが必須アイテムであると思われる。ただし、こちらの熱意や努力は察していてくれるようで、溜飲が下がる思いである。多くは好意的な記述となっており、嬉しかった。



◆今後の改善に向けて

今の形態と形式で続けて良いと思われる。毎回プリントを配布するなら教科書は不要だという意見があるかもしれないが、教科書はそれ自体で一気通貫の知識が得られるもとになっている管で、教科書はやはり必要であると感じている。一つ残念なことは、自由記載の人数が54名しかなかったことである。

◆集計データ結果について

集計データを見ていつも疑問を感じるのは、「質問」に関する結果である。これまで、どの講義を受け持った時も、この項は良い評価を受けてこなかった。元来、質問をさせるために質問時間を設けてきたことは勿論であるが、何よりも学生が講義の内容をよく聞いて理解を深めようと努力しなくては質問は浮かんでこないはずである。予習や復習についてのアンケート結果ではほとんどが予習をしてきておらず、したがって、講義の時に初めて聞く内容に対して質問を思い浮かべることは容易ではなく、それだけの知性を持ちわせているとは考えられない。もちろん、今回はオンライン授業であったため、一方向の授業形態の傾向が強くなるを得ず、講義終了時に何か質問は？と尋ねても、その場では一向になく、後からのメールで質問されたことが多かったが、一応、一人一人に回答を送ってきたつもりである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の内容は必ずしも重要視しなければならないとは考えていない。例えば、教科書になるべく沿った形で講義を進めたが、教科書だけ読んでも理解しにくいとか、まとめにくいなどの問題があり、理解しやすくまとめたり他の参考図書などから引用した図表なども加えて毎回プリントを作成し、講義の数日前に配布して予習がし易いように配慮してきたつもりである。しかし、教科書の購入を不要と感じたとの記載が少なくなく、配慮に理解を示していない学生がいることは空しい感じがする。高校までの授業と同じように思っているのは大学での学習とは言えないからである。高校までとは違って、自ら主体的に学習するという観念ができていないからである。さらに、質問の一つに、何々についてもっと深く知りたいと思った、というものがあり、それに対しては、大学生らしく自分で参考図書などを読んで主体的に学べば良いという意味合いの返事を返したことを覚えているが、自由記載では残念で批判的な内容のものであった。他は、オンライン授業による不都合に関するものであり、どんなにこの授業形態が進歩して改善されようと、対面授業に勝ったり、同等の評価を受けることにはならないと考える。

◆今後の改善に向けて

毎年のこの評価アンケートを熟読して、改善すべき点はないかどうかを検討してきた。しかし、これこそ変更すべき問題点だと感じるような箇所はなかった。とはいえ、学生が少しでも理解しやすい方法で講義ができないか、どうしたら興味を持って授業に取り組んでくれ、できれば予習・復習を短時間でよいから実践してくれないか、などを真剣に考え、年々講義の内容や順序・説明の仕方などを改善してきた。この姿勢を持ち続けられれば、どういう評価を受けても動じないでいられると思っている。



◆集計データ結果について

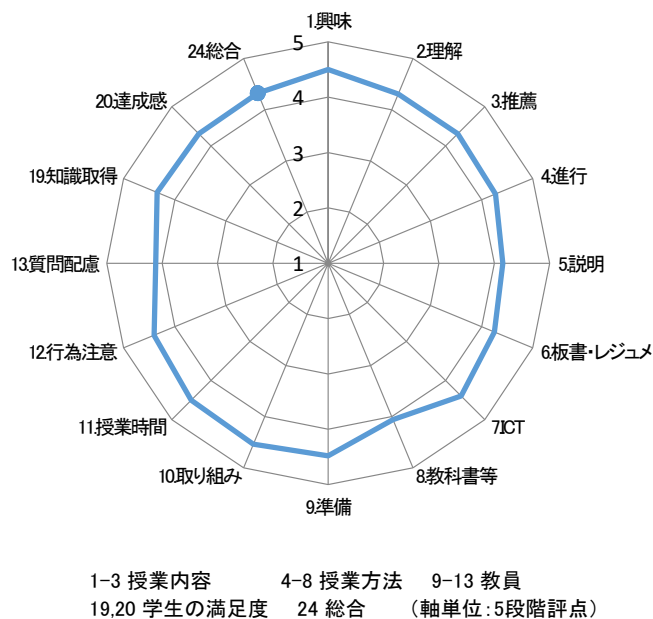
今年度は対面とオンラインを併用した授業形態で行ったことによる幾つかの問題点があったことは反省すべきと思われる。授業方法、授業担当教員の評価については、一部を除いて満足できる評価であったと思われる。その一部とは質問配慮で学生が質問しやすい配慮には欠けていた。スライドを用いた講義の中で、その都度質問はあるかどうかの時間を取ったつもりであったが、学生にとっては質問づらい雰囲気を作っていたかもしれない。もう少し、時間を取って、個別に質問をした方が良かったと思われる。また、教科書等に関する評価が低いのは、参考図書として幾つか提示はしていたが、特に教科書を設定していないためと思われる。動画や映像を用いてなるべく視覚的に理解してもらうように試みたが、この点については学生の評価は良かったと思われる。医療の基本であるバイタルサインに重点を置いて講義を行ったが、この点についても学生の評価は良かったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載については、9割以上の記載がポジティブなもので、ネガティブなものは少なかった。スライドが分かりやすい、映像が分かりやすい、資料が分かりやすい等教材に対する良い評価が多かった。授業形態としては、毎回講義の後に振り返りのレポートを提出させたが、これが授業を振り返るうえで役に立ったとするコメントが複数見られた。また、医療現場の生の話が良かったとか、体験談が非常に理解しやすかった等のコメントが多かった。ネガティブなものとしては、プリントの字が小さい、声が聞き取りにくいとのコメントも散見された。

◆今後の改善に向けて

まずは次年度は対面のみの講義とすべく、OT、PT別々により少人数で行うことにした。評価の低かった質問に関する点を改め、講義の途中で何度も学生に質問の有無を確認しながら進めていくようにしたい。また資料等は好評であったので継続して取り入れていきたい。また、医療現場の生の声を聴けたのが良かったというコメントに対して、今後も現場の話をもっと取り入れて授業を進めたい。また、振り返りのためのレポートを毎回実施したが、これも理解するために良かったとする賛成意見が多く見られたので、継続していきたい。バイタルサインの重要性が強調されるが、授業の中での実際の測定は難しく、総合演習の中で取り入れていただくこととした。また、心肺蘇生法の実技は日赤スタッフの協力を得て、2年次を実施する予定にしている。



科目名

34. 健康科学

担当教員

鳥居 昭久 ・ 高橋 圭

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

66名

◆集計データ結果について

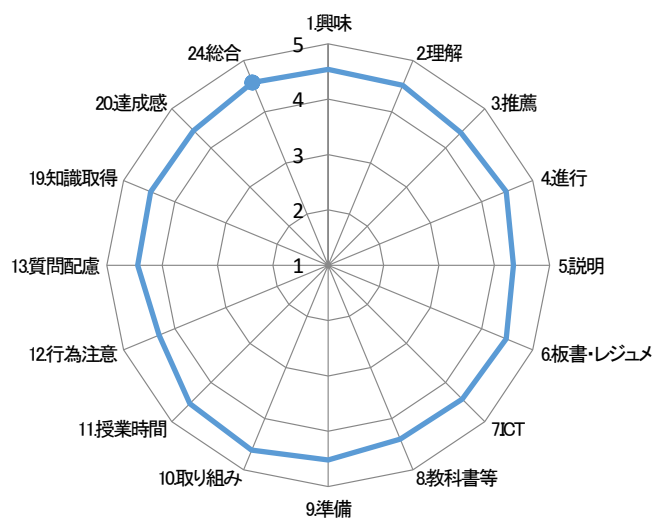
グラフに示されているように、平均的にバランスが良い結果であったと思われる。総合で4.5となっており、概ね満足な内容であったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね好評をいただいたので、満足な講義内容であったかと思われる。新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン授業が多く、慣れない学生たちも学習成果を上げるのが大変だったと思われる。オンライン授業での課題として、まとめノートを課していたが、内容的にはとても及第点に届かない者が多かった。今回は、急ごしらえのオンラン授業環境という形であったために、学習の方法などにおける理解不足もあったと思われるので仕方ないと思うが、家庭学習の方法、内容については検討が必要である。実技の時間は積極的な姿勢がみられて、とてもよかったと思うが、最終試験の結果に反映されることを祈るところである。

◆今後の改善に向けて

家庭学習課題の工夫や、理解度のチェック方法について検討する。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

平均が4.36、総合が4.39であった。「知識」と「達成感」が4.0で最も低かった点について考察する。今回の授業はコロナ禍がオンライン授業が主であったこともあり、一方的な講義では画面の向こうの顔の見えない状況で集中して取り組めるための方法として、知識を詰め込むような授業ではなく教科書の内容を自身でまとめ理解する、テーマに即して自身で考えることを中心に行った。教科書の内容のまとめに関しては、授業中に教科書に記載されている理解してほしいポイントをパワーポイントに整理し示した。考えたことに関しては、数人に発表してもらい考えを共有した。その中で明らかに間違っている見解については修正をしたが、何か一つの答えを提示することはしなかった。このことから、何を覚えていいのかわからなく、達成感も得られにくかったのではないかと考える。授業単元ごとに目標を提示しているため、目標を理解し是非取り組んでいただきたい。

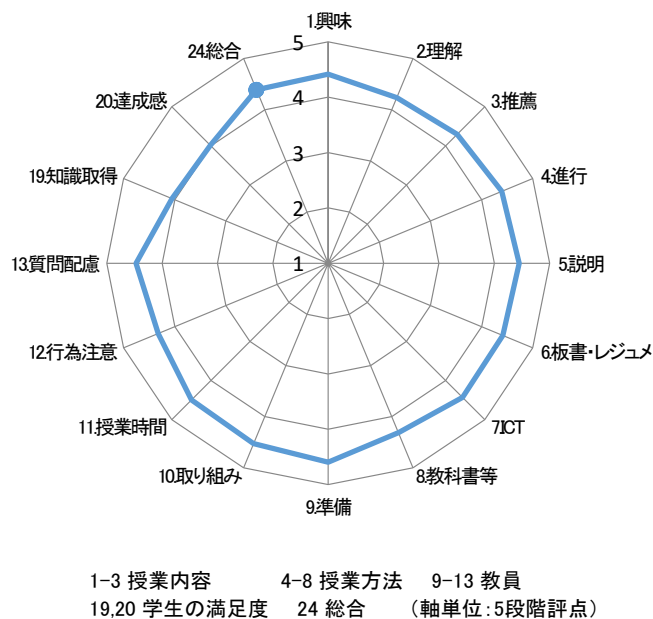
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

73件の具体的な記述があった。肯定的意見として最も多かったのは、他の学生の意見をきくことができたことであった。次いでテーマが与えられ自身で考えをまとめることであった。考える時間を設け発表し、他者の意見を聴くことで、自身にはない考え方を知る機会になり、様々な視点を学べたようである。ほかの意見としては、授業の説明や資料がわかりやすかった、質問に丁寧に答えてくれたことが挙げられた。事前に予習をしてもらっていたため、資料は知識として持っていてほしいことにポイントを絞って簡潔にすることを心がけ作成したことがよかったのかもしれない。

改善に関する意見としては7件あり、中でも多かったのは、考える時間をもう少し長くしてほしいである。時間を長くとりすぎないようにした目的は時間的なプレッシャーにより、集中して取り組むこと重視したためである。また、事前に予習課題(授業当日の提出は求めない)を課しているため、課題に取り組んでいただければ大半の人は達成可能と考える。時間内に課題解決できるよう、実施戦略を立てることにチャレンジしてほしい。

◆今後の改善に向けて

学生自身の考えをまとめ、記述、発表というアウトプットの機会は継続して設けたい。対面授業が来年度に実現するのであれば、両専攻を交えたグループディスカッションを取り入れたい。



◆集計データ結果について

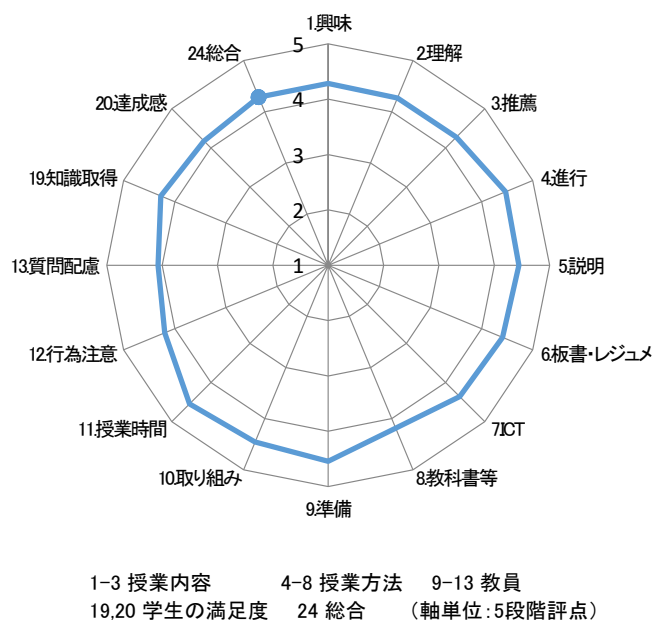
「社会福祉学」を担当し3年目、今年度は前期金曜1限開講でした。
 オンラインでの授業と、対面(2教室に分かれ中継)での授業と変則的であり、受講生にとって学びにくさがあったことと思います。
 集計されたデータの「総合評価」は「4.28」で昨年度とほぼ同じ結果となりました。各質問への回答からは、授業の到達目標を意識できるよう予習・復習への取り組み課題をより具体化しようと考えています。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

社会福祉を学ぶにあたって、生活者としての視点を得ることや当事者の生き辛さについて考えてもらうことを意図した漫画等の紹介が効果的であったことが確認できました。その中でもより一般的な書籍の活用の求めがありましたので、次年度の課題とします。

◆今後の改善に向けて

今年度、オンラインでの授業となりさまざまな変更をしています。次年度以降、効果的な学び方を模索しつつ「社会福祉学」という科目の特性上、「ともに学ぶ」ための授業構成に工夫をしていきたいと考えます。映像教材についても多くの方に強く印象に残ったようでしたので、引き続き活用していきます。



◆集計データ結果について

「総合評価」は、3.88で、もう少し上げる必要がある。各評価項目の中で、低く評価された項目は、「授業方法」であった。その原因は、後述の学生の自由記述からみると、(PowerPointのスライドが見にくい)ということにあると考える。ただし、「授業の進行」、「授業の説明」については4.0以上の評価を得ており、それ程、問題ないといえよう。

また、学生の意識に関する内容で、低く評価された項目は、「学習態度」、「ディプロマポリシー(DP)の把握」であった。シラバスには、「学習態度」の項目である(予習)(復習)の内容、(DPに基づいた学習到達目標)が明記されているが、学生に十分伝達されていなかったものと推察する。

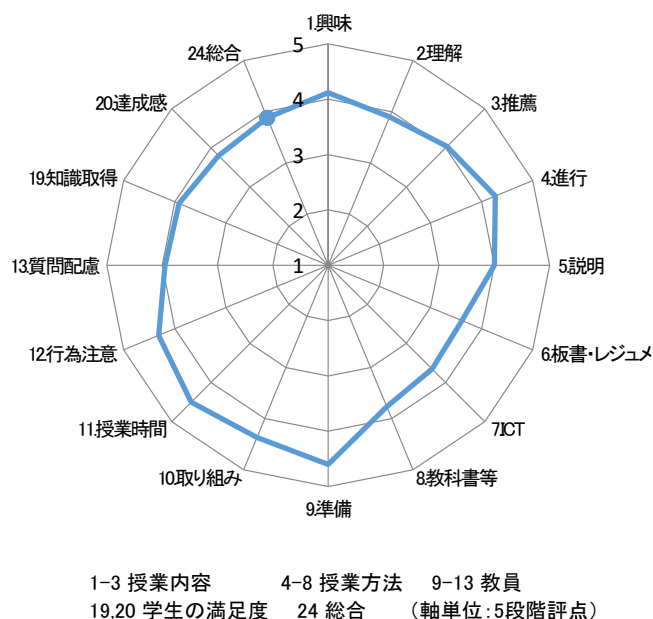
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

改善すべき主な点は、前述のPowerPointで使用した(スライドの見にくさ)についての記述が相当に多かったことである。

一方、良かった点については、「先生の体験話などを聞いて、臨床心理学とはどのようなものなのかを理解することができました。」、「例を用いて説明してくれたのでわかりやすかった。」といった内容の記述がみられた。このことは体験話や例示をするなどして説明することが理解を促進する上で有効であることを示唆するものといえよう。

◆今後の改善に向けて

PowerPointで使用したスライドの文字の拡大、色の変更を行うなどして、スライドを見やすいものにする。学生の意識に関する内容である「学習態度」、「ディプロマポリシー(DP)の把握」については、授業初回のガイダンスで、シラバスに基づき平易かつ丁寧に説明するなどして、その内容の周知徹底を図り改善していく方針である。



◆集計データ結果について

今年度は授業開始時から新型コロナウイルス感染症の影響に直撃され、共通科目である内科学の授業形態をどうするか、大いに戸惑った。最初の2ヶ月半は学生の登校は許されず、全て遠隔授業となったが、その場合PT・OTの両学生を同時に講義するシステム作りが間に合わず、それぞれ別個の時間を設けての講義となった。すなわち、講義内容の同質を担保すべく、最初にPTの授業を録画し、別時間にそのビデオをOTに配信した。時間のずれで講義のない空き時間が生じた場合は、穴埋めを兼ねて課題の作成などを課した。

6月半ばから登校が開始されたが、校舎内の同室に入れる学生の人数には制限があり、同じ時間帯での講義に配慮し、対面授業とサテライト授業をPT、OT交互に隔週で行った。この授業形式は現在も続いている。

いずれにしても初体験のことばかりで、ネットによるプリント配布や板書による解説、その場合のモニター画面の映り具合やマイク状況の不備など、学生にとっても見づらい、聴きづらいことなど行き届かない点も多く、苦労したと思う。事務方の応援も頂き、適宜できるだけの改善を図りながら進めて来た。その甲斐あってか、集積データや期末試験の成績などから、想像以上に学生の粘りや頑張る姿勢、適応能力の高さが窺えた。

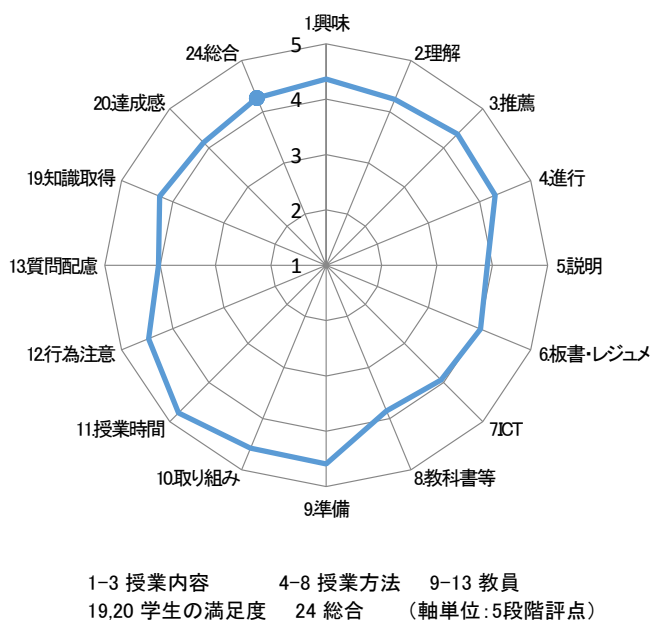
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

少数ながら、毎年「教科書」の活用を訴える要望がある。今年は上記の如く、講義中に学生との両方向の会話ができず、従ってプリント依存の高い講義にならざるを得なかった。その分、教科書の役割が大きくなった可能性もある。ただプリントの内容については、教科書では理解しにくい点の解説や、国試対策なども取り上げており、今後もプリント中心の講義は継続する予定である。その上で、より有機的な講義につながるよう努力したい。

◆今後の改善に向けて

コロナ禍によって色んな側面に気付かされ、それらは今後の授業に活用して行きたいと思う。ただ、授業とは単に“知識の切り売り”ではなく、さまざまな場面における人間相互の触れ合いに大きな魅力、意義があり必要性を感じる。特に、医療系の本大学には患者とのコミュニケーション能力を育てることが日々求められている。現段階では来年もコロナの影響が続くと予想されるが、その意味では対面授業を中心に行動すべきではないだろうか。

学生らの本大学への期待は大きく、勉学への熱意、希望は高い。苦況の中ではあるが将来を見据え、彼らの意欲を最大限引き出せるよう、対策を練っていかねばならない。



◆集計データ結果について

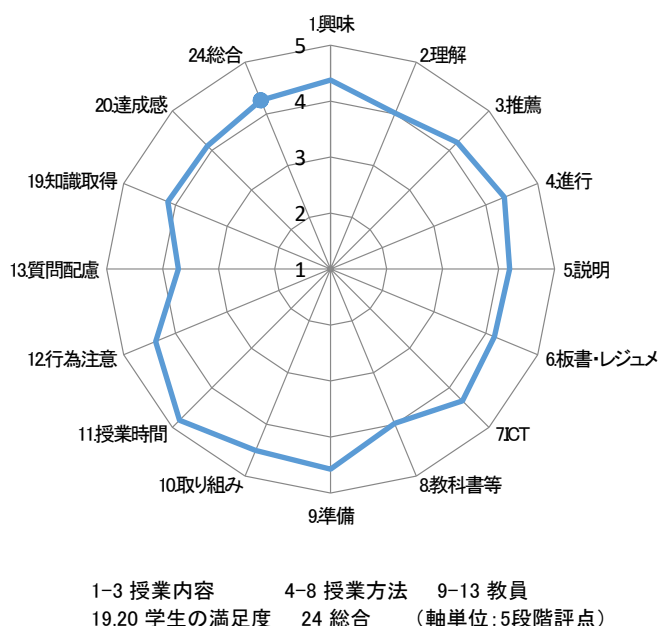
今年は全てオンライン授業であった。そのため板書ができず、対策としてあらかじめ講義の要点をまとめた講義ノートを前日に送っておき、これを見ながらスライドを用いてのオンライン授業を行ったがスライドが見やすかったらしく全般に高評価をえている。しかし学生が用いている機器によりスライドが見にくかったり音声聞きにくかったりで評価が別れていると思われる。また講義のレベルは中程度のレベルにしているため、レベルの低い学生には講義内容が理解しにくかった様である。オンラインであったため学生から教員への質問ができなかったため評価が低くなっている。また教科書は図表が多い教科書を使用して復習や自己学習時に役に立つ様に配慮しているため教科書に沿って講義をしている訳ではない。ただし講義ノートに教科書のどのページに書いてあるかの記載している。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

あらかじめ講義ノートを送っておいたので板書する時間が省略でき、その分スライドをゆっくりやれて、国試問題の解説もゆっくりできたのが学生には良かった様である。しかし学生が使用している機器により声が聞きにくかったとの意見もあった。名古屋学院では学生に入学時に5万円程度のノートパソコンを供与しているが、これからはオンラインで行う事柄が増加すると思われるので、本院でもノートパソコンの供与を考えてはいかかかと思う。

◆今後の改善に向けて

講義ノートは来年も配布しようと思うが、今年は国試に出たところと大事なところはあらかじめ赤字にしておいたが、学生よりスライドの赤字部分と講義ノートの赤字部分に違いがあるとの指摘があり、本来は大した問題ではないが、来年はすべて黒字にして、講義中に大事であると指摘したところを学生にマーカーペンで色をつけさせる様に改善しようと思う。



科目名	40. 神経学
-----	---------

担当教員 伊藤 宗之 ・ 種田 陽一 ・ 寺本 純

専攻・配当年次 PT・OT 2年

回答者数 61 名

◆集計データ結果について

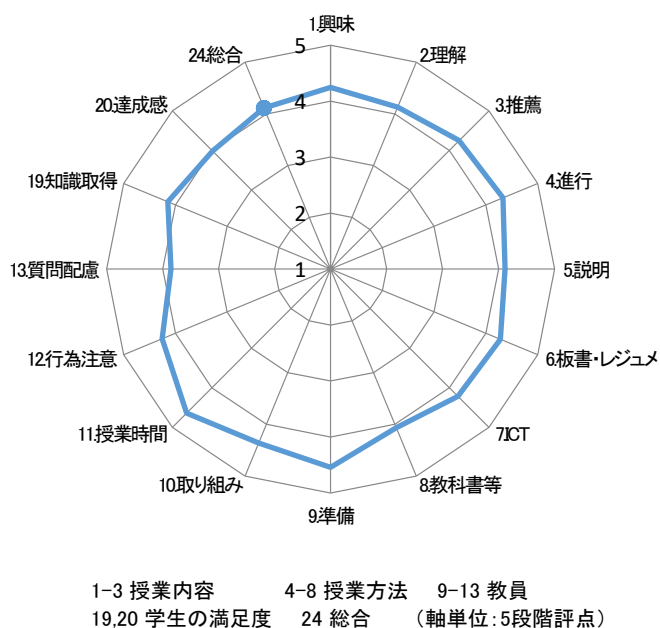
伊藤先生が病気になり途中で教師が替わった割には全般にまあまあの評価が得られている。今年はオンライン授業だったので、私はあらかじめ講義の要点をまとめて講義ノートとして前日に送っておいて、教科書に沿ってスライドを用いて講義を行った。講義ノートが少しは講義の助けにはなったと思われる。しかしオンラインであったため学生から教師への質問や意見の項目の評価が低いのは仕方がない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義ノートをあらかじめ送っておいたため板書する時間が省略でき、時間に余裕があるためスライドをゆっくりやり、国試問題を沢山やれたことが学生にとって良かった様である。ただし内容自体が難しいので、レベルの低い学生にとっては理解するのが大変であったと思われる記載がある。

◆今後の改善に向けて

私の今年の講義は臨時なので今後はありません。寺本先生お願いします。



◆集計データ結果について

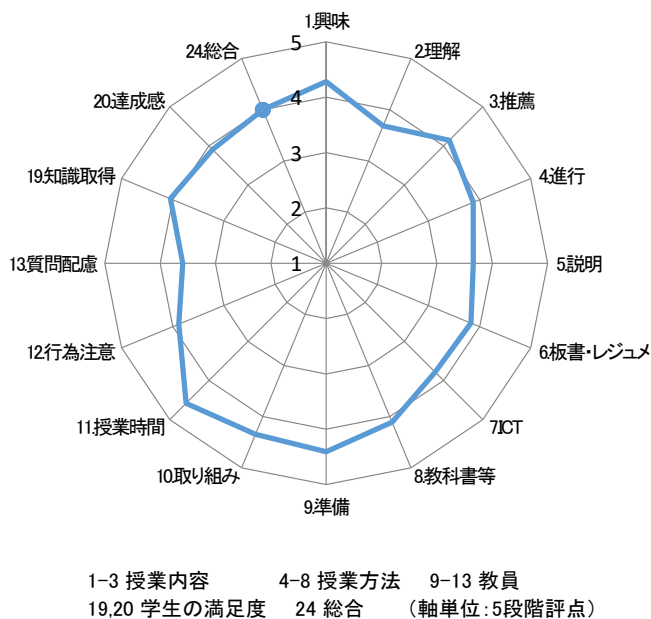
レーダーチャートの評価が4を切るものが、2「理解」、4「進行」、5「説明」、6「板書・レジュメ」、7「ICT」、12「行為注意」、13「質問配慮」、20「達成感」であった。精神医学は毎日の生活において必ずしも馴染みのあるものではなく、その診断学や治療論においては他の医療分野とも特徴を異にする。そのため、「理解」の評価が低かったのではないかと推察する。「進行」、「板書・レジュメ」、「行為注意」、「質問配慮」については、今回の講義が全てオンラインで行われたことも関係していると考え。とはいえ、真摯に授業を受けてもらい、その中で質問を受けることは常に歓迎している。講義は講師と学生との共同作業であることを学生諸君にも再認識していただきたい。一方、質問14～20で示された学生側の取り組みを見ると、予習・復習時間の短さを指摘することができる。授業を受けたその日の内に教科書をもう一度読むなどして知識を確実なものにしてほしい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

4人の講師による授業であり、授業のやり方、声の大きさ等に差があったという意見が多々みられた。これについては、講師間で連絡を密にするなどして改善を検討したい。

◆今後の改善に向けて

講師側としては、連絡を密に取りながら、より分かりやすいものにすべく授業のやり方を工夫していきたい。学生側としては、予習、復習に時間を割いてほしい。



◆集計データ結果について

今年度は授業開始時から新型コロナウイルス感染症の影響に直撃され、共通科目の小児科学の授業形態をどうするか、戸惑った。最初の2ヶ月半は学生の登校は許されず、全て遠隔授業となったが、その場合PT・OTの両学生を同時に講義するシステム作りが間に合わず、それぞれ別個の時間を設けての講義となった。すなわち、講義内容の同質を担保すべく、最初にPTの授業を録画し、別時間にそのビデオをOTに配信した。時間のずれで講義のない空き時間が生じた場合は、穴埋めを兼ねて課題の作成などを課した。

6月半ばから登校が開始されたが、校舎内の同室に入れる学生の人数には制限があり、同じ時間帯での講義に配慮し、対面授業とサテライト授業をPT、OT交互に隔週で行った。この授業形式は現在も続いている。

いずれにしても初体験のことばかりで、ネットによるプリント配布や板書による解説、その場合のモニター画面の映り具合やマイク状況の不備など、学生にとっても見づらい、聴きづらいことなど行き届かない点も多く、苦労したと思う。事務方の応援も頂き、適宜できるだけの改善を図りながら進めて来た。その甲斐あってか、集計データや期末試験の成績などから、想像以上に学生の粘りや頑張る姿勢、適応能力の高さが窺えた。

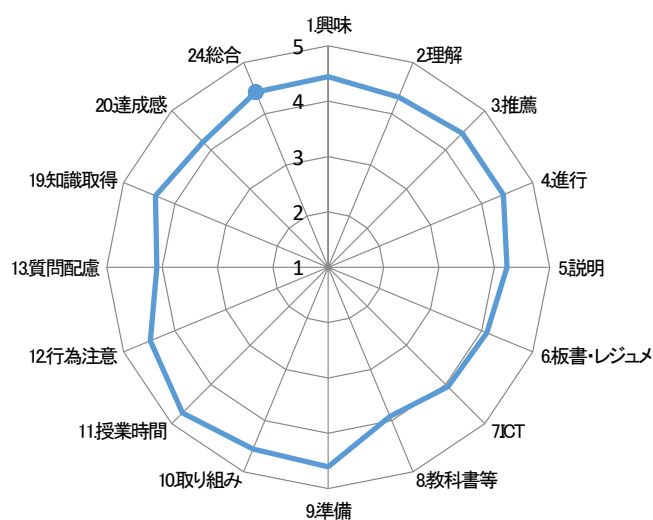
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

少数ながら、毎年「教科書」の活用を訴える要望がある。今年は上記の如く、講義中に学生との両方向の会話ができず、従ってプリント依存の高い講義にならざるを得なかった。その分、教科書の役割が大きくなった可能性もある。ただプリントの内容については、教科書では理解しにくい点の解説や、国試対策なども取り上げており、今後もプリント中心の講義を続ける予定である。その上で、より有機的な講義につながるよう努力したい。

◆今後の改善に向けて

コロナ禍によって色んな側面に気付かされ、それらは今後の授業に活用して行きたいと思う。ただ、授業とは単に“知識の切り売り”ではなく、さまざまな場面における人間相互の触れ合いに大きな魅力、意義があり必要性を感じる。特に、医療系の本大学には患者とのコミュニケーション能力を育てることが日々求められている。現段階では来年もコロナの影響が続くと予想されるが、その意味では対面授業を中心に行動すべきではないだろうか。

学生らの本大学への期待は大きく、勉学への熱意、希望は高い。苦況の中ではあるが将来を見据え、彼らの意欲を最大限引き出せるよう、対策を練っていかなければならない。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

43. リハビリテーション倫理

担当教員

鳥居 昭久

専攻・配当年次

PT・OT 3年

回答者数

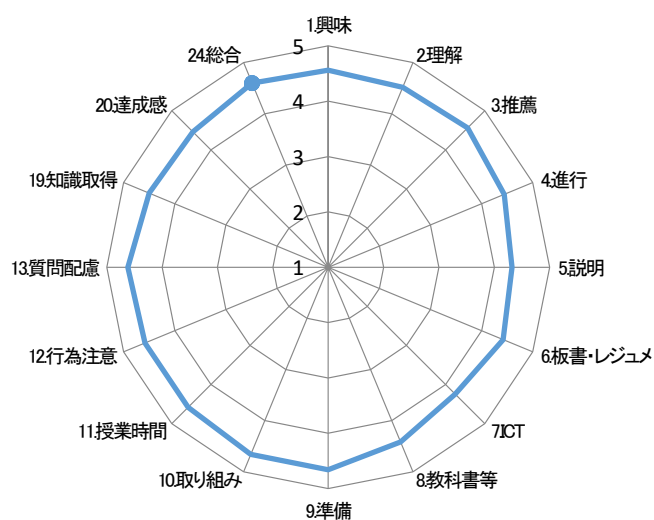
50 名

◆集計データ結果について

レーダーチャートを見る限り、全体に4点台でバランスが取れており、比較的安定した良い結果だと思われる。予習や復習が少ないのが気になるが、時期的に卒業研究、国家試験対策の追い込みの時期にあたり、授業としても課題は提示せず、授業内で考えることの実践ができれば良しとしているため、仕方ないと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

2か所の教室での実施であり、プロジェクターの設定などトラブルがあったことが否めない(この件については、当該科目だけの問題ではないと思われます)が、授業としては学生が主体的にディスカッションできたことや、テーマの奥深さを感じてくれたことから、この科目の目的は達成できたと感じている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

新型コロナウイルス感染の影響が新年度も残っていると予測され、本講義をどのように進めるかについて、改めて検討する必要があると思われる。ネットワークを上手く利用してのグループワークなど、テクニカルな要素での改善が求められる。一方で、個人課題の提示によって、事前学習の比率を上げることも検討したい。

科目名

44. 障がい者スポーツ演習

担当教員

鳥居 昭久 ・ 加藤 真弓

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

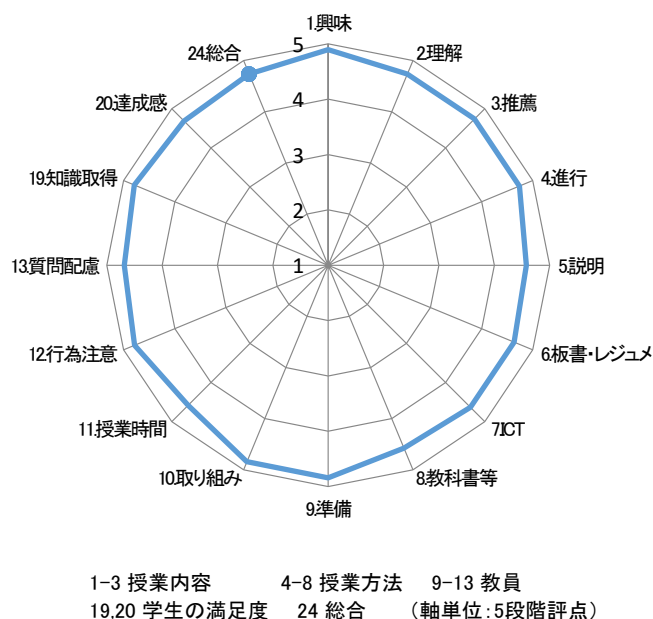
19 名

◆集計データ結果について

レーダーチャートを見る限り、かなり高評価で安心しました。学生たちが積極的に取り組んでくれたのが感じ取れます。今年度までは、選択科目ということもあり、受講している学生のモチベーションが高いことも結果に反映していると思われます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

こちらの感想も、高評価であり、かつ学生の意欲が表れている結果で嬉しく感じました。今年度までは、選択科目であり、受講学生の意欲が高いことが表れていると思います。受講した学生が、この後、リハビリテーションの色々な場面で得た経験を糧に成長し、将来活躍してくれることを切に祈ります。



◆今後の改善に向けて

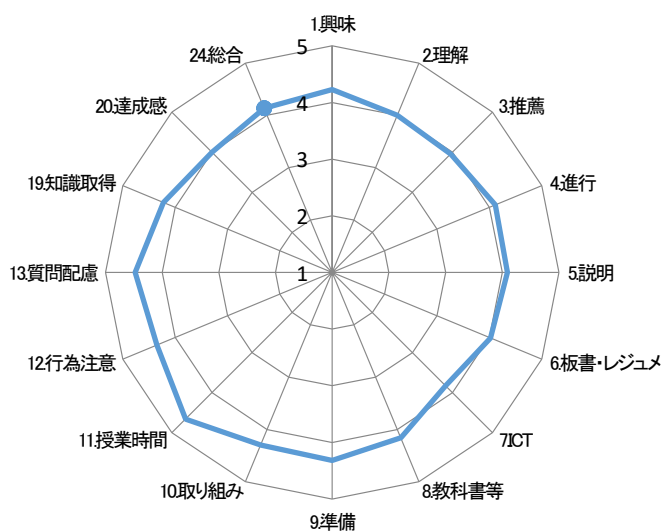
今年度までは、選択科目としての「障がい者スポーツ演習」であったけれど、新年度から必須科目としての「障がい者スポーツ概論」として開講されます。その目的は、理学療法士、作業療法士が障がい者の社会参加を促進するための大きなツールの中に「スポーツ」があり、理学療法士、作業療法士自身が、障がい者が取り組むスポーツを理解していることによって障がい者支援の幅が広がり、個人として、療法士としてのスキルを高めることができる。これを達成する為に、「障がい者スポーツ」の基礎を学ぶことであります。しかしながら、意欲の低い学生や目的意識の低い学生も多く受講すると思われる。それらの学生の意欲を高め、「障がい者スポーツ」に関心を持たせるような教授方法を工夫する必要がある。

◆集計データ結果について

総合4.1点でした。各項目では、ICT利用が3.8点で、他の項目は4.0以上であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

良かった点として、自分で考える授業が有意義だった、プリントに重要なところが記載されていて勉強しやすかった、レポート課題によって復習しやすかった、授業中に質問しやすかった、グループワークでいろんな人の意見が聞けた、などがあった。一方、要望や苦情として、普通の授業をしてほしい、レポート課題が大変だった、などの意見があった。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆今後の改善に向けて

2コマは、ブレインストーミング方式で、理想の理学療法士について考え、理想の理学療法士になるために何を学べばいいのかをクラスで考えた。中の8コマは、教科書を使って要点を記した配布資料を授業中にまとめていくようにし、復習のためのレポートを課した。残り5コマは、グループワークで、分野別に働く理学療法士の特徴などを調べ発表するような講義日程であったが、最後のグループワークの発表の時、急遽、コロナ対応のため対面授業ができなくなり、オンライン上での発表資料の閲覧のみに変更した。

この科目では、スライドを使った授業をせず、自分で考え、まとめることを中心に授業を行った。ICT利用の項目が低いのはそのためである。ICTは利用していないが、様々なやり方で理学療法について自分で学ぶようにした。

レポート課題によって自分で考えまとめることができたと思う学生と、レポートの課題が大変だったと思う学生に分かれる。今回のレポート課題は、様々な文献を基にまとめるわけではなく、教科書の内容を読んでまとめるような課題内容だったので、これくらいは取り組んで欲しいと思う。

また、グループワークでは、発表の準備まで進めていたが、コロナ対応で、急遽、中止になり代替えて、各自でオンライン上に配信した発表資料をみることにした。オンライン発表を想定した準備をしていればできたかもしれないが、対面発表の準備ができていなかった。学生同士の質疑応答で、学びを深め、それを体験してほしい。本当に残念であった。

科目名

46. 理学療法研究法Ⅰ

担当教員

宮津 真寿美 ・ 加藤 真弓 ・ 木村 菜穂子 ・ 松村 仁実 ・ 臼井 晴信 ・ 山田 南欧美 ・
齊藤 誠

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

26 名

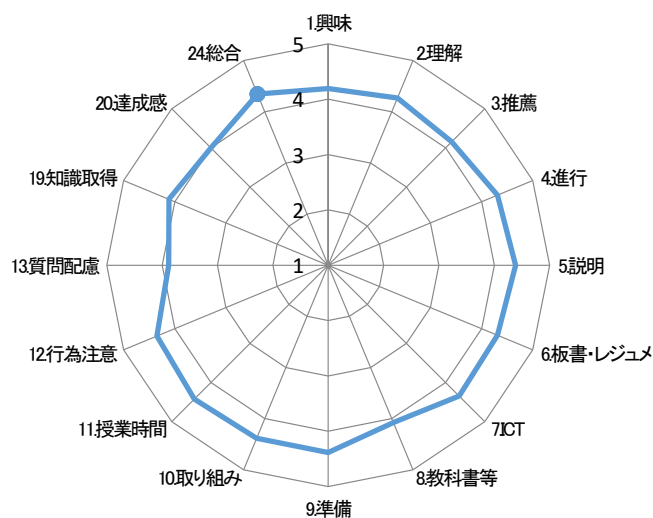
◆集計データ結果について

総合点は、4.3点と良好である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載には、「卒業研究までの進み方がわかった」、「考える力がつくようになる」、「文献の探し方がわかった」など、良い意見が多い。

悪かった意見は、「テスト前にレポート課題があった」ことを上げている学生が少数いる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

この科目は、卒業研究までの導入として、研究の意義や流れ、種類を解説し、齊藤さん(図書館)から文献検索の方法を教授いただいた。良かったとする意見が多いので、内容は来年度も継承する。

試験前にレポート課題があった、という意見があったが、初回授業でレポートがあることは伝え、かつ、レポート作成時間を2コマ与え、できるだけ授業時間内に作成するよう話している。学生の準備不足、能力不足もあると考える。

科目名

47. 運動療法総論

担当教員

松村 仁実

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

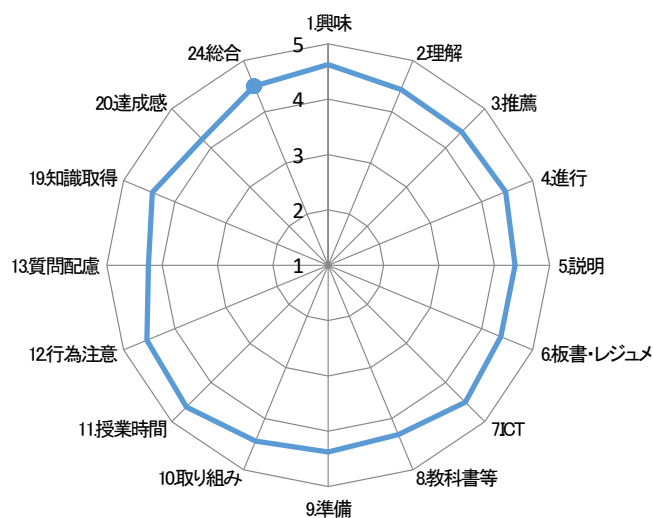
32 名

◆集計データ結果について

おおむね4点台半ばとバランス良い結果であった。目標を理解し、熱心に取り組んだ学生が7割ほどで多かったが、一方で質問をしなかった学生8割以上であり、一方向的な授業になっている可能性がある。DPとの関連性を理解し取り組んだ学生は半数程度であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークや話し合う時間を設定できた点は、評価された。また、授業中に学生をあてることを行ったが、考える時間を作るきっかけになった学生もいた。小テストに関しては、難しいといった声も見られた。実技を交えながら行うことで、飽きにくい講義展開との評価もあった点は良かった。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆今後の改善に向けて

小テストの難易度に関しては、学習したことを問うていると考えてはいるが、小テストの中でも難易度を分けた問題作成が必要と考える。記述問題も比較的多いため、選択問題なども織り交ぜることで学修を深めるための一助としたい。

予習・復習にかかる時間は少ない学生も多いため、若干の難易度を高めた内容を検討したい。

授業の展開については、比較的高評価であったため、今回の授業展開をベースに考えていく。

◆集計データ結果について

概ね4以上の評価でしたので、全体的に大きな問題はなかったかと思われます。「進行」については、自由記載にも「時間が短かった」「もう少しゆっくり進めてほしかった」という意見がありましたが、授業時間内に多くの内容を学習しなければいけないという点があるのだと思います。

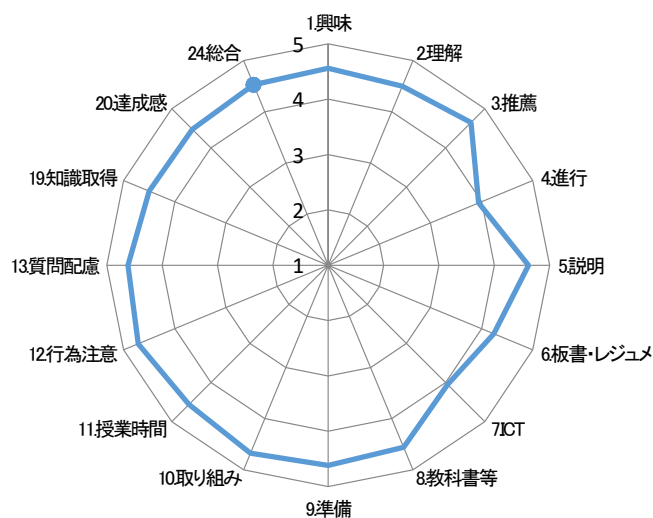
受講者も多くが「目標を持って、積極的に、熱心に取り組んだ」と自己評価しており、それが「予習・復習時間」にも表れています。しかし、試験結果と照らし合わせると、特に復習時間は若干不足している印象もありました。また小テストがあるにもかかわらず、「予習ゼロ」との回答も数名あり、そこは疑問です。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載も否定的な意見はあまりみられず、「すぐに質問できる環境であった」等の意見が多く見られました。「時間が短い」という意見も数件ありましたが、これは授業の改善を求める意見というよりは、「仕方ないとわかって入るが、大変！」という思いが強いかと予測します。この講義内容の重要性は十分に理解した上で、取り組んでいただけた結果かと思っています。

◆今後の改善に向けて

この講義の大変さは、授業を担当する私たち教員も十分に理解しています。そのうえで、「やらなければならないこと」なのは、受講者も理解しているでしょう。技術の習得には、正しい理解と反復練習がとても重要です。試験に合格することだけを目標とせず、患者さんに対する接遇や気遣いを考えるきっかけになるような講義を心がけたいと思っています。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆集計データ結果について

検査測定法と同様、データの的には大きな問題はなかったようです。受講者の自己評価も「熱心に取り組んだ」という人が多かったようです。ただ、学生の一部には復習を「まったく行っていない」と自己評価している人もあり、小テストの実施や予習を前提とした講義の組み立てを行っていたため、その理由が不明です。予習・復習の重要性は、講義の開始時や、講義中にも何度も皆さんに伝えつつもいましたが、理解していただけなかった方もいたようで、大変残念に思います。

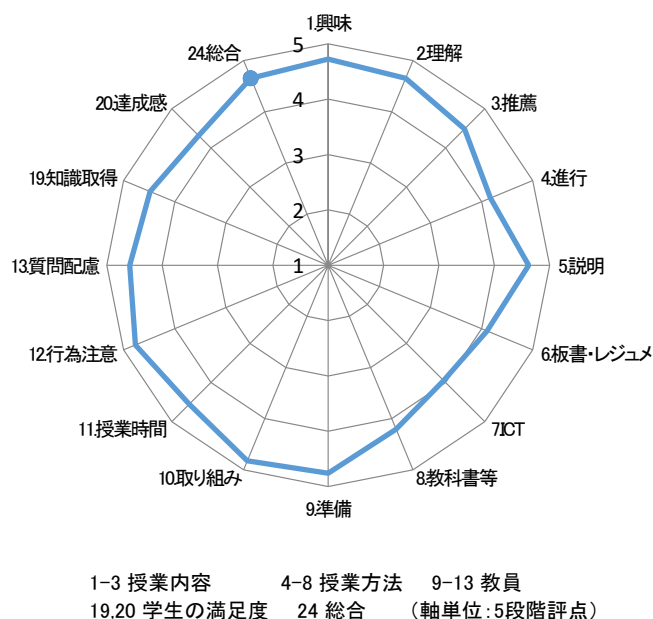
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業スタイルとして、「予習により疑問点を明確にする→講義中に疑問点を解消する→復習によって繰り返し練習する」というサイクルを重要視しています。それに対し、「質問しやすい環境で良かった」という記載が大変多くあり、みなさんが疑問を解決しようと努力した結果だと安心できました。

また、「時間に余裕を持ってやりたい」とのご意見もありましたが、これも講義時間だけで実技の習得が行えるわけではないため、自主的な実技練習を繰り返すことが重要であることは何度もお伝えしました。学習範囲が広いことは理解していますが、授業サイクルを理解した上で取り組んでいただけると、さらに良かったかと思います。

◆今後の改善に向けて

この講義スタイルは、学ぶ内容を理解し、疑問を持ち、それを解決するために積極的に参加する学生に対しては知識・技術習得の効果が高いと言えますが、学習内容を「与えられる」ことに慣れている人には、取り組みづらいかもかもしれません。しかし、大学生として自分の目標を考えた時に、習得すべき学習内容を理解し、それを得るために積極的・意欲的に取り組む行動というのは必須です。「自ら学ぶ」ということを意識していただき、教員は、それを最大限援助できるよう、さらにより良い方策を考えていきたいと思っています。



科目名

50. 人体触察法実習

担当教員

松村 仁実 ・ 木村 菜穂子 ・ 山田 南欧美

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

32 名

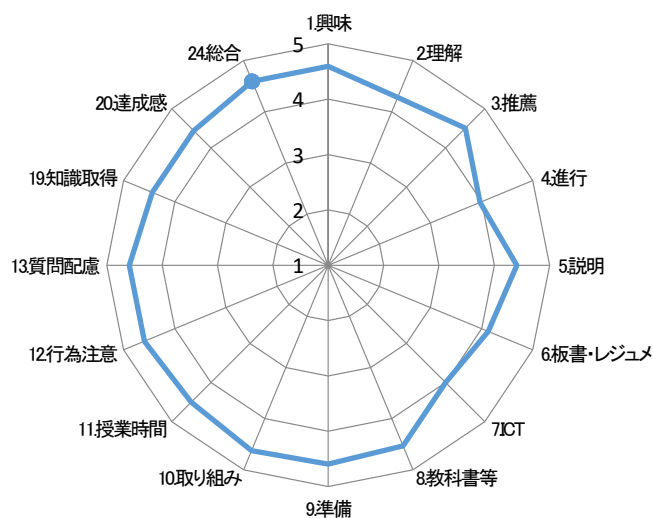
◆集計データ結果について

多くが4点台であったが、「授業の進みぐあい」、「板書の大きさ」、「ICTの利用」の項目は3点台後半から4点台前半という結果であった。7割以上の学生が、目標を理解し熱心に取り組んでいる。また、質問に関しても9割以上の学生が質問し積極的に取り組めた様子が分かる。8割以上の学生は1時間以上の予習・復習の時間をとれている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実習授業であり、学生同士お互いにペアを組んで実施し教員は教室内を循環するような形をとった。不明点に関して聞きやすい環境であったとの声が多かった。また、そのつどの説明も分かりやすく伝えられていたことが評価されている。学生の疑問点を解消するという点では効果的な授業展開であったと考えられる。

小テストを筆記と実技を実施したが、小テストの実施方法についての意見もみられた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

今年度は、教室の収容人数制限により、授業展開が例年より難しかった。3教室に分散して実施したため、学生の疑問解消時間の確保を心配したが、大きな問題もなく実施できていた点は評価できる。授業の進み具合については、時間が足りなかったという意見もみられた。教室を分散して実施したため、授業中にも移動せざるを得なかった事情もあったことが一つ考えられる。デモンストレーション内容を整理し、実習時間の確保することも対策の一つと考えられる。

板書、ICTは授業では利用することがあまりなかったが、効果的な利用については今後の検討課題の一つになると考える。

科目名

51. 老年期障害理学療法学

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

27 名

◆集計データ結果について

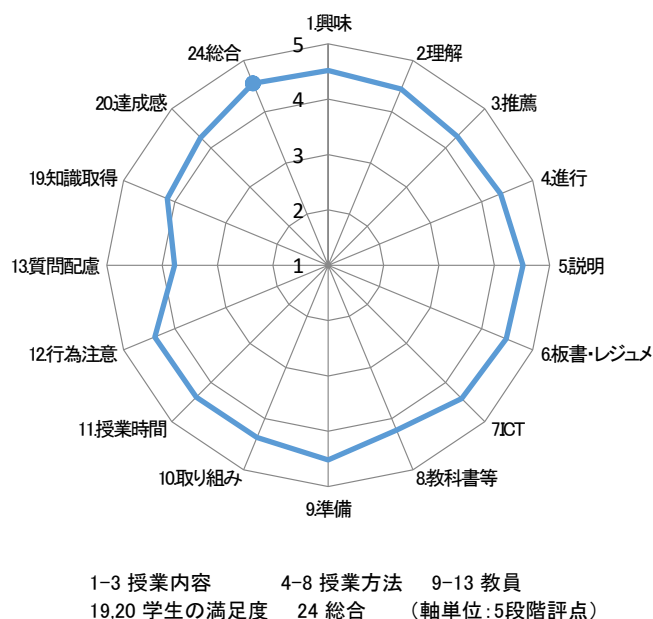
概ね4以上の評価となりました。「質問」の項目に関しては、できる限り知識の整理などではこちらから問いかけるように心がけましたが、皆さんから質問が来ることはなかったのも、その点かと思います。どういう状況を望まれていたのか不明なのですが、「分からないことがあれば、その都度聞いてほしい」とはお伝えしてあったと思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

カリキュラム改訂により、これまで2年生で開講していた科目を1年後期に実施するにあたり、1年生だからといって授業内容を減らすことは考えず、できる限り理解しやすいようにと説明を丁寧に行ったつもりです。また、基礎科目(解剖学・生理学・運動学)との関連が意識できるよう、復習になるような問いかけもこれまで以上に行いました。結果として「分かりやすかった」「イメージしやすかった」というご意見が多かったので、ホッとしています。スライドの文字が見づらいことがあったとの意見もありましたが、今後もより分かりやすい授業スタイルになるよう、見直していきたいと思っています。

◆今後の改善に向けて

「質問のしやすい環境」というのはどういうものなのか、授業のスピードとの兼ね合いもあり難しい点ですが、今後も検討していきたいと思っています。受講者の多くは「熱心に取り組んだ」との自己評価をしていますので、興味を持って授業を受けてくれたのだと理解したいと思っています。



科目名

52. 臨床実習Ⅰ（見学）

担当教員

加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・臼井 晴信・山田 南欧美・
齊藤 誠・濱田 光佑

専攻・配当年次

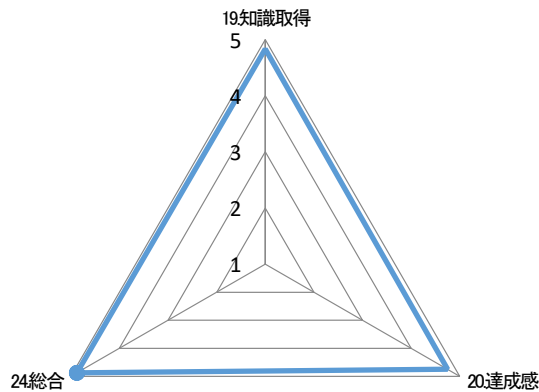
PT 1年

回答者数

24 名

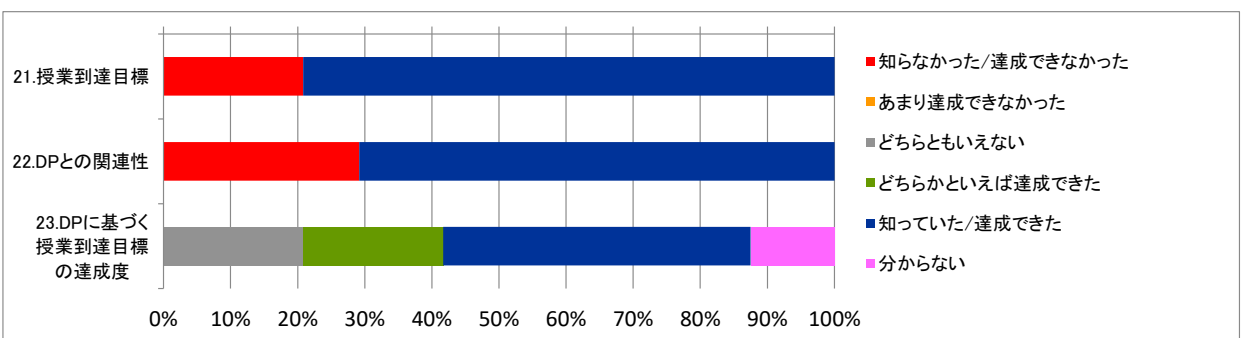
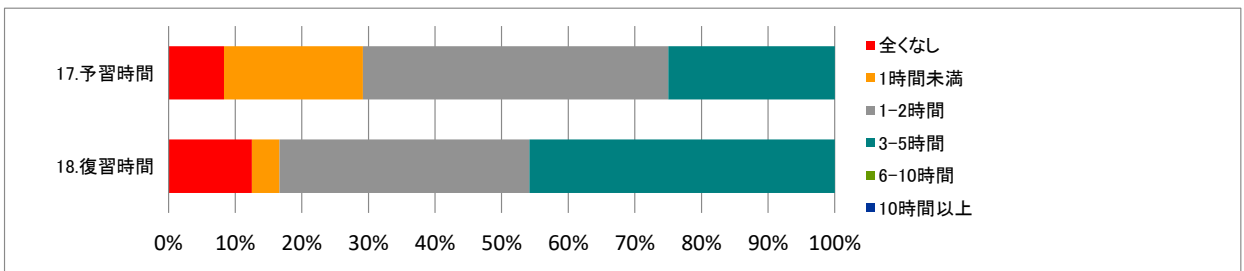
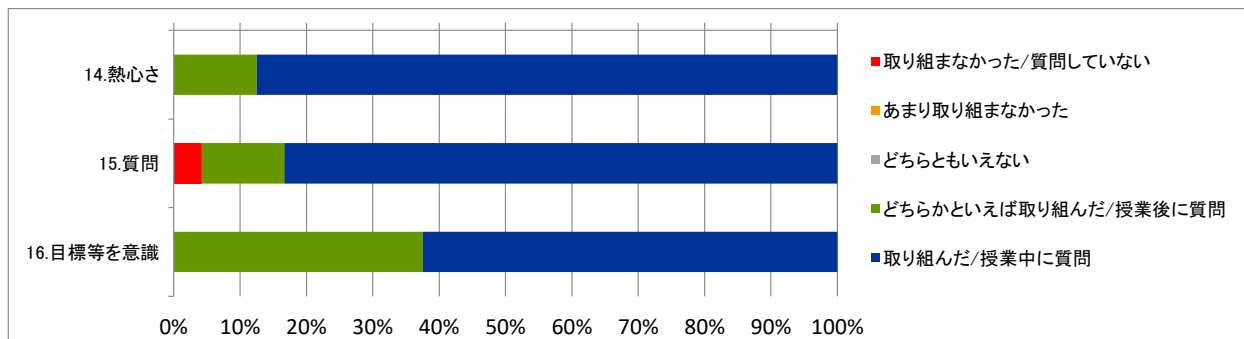
◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



◆集計データ結果について

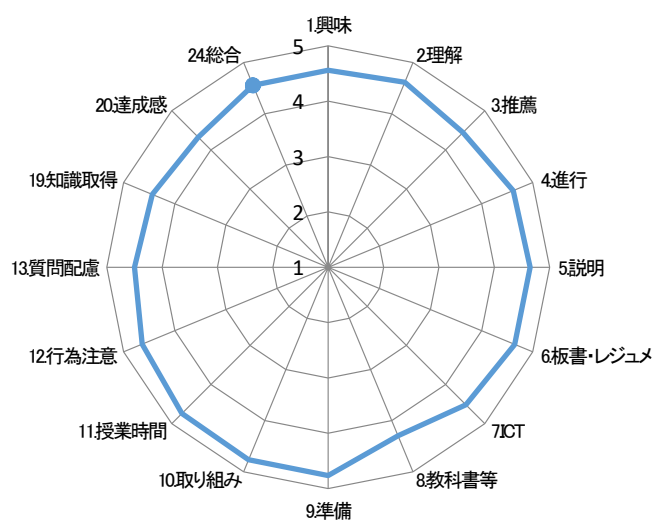
総合点が4.6点で、すべての項目で4以上であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

統計学のスライド動画授業と、指導教員とのゼミに関する記載があった。
統計学の授業は、急遽、オンライン授業をすることになり、スライド動画を配信、視聴後、演習問題を解き提出という形式で行った。スライド内容、その解説の分かりやすさ、資料配布、知識の習得などについて良かったという意見が多数ある。
指導教員とのゼミに関しても、たくさん論文を読んだ、先生からの指導が良いという意見がある。
ネガティブな意見はなかった。

◆今後の改善に向けて

急なオンライン授業で、スライド動画や演習問題の準備に追われたが、学生からは好評であった。
特に改善点はない。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆集計データ結果について

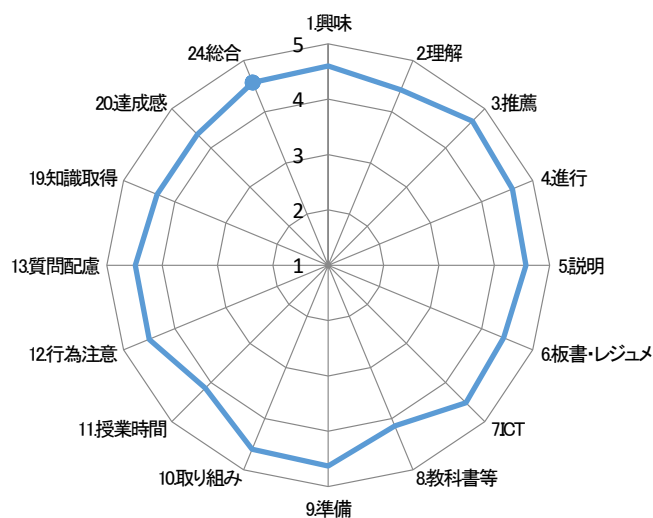
すべての項目で4点以上であった。授業時間と教科書等に関する項目は若干低い結果である。
学生の取り組みも熱心に取り組んでいる学生が多かった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークにより、自分と異なる視点や意見を聞く機会が取れた点がよかったとの意見が多く見られた。疾患者の動作を動画を使い検討したが、実際の疾患者の動作を見る上でのポイントを繰り返し行えた点も評価されていた。
学生自身で考えることを重点に授業を展開したが、提示した資料は少ないと感じた学生の意見もみられた。

◆今後の改善に向けて

効果的な資料の提示は引き続き検討が必要である。
今回は教室の関係で席によってはスライドの見えにくさもあった点は改善の余地があるが、大きな問題はなく実施できていた。適宜グループワークを取り入れることとそのつどフィードバックを入れることは今後も継続していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

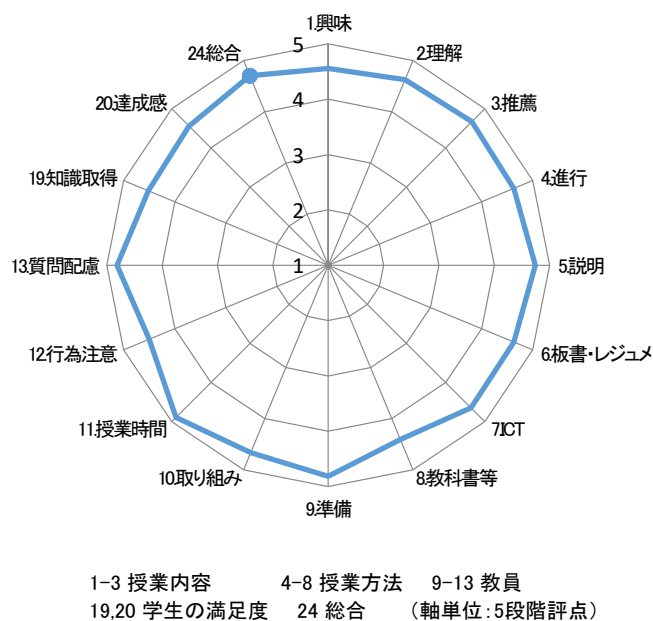
ほとんどの項目で4.5点以上であり、講義内容は問題なかったと考える。質問について、40%の学生が全くしなかったと解答している。講義終了時にレポートを課しているが、そのレポート内で疑問があれば述べるように促している。それにも関わらず、質問が出なかったと言うことは、疑問を持てるような講義内容ではなかったかもしれない。グループワーク中心の講義形式ではあるが、学生が自ら考えられるような仕掛けが必要かもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークでお互いに意見交換ができたという点について肯定的に捉えている学生が多かった。グループでの話し合いも積極的に行っており、受け身の講義より、学生の主体的な学修を促すことが出来たと思う。4人程度の少人数のグループで行ったことも学修を促せた要因かもしれない。レポートには毎回コメントをして返却していたが、それについても肯定的な意見があった。毎回レポートにコメントをして返却するのは大変だが、臨床的な視点を身につけたり、思考を促したりする目的がある。今後も続けようと思う。

◆今後の改善に向けて

次年度から指定規則の改正に伴い大幅に講義時間および教授内容が増える。それに伴い、求められる知識の量・質も高くなる。グループワーク中心の講義形式で行うが、知識を使えるものにするための工夫をしたいと思う。



◆集計データ結果について

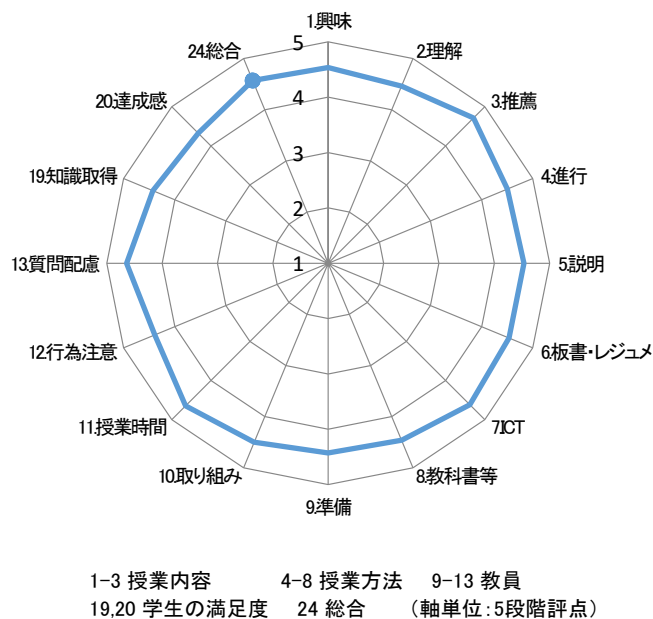
概ね良い評価だった。学修の理解や満足度がやや低い、学生によっては難易度が高いと感じたのかもしれない。また、グループワーク中心の講義であり、主体的な参加が求められていたが、主体的に参加出来た学生と、そうではない学生との間で学修成果に差が出た可能性もある。この科目は臨床実習に行く前の総合的な学習を行う科目である。そのため、復習が重要であるが、半数以上の学生は復習に費やした時間が2時間未満であった。その点も学修成果の差がでた要因だと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

臨床実習や現場での理学療法を見据えた講義であることを理解し、前向きに捉えていた学生が多かった。難しい内容もあったが、必要なことだと認識できていると思われる。一方、グループワークでの他の班員の関わりが良くなかったり、班の間での到達点に差が出たりしていると指摘する意見もあった。到達点に差が出ているとしたら、グループに応じた必要な助言が足りていなかったのかもしれない。お互いに意見を出し合い協働することも講義の目標に含まれている。班員の関わり方については、重大な場合を除いて学生同士での働きかけを期待したい。

◆今後の改善に向けて

自由記述の中に、医療面接に関して詳しく教授して欲しかったという意見があった。臨床ではとても重要な内容であるにもかかわらず、講義時間内で割ける時間は2コマである。今年度は動画教材なども準備して内容の拡充を図った。今後、講義内容を確認し、さらに時間をかけて講義や演習が出来ないかを検討する。症例検討に関するグループワークや実技試験について、次年度も今年度の内容と大幅な変更は行わない。



科目名

57. 中枢神経系障害理学療法治療学

担当教員

加藤 真弓 ・ 松村 仁実

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

46 名

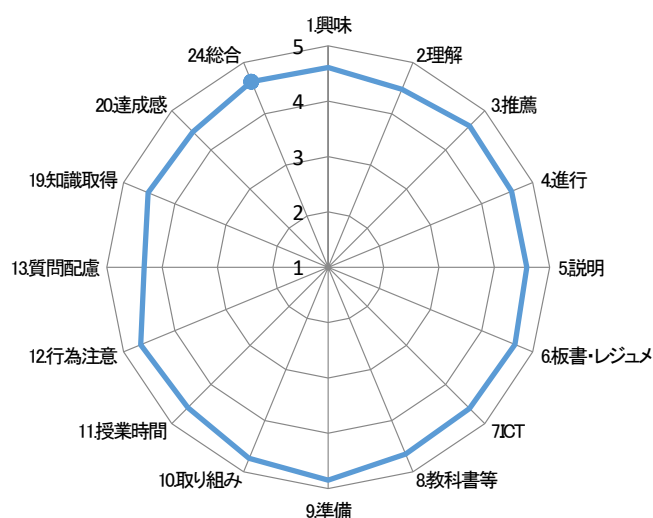
◆集計データ結果について

全ての項目で4点以上であった。目標を意識して取り組んだ学生が、「どちらかといえば取り組んだ」、「取り組んだ」を合わせ7割以上であった。また、熱心に取り組んだ学生が、「どちらかといえば取り組んだ」、「取り組んだ」を合わせて9割以上であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

オンライン中心の授業のため、不安を抱えて臨んだ学生が多かった。しかし、スライドや講義資料などについては分かりやすかったとの評価が多かった。また、授業中を含め確認や復習テストなどをこまめに設定したことでモチベーションの維持につながっていたことがわかった。

一方、オンラインであったため、メモを取る時間が無かったことや聞きづらさがあったなどの学生がつまづいている時への配慮が不足している点が意見に挙げられていた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

授業内容に関しては、オンライン授業用に準備したものを通して、学生のモチベーションを維持した授業展開がおおむねできていたと考える。オンライン授業では、そのつど小テストを実施し、理解度を確認する点は効果的であり、継続していきたい。

実施した課題については、自身で調べる時間を確保することにつながり、復習による学習効果が期待された。知識を使って考え、まとめる課題を提示を行ってきたい。

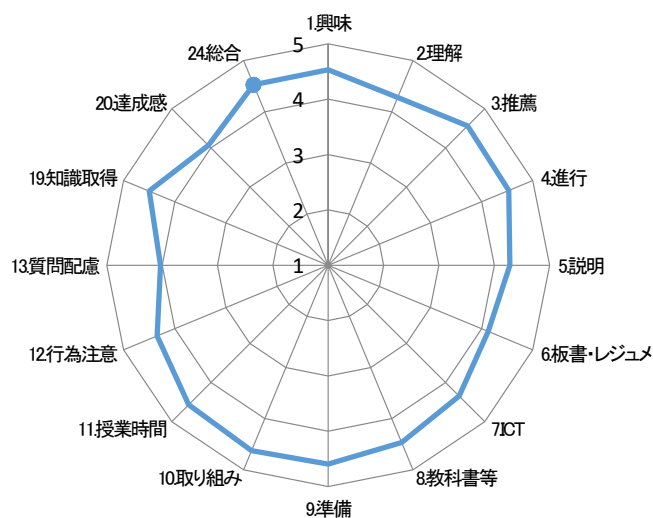
◆集計データ結果について

おおむね4点台半ばの結果であった。「質問への配慮」、「達成感の獲得」では、4点台前半と若干低い結果となった。質問に関しては、6割程度の学生が、授業中あるいは授業後に質問はしたと回答されていた。6割を超える学生が、DPとの関連性を理解し、達成できていると回答があった。3割弱の学生が予習は全くしていないと回答、一方復習は時間の差はあるが、9割以上の学生が行っていると回答している。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

教室の収容人数の制限により、適切な講義教室で授業できなかったこともあり、スライドの見えにくさの声が多数あった。教室に応じた配慮が不十分であったことが反省点である。資料の配布や、パソコン持参による画面の共有などが具体的な方法と回答があり、参考にした。

授業内で展開したグループワークに関しては、意見交換しながら進めることができたとの声があり、評価できる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

グループワークは引き続き取り入れ授業展開をしていく。適性な教室利用により改善する部分もあると思うが、質問できる雰囲気や拾い上げるタイミングに配慮したい。小テストの実施により復習を促すようにしていく。

提示するスライドに関しては、適宜見直しを加え見えやすさの工夫をする。加えて必要な資料の提示も検討する。必要に応じパソコン持参させ、画面の共有なども方法として利用可能であると言える。

実技も含めた授業であるため、予習を有効利用することを検討する。事前に調べ不明点を授業で確認する方法も効果的と考える。

◆集計データ結果について

概ね良好な結果であったと認識している。

本講義は、事前に動画での解説を配信し、講義時間内では小テストと質問の解説を行う形式とした。

例年、質問を募り、それに回答する方法は行っているが、事前に学習時間を設けた分、質問の内容も例年より良かったように感じている。

配信に関する著作権的な問題もあるが、来年度以降も継続していければ良いと考えている。

上記講義形式にも関わらず、予習時間を「全くなし」と回答した学生が複数名いたことは、素直に解釈するのであれば残念であり、非常に疑問である。質問の意図が十分に理解できなかった可能性も考慮した上で、来年度以降の指導に反映したい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

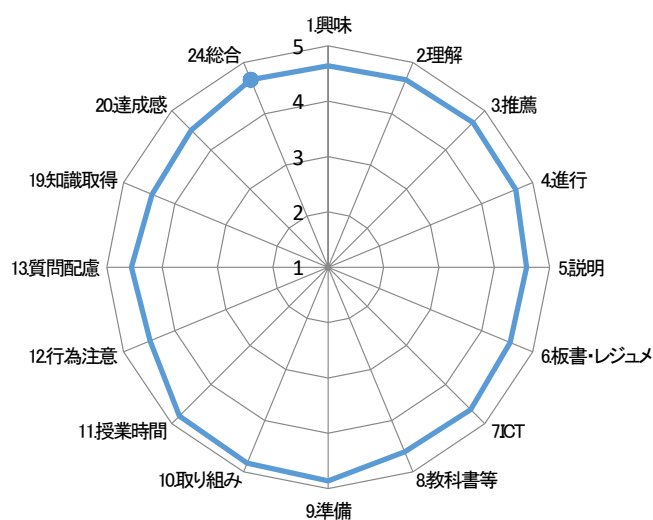
全体的にはわかりやすかったという意見が多かった。

「わかりやすいこと」を目的とすべきではないと思うが、質問が例年より多かったことから学生が主体的に取り組んでいたのではな

いかと推察される。並行して講義内容が評価されたことは素直にうれしく思う。

小テストの出題方法が周知しきれていなかったことがうかがえる記述も一部あった。オンラインにて講義概要を説明したため、全体

への周知が不十分になった可能性は考えられる。この点は改めたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

以前から今回の講義形式での実施する機会を模索していたため、コロナウイルスの影響により対面講義が禁止になったことは残念であるが、良いきっかけになったと感じている。

来年度以降も、今年度の方法を踏襲する形で進めていきたいと思う。

科目名

60. 整形外科系障害理学療法治療学実習

担当教員

齊藤 誠

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

31 名

◆集計データ結果について

おおむね良好な結果であると認識している。

グループワークや課題が多い講義であり、ある程度の自己学習時間を確保できていることも良かったと考えている。

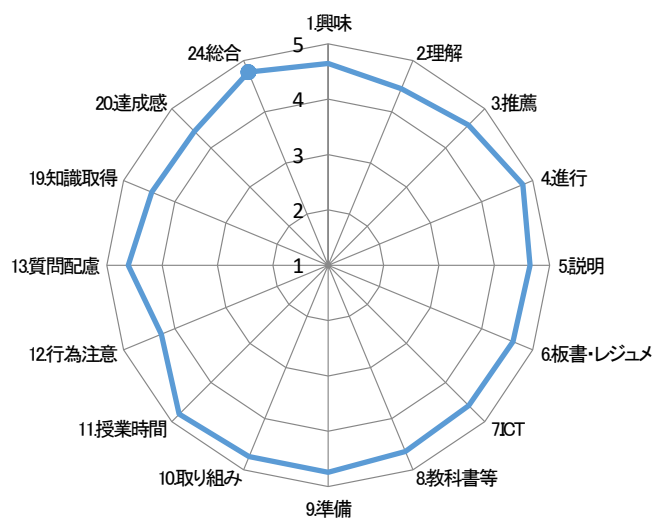
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

レポートのフィードバックに関しては、好意的な意見が多かった。

一部、返却が遅いことに対する指摘もあった。教員からのフィードバックを、次回以降のレポートに反映できることから早期の返却が望ましいことは理解できるが、受講している学生数も多く、実現可能性は低いと思われる。よって「今後の改善に向けて」に対応策を記述する。

◆今後の改善に向けて

レポートを早期に返却することは、理想的であるが常にそれが達成できる状況ではない。来年度以降は、学生同士のフィードバックの機会を増やすことを目標に講義計画を立案していきたい。他の学生のレポートを添削することで得られる学習効果も大きいと期待されるため、各グループでレポートを添削する機会を作っていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

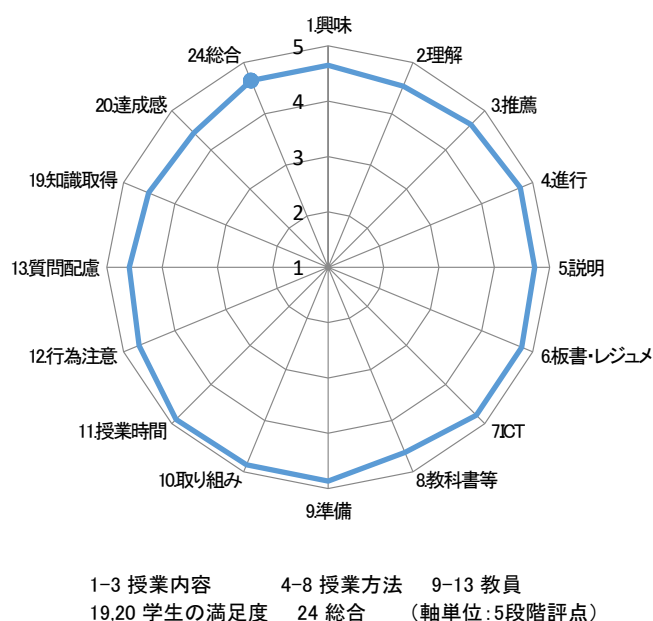
ほとんどの項目で4.5点以上だった。「達成感」の項目はやや低かったため、講義内容が難しかったかもしれない。予習や復習を行うための課題設定をしたことで、講義時間以外での学修を行うこともできたようである。質問の項目で「とりくまなかった」という学生が多い。目標を持って取り組んだという学生は多かったため内容に関心が持てなかったとは考えにくい。質問をしにくかったのか、質問をするだけの知識がなかったのかはわからない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

動画資料や配付資料がわかりやすかったという視覚的な教材に対する肯定的な意見が多かった。また講義内容は難しかったという意見も多かったが、反面、説明がわかりやすかったという意見も多かった。講義のスピードや内容に関しては問題がないと思われる。

◆今後の改善に向けて

内容は難しい分野で関心を持ちにくい学生も多いかもしれない。臨床ではとても大切な内容ばかりで講義内容をやさしくすることは考えていない。興味や関心を持てるように、アクティブラーニングの時間を増やし主体的に学ぶことができる仕掛けが必要である。動画教材に加え、今後も様々な学修方法を導入しようと思う。



◆集計データ結果について

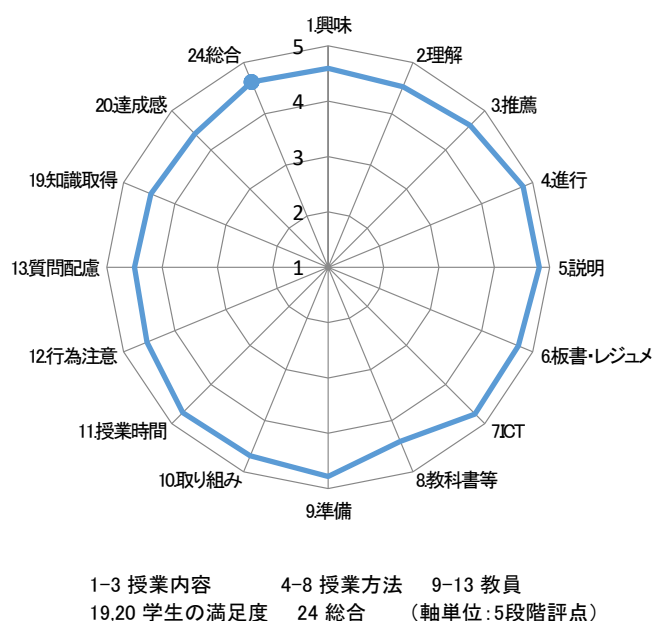
達成感を除く全ての質問項目で4.5点以上であり、概ね良い評価だった。意欲的に取り組んだが、達成感が低くなったのは内容の難しさによるかもしれない。課題として予習と復習を具体的に提示した。そのため多くの学生で予習・復習時間を取っていると解答しているが、一部予習または復習が全くなしに解答している。課題を自ら行っていないのか、課題は予習復習に含めていないのかはわからない。ただ、復習が「全くない」という学生の割合と単位不認定者の割合が同程度だということは気になる点である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

例年、内容が難しいという意見が多いが、今年はわかりやすいという意見が多かった。できる限り学生に考える時間や課題を設定したことが影響したかもしれない。体力測定プログラムなどの実習や発表会については、良い学修になったと肯定的な意見が多かった。教科書について、授業で使わないので購入した意味が分からないという意見もあった。講義で設定している課題や実習での考察では教科書を積極的に使うことを推奨している。また教科書は予習・復習や国家試験対策、臨床実習など本講義以外での活用も視野に入れて選定している。以上のことを改めて学生に説明する必要があると考える。

◆今後の改善に向けて

来年度より指定規則の改定に伴って講義時間が増える。より実践的、臨床的な学修を行えるような講義を構成したいと考える。体力プログラムについては実習、発表ともに継続して行う。



◆集計データ結果について

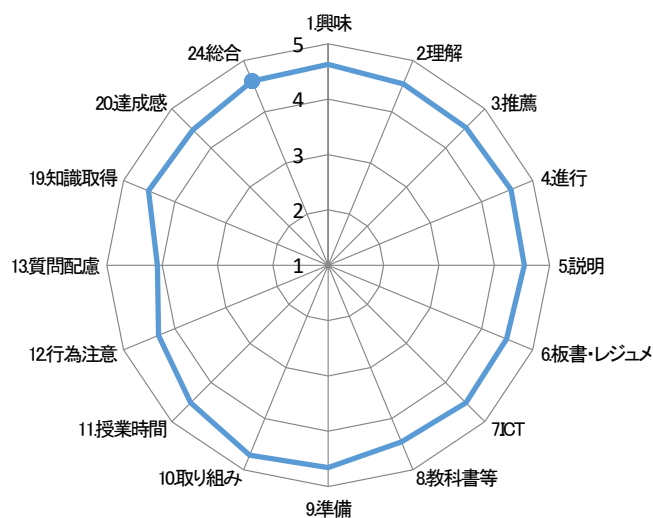
全体を通して概ね4点以上となっており、偏りのない評価となっている。

教科書に加え、講義スライドで図や動画の提示を行ったことで学生の理解や満足度、達成感の項目で評価を得られたと考える。予習時間全くなし12名、1時間未満が8割、復習時間全くなし4名、1時間未満が半数を超えてとなっており、次回講義内容や具体的な学習箇所の提示も必要であったと考える。

授業に「熱心に取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」と回答している学生が9割を超えているが、「理解できない点を質問した」と回答した学生は約2割にとどまっており、疑問点を解決できる対策が必要だと感じた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

小児期の発達、理学療法は学生にとってはイメージのしにくい分野であったと思うが、「写真や動画があって理解しやすかった」「実際の小児の動画を見ることが出来たため、関連付けながら理解することが出来た」との意見が多く、発達過程や実際の治療場面の動画の提示を行ったことで、学生が子どもの発達をイメージし、理解を深めることができたと考える。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

小児の発達や疾患については学生がイメージしにくい分野であると考え、動画やイラストを取り入れながら講義を展開し、学生からの評価も得られたが、授業態度や試験結果を踏まえると学生の理解や興味関心を十分に得られなかった点もあったと考えられる。今後はグループワークやレポート提出など、学生がより主体的に取り組めような講義展開を検討していきたい。

今回の集計結果では予習を全くしていない学生も多かったが、予備知識をもって講義を受けることにより理解を深めやすいように予習課題の提示も行っていけるとよいと考える。

科目名

64. 小児疾患系障害理学療法治療学実習

担当教員

多田 智美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

36 名

◆集計データ結果について

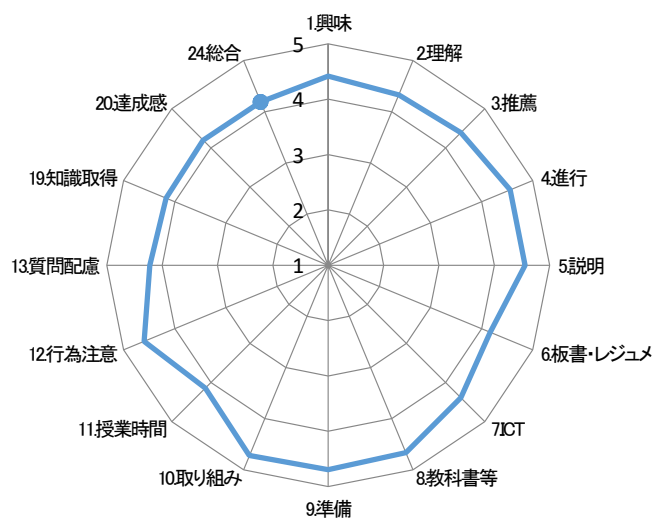
妥当な結果と考えます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実技は今後も必要であると考えています。スライドの配布は今後も行う予定はありません。スライドを配布すれば、自然と考えながら筆記してその場で覚えていくという作業をやめてしまいますので、さらに勉強の時間が必要となってしまう可能性が高いです。考えながら筆記をすることで、逆に勉強時間の短縮になると思います。頑張って筆記をしてください。画像については、今後もできるだけ多用し、イメージを形成していただきたいと思います。

◆今後の改善に向けて

今年度は授業時間が短くなっているため、授業のスピードが速くなりました。近年は小児領域の国家試験問題が増えてきていますので、内容を削ることも難しく、その点ではついていくことが大変であったかもしれませんが、おおよその必要領域は伝えていくことが肝心と考えています。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

65. 老年期障害理学療法学

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

48 名

◆集計データ結果について

概ね4以上でしたが、「質問配慮」が若干低い評価となりました。わからないことはその場で挙手して質問するように、講義初回到伝えたのですが、どのような配慮を受講者が望んでいたのか、ご意見がいただきたかったです。

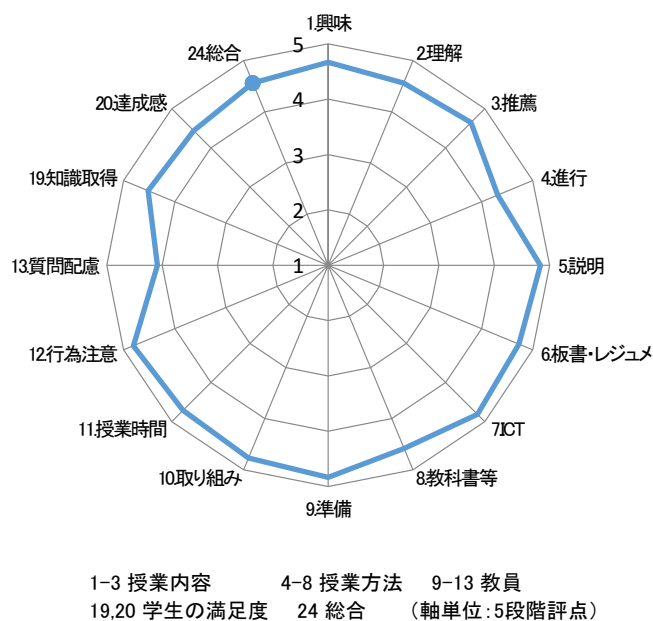
講義への参加度に関しては、質問等は積極的に行わなかったけれど、意識を持って熱心に参加したと感じている学生が多いという結果が示されていました。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

今年は、オンラインの講義が多くなりましたので、「授業スピードが速い」「ポイントが理解しづらい」などの声が例年より多くありました。対面授業の時は、受講者の状況を確認しながらスライドを進めたり、分かりにくかったかな？と感じたらもう一度説明をしたりなど、その都度調整していましたが、リモート授業ではそれはできませんでしたので、この結果は当然かと思っています。ただ、プリントやスライドは見やすかったという声も多くいただくことができましたし、個人的には「聞きやすい声であった」というのはオンライン授業ならではの意見で、少しうれしかったです。

◆今後の改善に向けて

やはり、受講されている皆さんの様子を確認しながらできる対面授業が、私にとってはやりやすいと感じながら授業をするという1年でした。今回は、オンライン授業ならではの意見もありましたが、どういう授業形態であっても、できるだけ分かりやすく皆さんに伝わるように、という気持ちを忘れず、今後も工夫をしていきたいと思っています。



科目名

66. 日常生活活動学

担当教員

加藤 真弓

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

46 名

◆集計データ結果について

平均点が4.62、総合点が4.60であり概ね良好な結果であったと考える。項目で最も低かったのは「質問配慮」の4.36であった。質問をしたかの問いに対しては半数以上がしていなかった。オンライン授業、対面授業ともに質問してくれる学生さんは大体同じ顔触れである。質問に関しては、授業中、授業後の振り返りシートで受け付けていたため配慮は行っていた。どのような配慮をしてほしかったのかは推測が難しく思う。

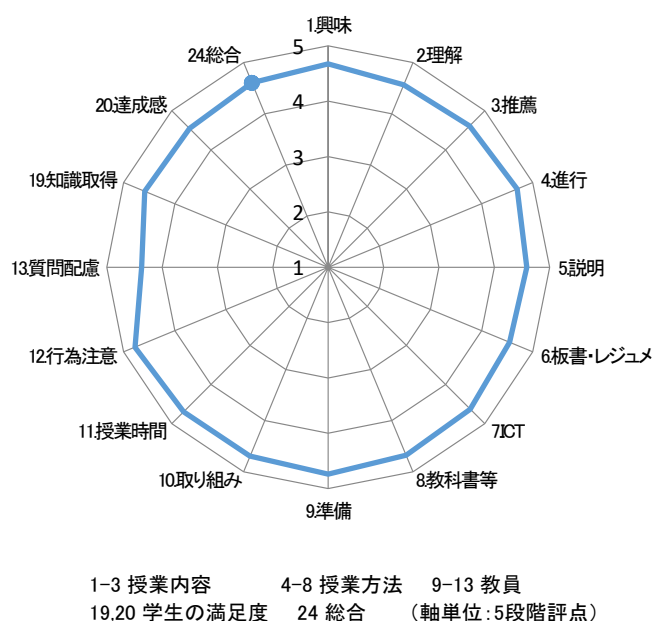
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

46件中、37件の記載があった。肯定的意見が多かった。その意見としてはグループワークとしての取組みがあつてよかった、授業中に復習時間や確認テストがあつてよかった、説明が丁寧でわかりやすかったが多かった。復習課題が沢山あった、しかしその復習で理解が深まったという意見もあった。今回、75分間の授業であつたため、復習や予習の位置づけで課題を実施したため、その点は授業の一部と考えていただきたい。本授業は、基本的にスライドを使用せず教科書と板書を中心に行っている。必要なことはノートを取り、教科書の記載内容を一つ一つ学生自身で理解してもらうためである。教科書があるのにその教科書を教員がさらにわかりやすくまとめて示すことは、学生自身の読解力や要約力、わからない意味を調べるなどの力が伸びないと考えるので、学生さんは常に教えてもらうのではなく、自分で学ぶ力をつける練習をしていただきたい。

オンライン授業の時は、冒頭に必ず声が聞こえているかの確認をとっていたが、声が小さいと指摘があつた。このようなことは、授業中にぜひ指摘いただきたい。後から言われても困る内容である。

◆今後の改善に向けて

コロナ禍であつたため、授業の約4分の1がオンライン授業であつた。オンラインでの実施の場合は、一方向で聴くみの授業ではなく、学生自身で考え発表する時間や確認テストなど、集中して取り組める工夫を引き続きしていきたい。質問への配慮については、口頭で直接質問ができないケースもあると思うため、振り返りシート等で質問できるように今後もしていきたい。



◆集計データ結果について

グラフに示す質問項目の平均点が4.52、総合点が4.57であり概ね良好な結果であったと考える。しかし、回答者数が少ないため十分な結果と言えない。項目で低かったのは「ICT」「授業時間」「質問配慮」の3項目で4.3であった。授業はすべて対面で実施し、その場での質問の有無を確認し、授業後には振り返りシートをGooleFormで配信し質問も受け付けていたので、是非その中で質問をしていただきたいと思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

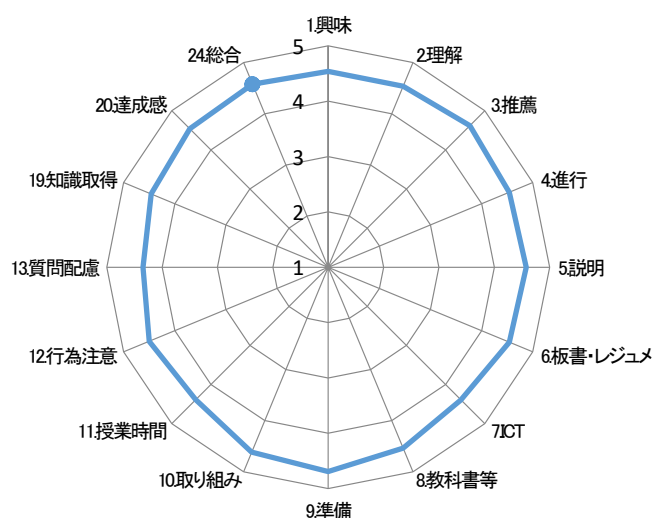
肯定的意見が多かった。その意見としては説明のわかりやすさ、細かく教えてもらえた、実技練習ができたこと、疾患別の症例検討をしたことで理解が深まったこと、小テストがあって知識の確認ができたこと等があった。実技練習については、実技の総括として、臨床実習後の3年生に患者役になってもらい実施することは好評であり、今後も継続していきたい。症例検討については、実技時間確保が難しいため当初の予定から変更し実施した内容であるが、自ら考えグループメンバーとディスカッションできる機会は今後も取り入れていきたい。課題を解決するために、考え、調べ、精査して、まとめあげプレゼンする過程で、今後の患者の課題解決のスキルを身につけていく取り組みがしたい。

◆今後の改善に向けて

改善の検討を考える上での意見として、「実技練習時間がもう少し欲しかった」「教科書の内容をもう少し詳しく教えてほしい」「資料が教科書しかないのでプリントがあるとよかった」があった。「実技練習時間」については、コロナ禍であったため定期的に身体接触の機会を少なくする目的があったこと、教室の収容人数制限のため3か所の教室で実施しなければならなかったこと等の理由から例年よりもやや少なくなった。次年度は、新型コロナに関する社会情勢の変化を見ながら、極力実技時間がとれるようにしていきたい。

「教科書の内容説明」については、症例検討にて触れられていた内容に関して改めて説明することをしなかった。この点については、授業の流れを学生に理解してもらえよう丁寧に説明したい。

「プリントが欲しい」については、是非図書館に行つて関連する書籍を手にとって学習していただきたい。そのために、授業外学習があるが、次年度は授業内で学ぶことと授業外学習(自己学習)で行うことを明確に提示できるようにしたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

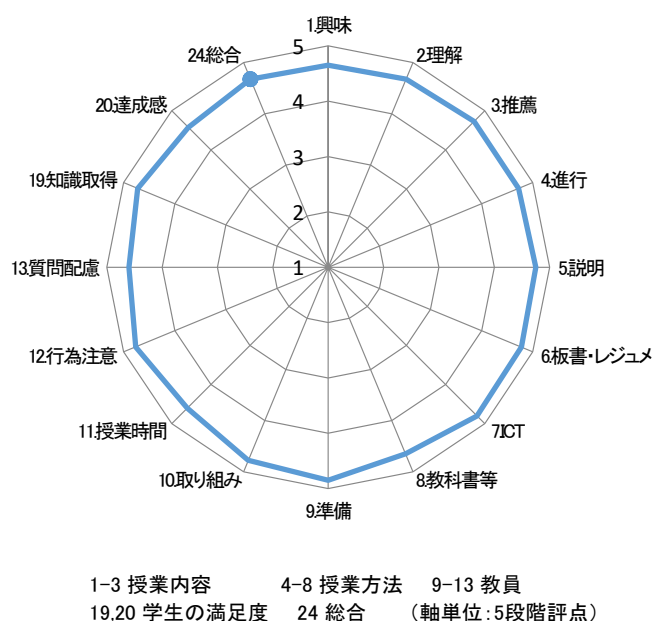
本アンケートにおいて、全ての項目について、4.5点以上で、達成感4.6点、総合は4.7点と、高い評価を得ることができた。今年は、初めてのオンライン授業展開となり、画面越しで義肢装具についての特徴を説明するのに苦労する場面もあったが、資料をわかりやすくしたり、カメラ越しに教員が動いて見せたり、一番最後の授業だけ対面で行って、実物資料に触れてもらう機会を作ったり、と工夫を重ねた。その結果として、これまでの対面での授業と変わらない評価を得ることができたと考える。予習・復習時間について、数名「全くなし」と回答しているが、多くのものが、1時間未満、もしくは1-2時間と一定時間の予習復習を行っていたと考える。事前には予習用の資料を配信し、授業後には授業で使った資料の配信を行った。これらも活用されていたと考える。「熱心さ」については、80%以上の学生が「熱心に取り組んだ」と回答しており、オンライン授業という集中が難しいなかで、一生懸命取り組むことができていたと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

オンライン授業で使ったスライド・レジュメが理解しやすかったとの記載が多くみられた。オンライン授業でもわかりやすいよう、パワーポイント資料を工夫して作成したことが、この評価につながったと考える。また、「先生の説明が分かりやすかった」との意見もあり、オンライン上でも、カメラで顔を映し、身振り手振りで説明したことが、学習の理解を高めることに繋げることができたと考える。そして、「実際に装具を見て触れることができて良かった」との意見が最も多かった。講義は全てオンラインで行ったうえで、最終コマのみ対面で実施し、学校に置いている義肢装具を実際に触れてもらった。これにより、オンラインでの授業では十分に理解できなかった実際のイメージを具現化することができ、より学生の理解を深めることができたと考える。少数であったが、「小テスト」があつて良かったとの意見もあった。小テストでは、前回授業範囲を授業のはじめにテストした。オンライン授業であつたため、GoogleFormを用いたwebテストであったが、小テストがあつたことで、学習機会を増やすことができたと考える。

◆今後の改善に向けて

今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、初めてオンラインで授業を実施した。義肢装具学は、学生がほとんど無知である分野であり、実際のイメージをしっかり持ってもらいながら、わかりやすく講義することが重要であると考えたため、オンライン授業であっても、理解しやすい授業展開にすることを心掛けた。その結果、達成感も高く、全体として高評価を得られる授業になったと考える。よって、今後も同様の方法で授業を実施していく予定である。今年は、基本的に全てオンラインで実施し、最後、実物を見る時のみ対面で実施した。来年度以降の世間状況にもよるが、本科目は義肢装具の実際を十分に理解する必要がある、可能な限り「オンラインと対面のハイブリッド方式」で授業展開を実施していきたい。資料の配信や小テストの実施について、学習機会を作ることに繋がっていたことから、今後も同様の方式で実施していく予定である。



69. 義肢装具学実習

担当教員

山田 南欧美 ・ 西井 千博

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

27 名

◆集計データ結果について

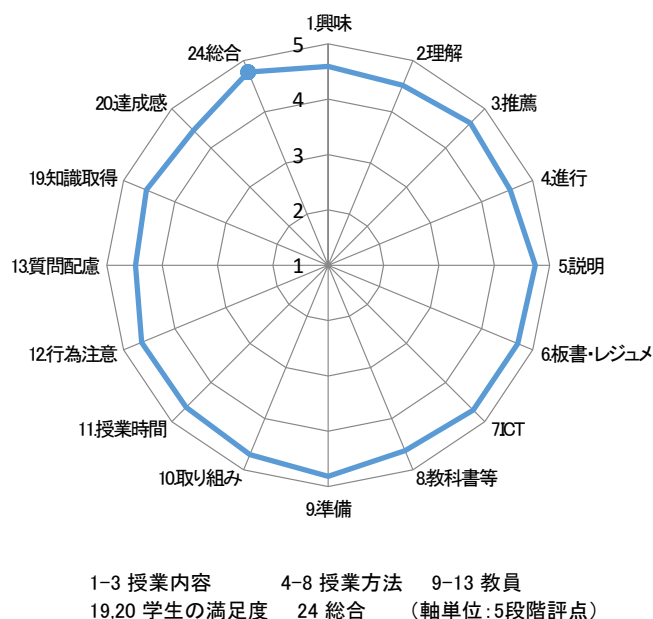
総合得点は4.78点であり、概ね高評価を得られたと考えている。知識取得は4.56点、達成感4.45点であり、学生の学習習熟度も高かったと考える。他項目についても、概ね4.5点以上で、質問配慮のみ、4.48点であった。前期の義肢装具学で行っていた授業後の質問用フォームの配信を義肢装具学実習では実施しなかったため、配慮が足りないと判断した学生がいた可能性がある。授業内で質問を受け付けるように心がけていたが、学生が質問しやすい環境づくりを工夫する必要がある。予習復習時間について、全く実施していないと回答した学生が3割以上いた。本授業では小テストを実施しておらず、家庭学習を促すことができなかった可能性が高い。小テストの有無に関わらず、自宅学習を促してもらえるよう声かけを行っていたつもりだが、実際の勉強時間に繋がっていないので、自宅学習を促す工夫が必要であると考えた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目では、スライド資料を使用した講義形式、国試過去問をグループで解き・解説をするグループワーク、義肢装具士を招いた体験型授業を実施した。自由記載から「スライド資料が見やすかった」「実際に装具に触れたり、体験することができて理解が深まった」「グループで国試問題を解くことでより理解が深まった。」といった意見が多くみられた。グループワークでアウトプットを図ったことで、学生の理解度を深めることができたと考える。義肢装具士による講義や装具・義足の体験を通して、実際の臨床場面を意識させることもできたと考え、「本物の義肢装具に触れることができて、実際使っている人の感覚や気持ちを考えることができた。」との意見もあり、理学療法士として義肢装具を処方する際に必要になる知識・配慮の修得を促すことができたと考える。

◆今後の改善に向けて

全体的に高評価であったことから、次年度も同様な内容にて授業展開を図っていく予定である。自宅学習を促すために、小テストの実施や課題の提示などがさらに必要であると考え、次年度も義肢装具士による講義を予定しており、実際に装具や義足に触れる機会を作っていく。国家試験にも必ず出題される科目範囲であり、引き続き学生の理解を深められるよう、授業を工夫していく。



科目名

70. 物理療法学

担当教員

白井 晴信

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

41 名

◆集計データ結果について

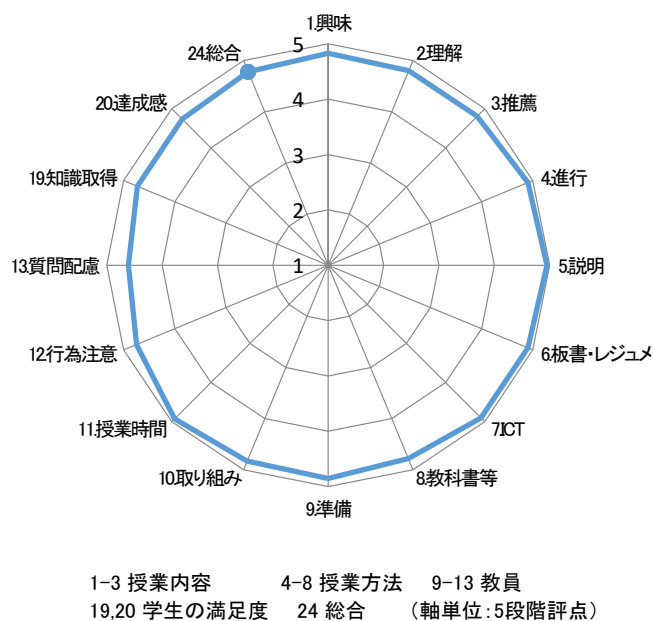
ほとんどの項目で平均点が4.5点以上だった。授業の満足度は高かったと思われる。今年度は動画を使ったり、自宅で実験したりと遠隔での講義内容が多かったが、動画を何度も見返すことや実験の考察、グループでの発表などが知識の理解を促したと思われる。一方、予習に費やす時間を全く取らなかったと回答した学生が20%以上いた。今後は予習を促すことでより知識の定着が図れるかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

資料が見やすかった、動画がわかりやすかったという視覚的な教材に対する肯定的な意見が多かった。講義内では実験や演習、グループワークなどを取り入れたが、それらに対する肯定的な意見も多かった。実践的な演習形式の講義は、興味を持ちやすいと思われる。

◆今後の改善に向けて

遠隔授業を行うに当たり動画教材を準備したが、今後も動画教材は積極的に取り入れ、予習、復習を促す。科学的な思考過程を養うために実験とその考察を多く取り入れたが、今後は発表の機会などを増やしてアクティブラーニングを充実したい。



科目名

71. 物理療法学実習

担当教員

臼井 晴信 ・ 濱田 光佑

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

32 名

◆集計データ結果について

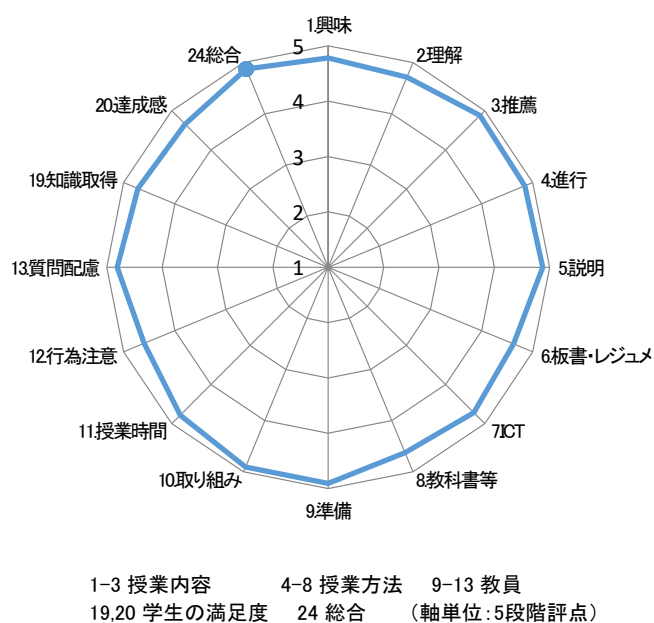
集計結果はほとんどの項目で4.5を超えているので、授業内容に問題はないと思われる。予習、復習にかけた時間が全くないと答えた学生が10%程度あった。実習科目のため、グループ内で取り組みに差が生まれたのかもしれない。自己学習を促すことが必要と思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

楽しく取り組めたという意見が多かった。実際に自分たちの身体を使って実験することで主体的な学習を促すことが出来たと思う。授業の目的は、物理療法の原理や身体への影響を学習することの他に、データの科学的分析や客観的な考察をすることが含まれていた。興味を持って科学的に分析することまで至った学生はあまり多くないかもしれない。

◆今後の改善に向けて

データの処理、論理的思考などの科学的分析を促すことが今後必要である。レポートのフィードバックなどを今年度はオンラインで行ったが、その効果を検証し次年度以降に生かす必要がある。

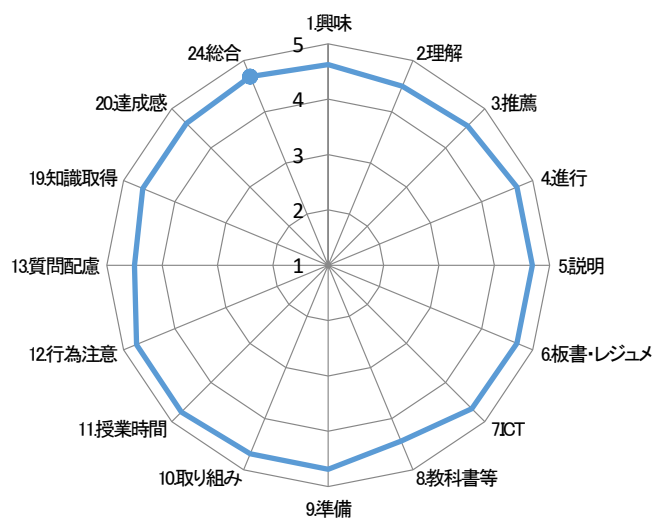


◆集計データ結果について

レーダーチャートで示されているほとんどの質問項目で4.5以上であったことから、良好な結果であったと言える。本科目は、選択科目であるため関心・興味の高い学生が受講していることの影響もあると考える。一方で、ディプロマポリシーとの関連や到達目標を知らない学生が多かった。シラバスの事前確認ができていない前提の元、授業を進めたため今後は授業初回、最終回に説明や自己評価を行う機会を設け、目的をもって取り組めるようにしたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

特に実技に対して肯定的な意見が多かった。理学療法技術の中での手技的なことは2年生までの授業で実施されないこと、臨床実習で理学療法の実際を学び、あと半年ほどで臨床で働く段階であったことが実技への肯定的な意見に繋がったと考える。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

3年次の臨床実習後に開講され、また選択科目であるため中枢神経系疾患に対する理学療法により関心の高い学生が受講している。ただ関心があるから受けるだけでなく、受講することで何が身につくのか、身についたのかなどの目的を持って受講してもらるように、授業内での目標確認と授業最終日の目的達成の確認をし、より有意義な時間としたい。また、臨床に出たときに使えるような技術の紹介を継続して行いたい。

◆集計データ結果について

全般的な項目で4.5程度の評価点となっており、良好な評価であったと認識している。

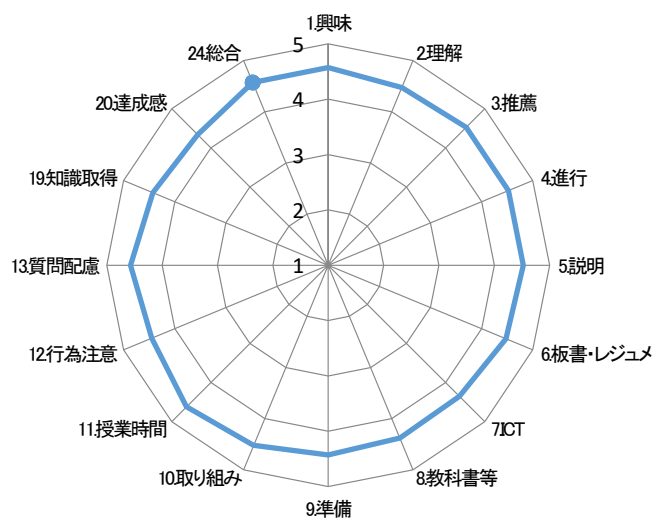
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本講義は臨床実習後の学生を対象としており、基本的評価・治療技術をより高めるための関節の運動方法などを実技形式で伝達している。自由記載でも「実技が良かった」という主旨のコメントが散見されており、「臨床でも役に立ちそう」といったコメントも見受けられた。半年後に臨床現場で働く学生に対して行う講義としては有用であったと認識している。

◆今後の改善に向けて

授業評価アンケートの結果より、内容自体に大きな問題はないと考えている。

学生が患者の身体に負担のかからない検査・治療方法を模索するきっかけになれば幸いである。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

科目名

74. 理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法）

担当教員

鳥居 昭久

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

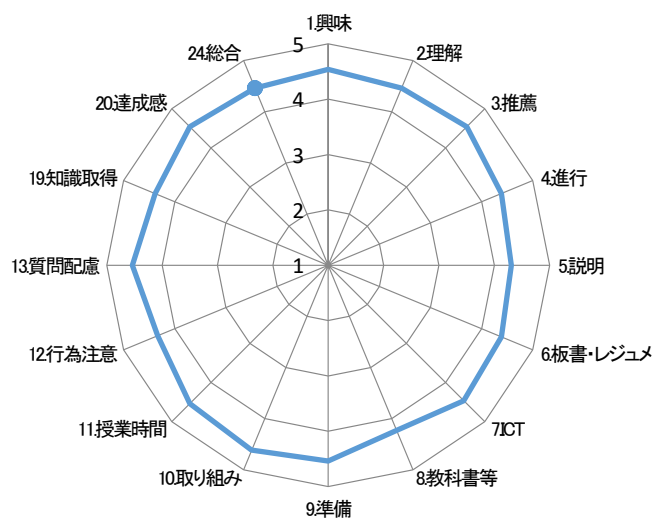
13 名

◆集計データ結果について

レーダーチャートを見る限り、4点台でバランスが良いことが示されていると思われ、それなりに授業は安定して実施できたと思われる。予習や復習が少ない傾向がみられるが、時期的な問題（卒業研究、国家試験対策などが佳境である）から、自己学習課題の提示も少なくしたこともあり、家庭学習は総じて少なかったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

受講生が少なく、学生のリクエストを重視して実技を多く行ったことや、受講生が少ないが故に、実技指導において個別指導が十分できたことなどから、概ね好評であったと考えられる。本講義は、卒業した後に臨床現場で少しでも役に立つテクニカルな要素を重視している。その点で、学生も学習意欲が向上したのではと思われる。新年度においても、実技を重視し、卒業後に多くの学生が興味を持って取り組めるように促したいと考えている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

この科目は、国家試験などに直接つながるものではなく、卒業し資格を有した後に、臨床現場で少しでも使える技術を学ぶことが大きな意図として含まれている。このため、実技を重視した内容で実施しているが、この部分は学生にとってもかなり好評で有と思われる。新年度も、この基本方針を充実させ、臨床で役に立つ実技を多く取り入れた授業を展開したいと思っている。

科目名

75. 理学療法特論Ⅴ（吸引・喀痰法）

担当教員

臼井 晴信・長井 多美子

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

23 名

◆集計データ結果について

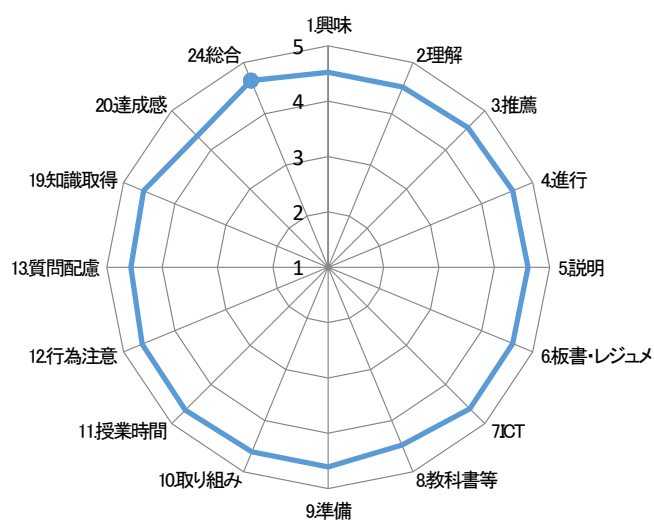
評価結果は概ね4.5以上であり、講義内容は問題なかったと思われる。国家試験前の授業のため、予習・復習は全くしなかったと解答している学生も多かった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

吸引の実習や呼吸介助手技の実技について肯定的な意見が多かった。新型コロナウイルス感染症の対策のため、吸引を受ける側の体験は出来ず、人形を用いて実技を行ったが、技術の習得に向けた学修ができたと思われる。

◆今後の改善に向けて

指定規則改正に伴い、次年度講義が本科目開講の最後となる。次年度も今年度同様、実技演習を多く取り入れた講義を行う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

76. 生活環境論

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

27 名

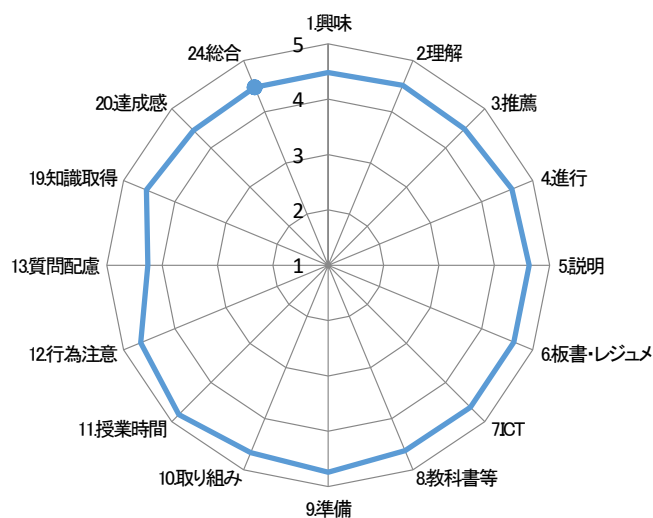
◆集計データ結果について

すべての項目で4以上という高い評価となりました。

また、多くの学生が「目標をもって」「熱心に取り組んだ」と自己評価している反面、「質問」はあまり行えなかったとのことで、これは講義スタイルも工夫できる点があったのではないかと思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

プリントやスライド、図等でできるだけ視覚的に理解しやすい資料の作成を心がけましたが、「分かりやすかった」という評価が概ねであったので、よかったと思います。また、「自宅の住宅改修」をテーマとした課題を出しましたが、これらを通して自分の生活する環境をもとに、具体的に考えるきっかけとなったと思います。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆今後の改善に向けて

他の多くの科目で症候学・理学療法治療学を学びますが、実際に私たちが現場で出会う人は「患者さん」であり「生活者」であるということを理解していただきたいと、この講義では意識しています。今後も、受講される皆さんが興味を持ち、臨床や患者さんの生活環境を評価・改修するうえで必要な視点を持つことができるよう、工夫していきたいと思っています。

科目名

77. 地域理学療法学

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

43 名

◆集計データ結果について

概ね4以上の評価となりました。「質問配慮」は若干低めですが、どうしても一方通行の授業になりがちなので、今後はさらに工夫していきたいと思います。

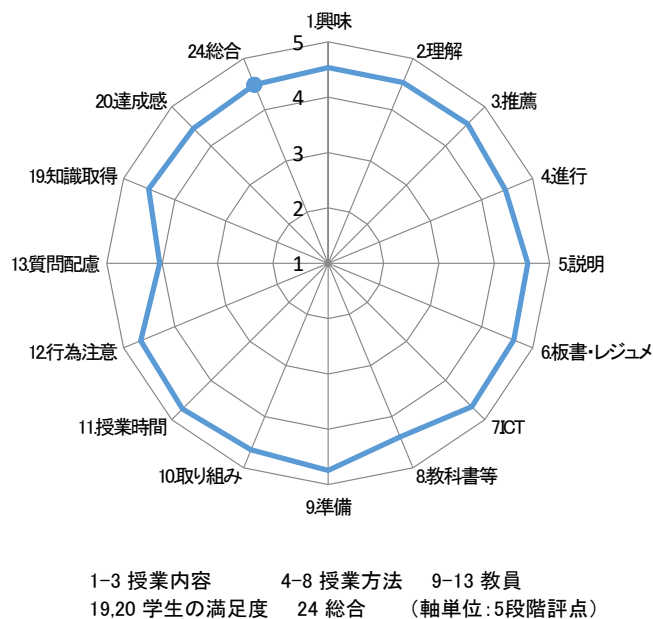
受講者自身の評価は多くの人が「質問等は積極的にしていないけど、目標持ち、熱心に取り組んだ」と読み取れます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

今年は、例年と異なりオンラインの講義が多くなりましたので、「授業スピードが速い」「ポイントが理解しづらい」などの声が例年より多くありました。例年の対面授業であれば、皆さんの様子を見ながらスライドを進めたり、「？」という空気があったら繰り返し説明したりなど、その都度調整していましたが、リモート授業ではそれはできませんでしたので、この結果は当然かと思います。お互いに慣れない授業スタイルであったので、授業を進める側もさらなる工夫を検討しなければなりません。受講する側のみならず、その状況を改善するために質問するとか意見を言うなど、何か行動を起こしたでしょうか？与えられることを当たり前と思うのではなく、自ら望むものを手に入れるために動くことも必要だと考えます。

◆今後の改善に向けて

私としては、皆さんの反応を見ながら講義を進められる対面授業がやりやすいと改めて思いましたが、今回いただいた意見の中には、これからの講義スタイルを考えるうえでのヒントもありましたので、さらに理解しやすい講義になるよう、修正していきたいと考えています。



◆集計データ結果について

総合評価が4.7点であり高評価であったと考える。本科目は介護予防領域と発達領域で構成されているため、領域別で授業評価レポート結果を検討する。

【介護予防領域】清須市民げんき大学への参加及び地域リハビリテーション活動支援事業へ参加し、高齢者に対して運動のサポート、運営補助を行う実践形式の授業である。このことから、積極的に取り組む学生が多く、学びも得られやすかったと考える。一番低かった項目として「教科書や参考書の適切な使用」が4点であるが、本科目では教科書は指定せず、実習に臨む事前学習として参考図書を提示していたが、十分活用されなかったと考える。

【発達領域】今年度より本学附属こども園が開園したことからそのこども園園児との交流を行い、発達領域に関する知識や経験を増やすことを本授業の目的とした。園児との交流における運動遊びの内容立案を学生が行い、実際の交流においての説明・見本も全て学生主導で行ったことが、取り組みに関する点数4.85点という高得点につながったと考える。

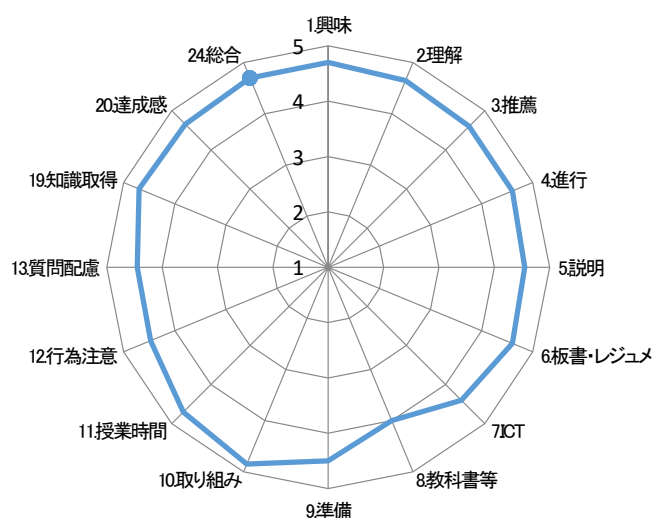
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

【介護予防領域】肯定的な意見がほとんどであった。地域の高齢者との直接触れ合うことで、コミュニケーションや接遇、指導法、リスク管理などを学ぶことができたと考える。コロナ禍であったため、機会としては少なくなってしまったが、感染拡大予防の対策を講じ取り組み有意義な時間を過ごすことができたと思われる。

【発達領域】今年度は、コロナウィルスの影響を受け、実際にこども園園児との交流を行えたのは一部の学生のみとなってしまった。直接の交流が行えなかった学生については、運動遊びに関するビデオ動画を作成するという取り組みを行ったが、それを実際に園児に見てもらったところまでは達成できなかったため、「発達領域の交流ができなくて悲しかった」という意見に繋がったと考える。

◆今後の改善に向けて

今後もwithコロナの時代のなかで、高齢者や園児との交流を図っていく必要があるため、今年度得られたコロナ対策の知見をもとに、より良い形で様々な世代との交流を図っていけるように授業内容を改善していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

科目名

79. 臨床実習Ⅱ（評価）（旧カリ）

担当教員

加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・臼井 晴信・
山田 南欧美・齊藤 誠

専攻・配当年次

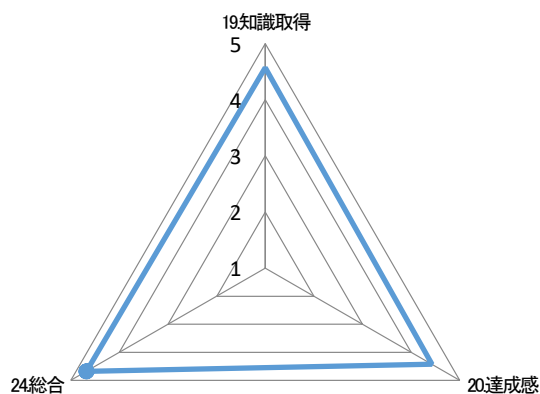
PT 3年

回答者数

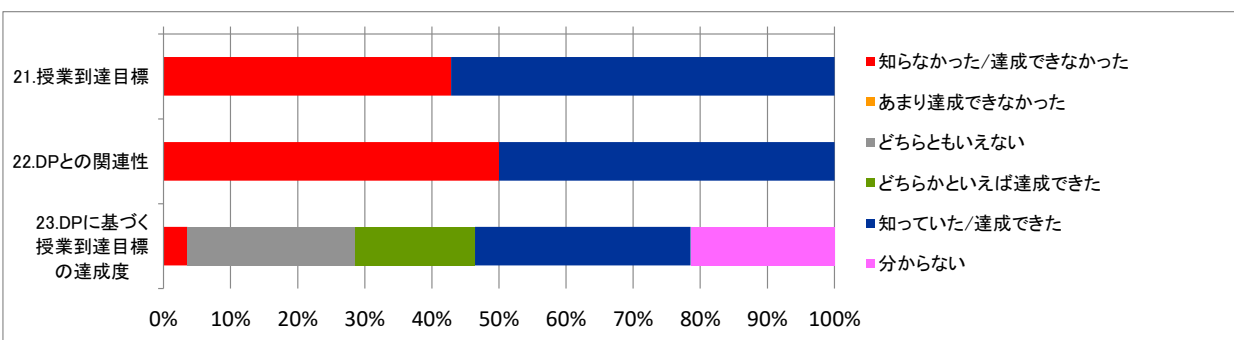
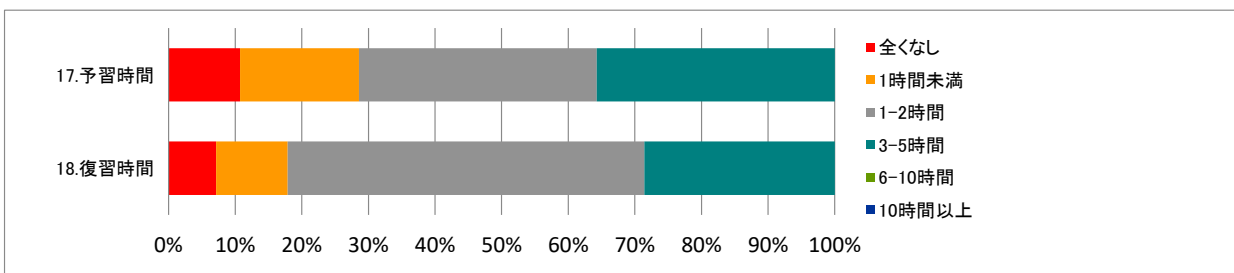
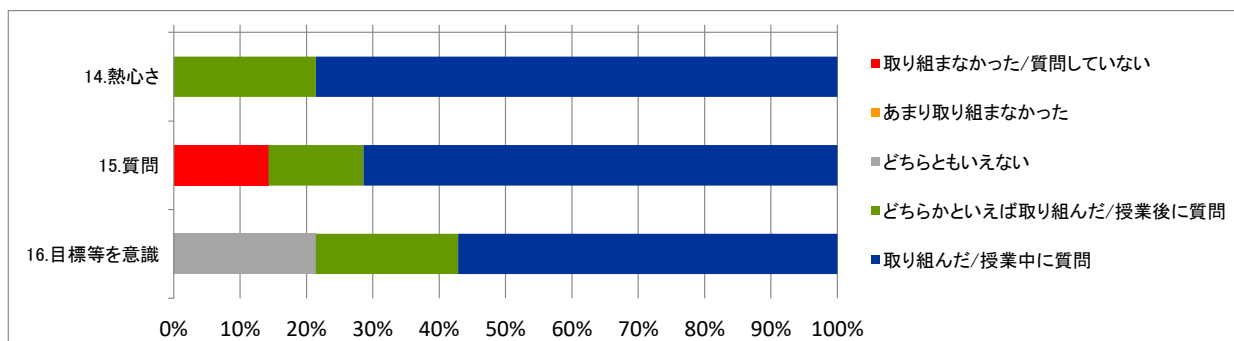
28 名

◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。

19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

80. 臨床実習Ⅲ（総合1）

担当教員

加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・臼井 晴信・
山田 南欧美・齊藤 誠

専攻・配当年次

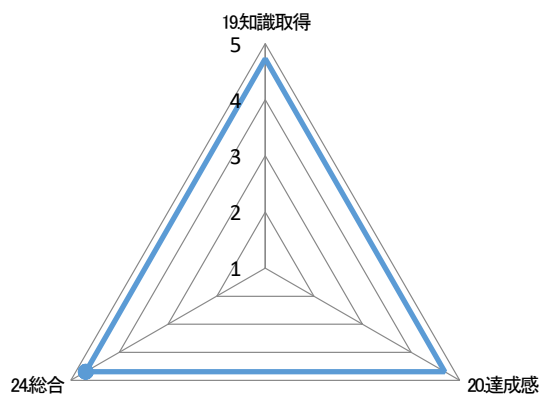
PT 3年

回答者数

26 名

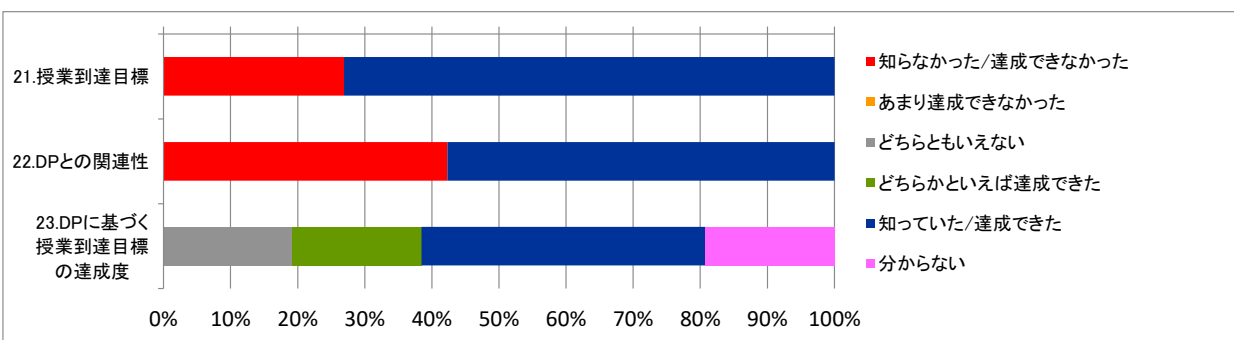
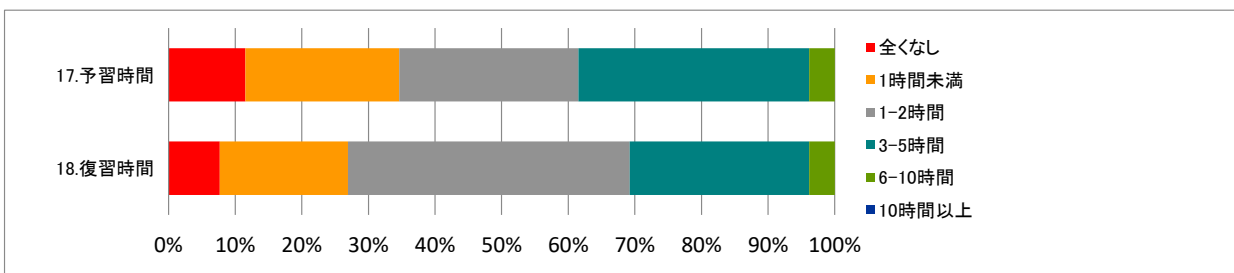
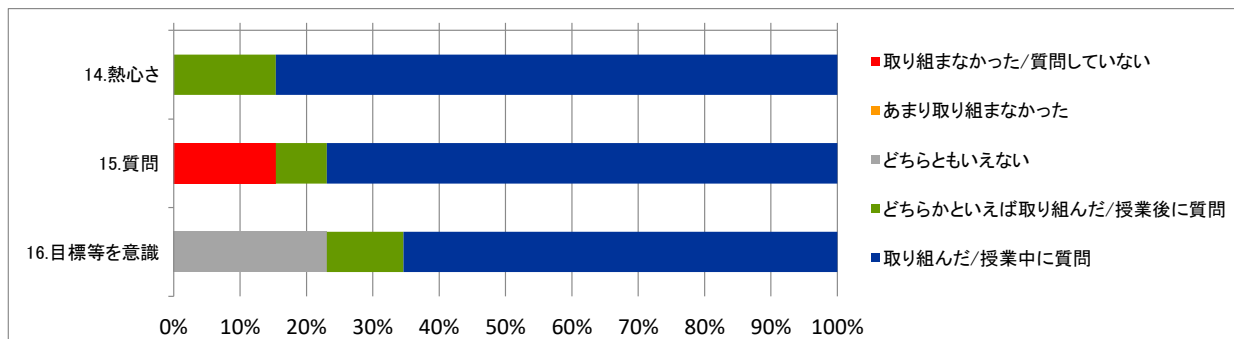
◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

81. 臨床実習Ⅳ（総合2）

担当教員

加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・臼井 晴信・
山田 南欧美・齊藤 誠

専攻・配当年次

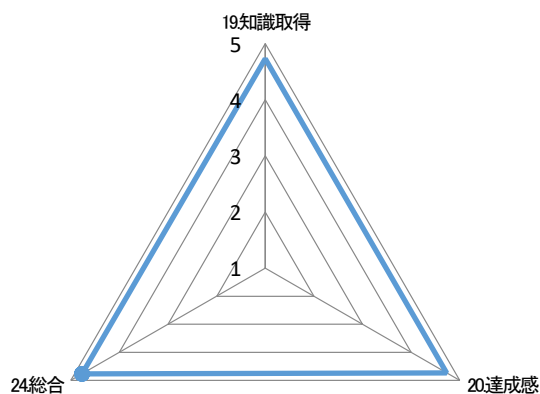
PT 3年

回答者数

26 名

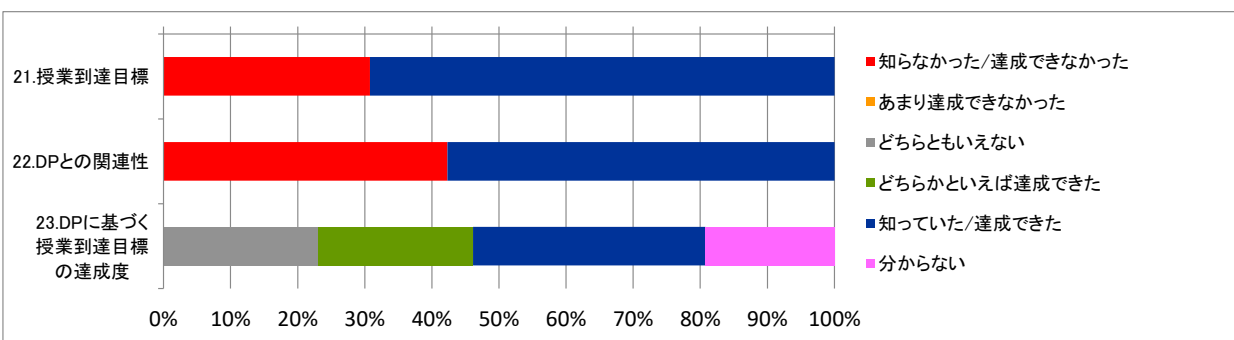
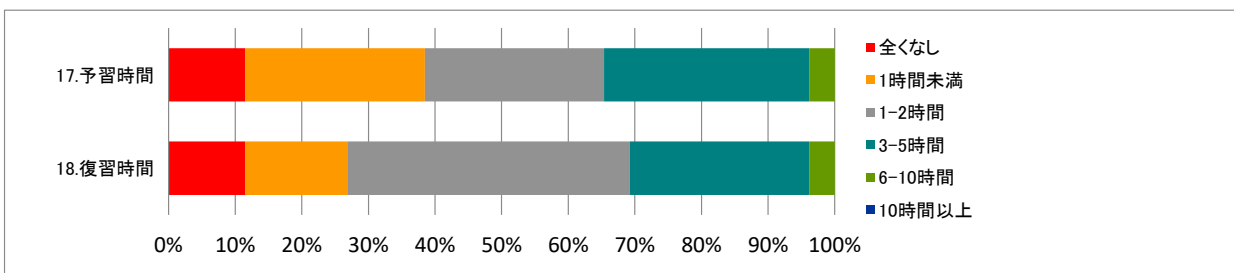
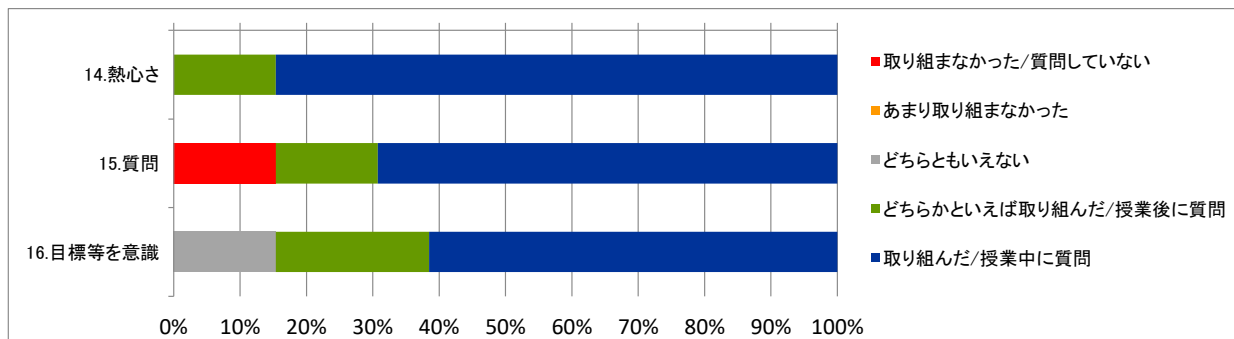
◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

82. 卒業研究

担当教員

加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・臼井 晴信・
山田 南欧美・齊藤 誠・清島 大資

専攻・配当年次

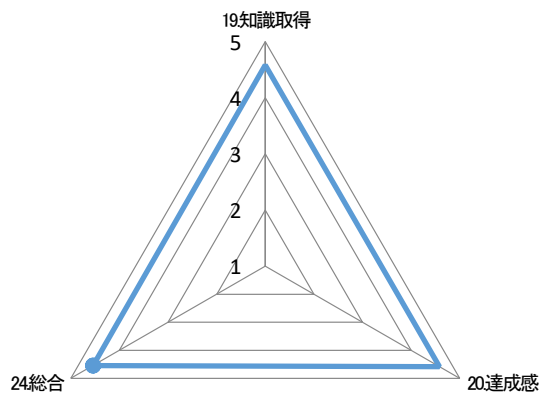
PT 3年

回答者数

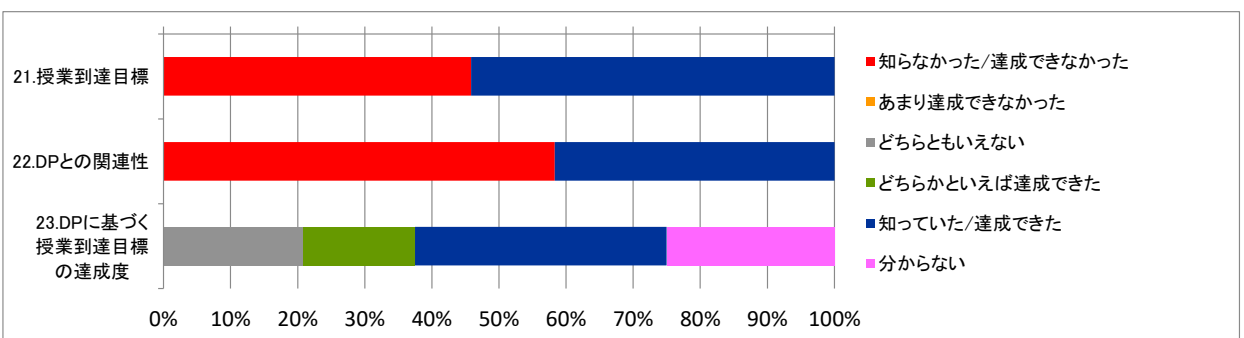
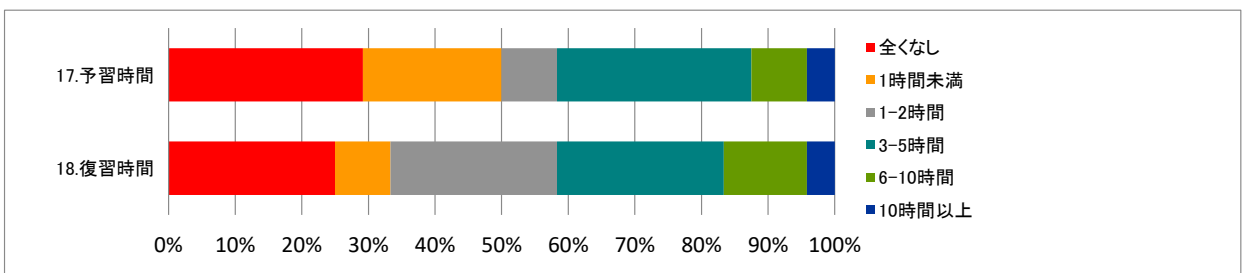
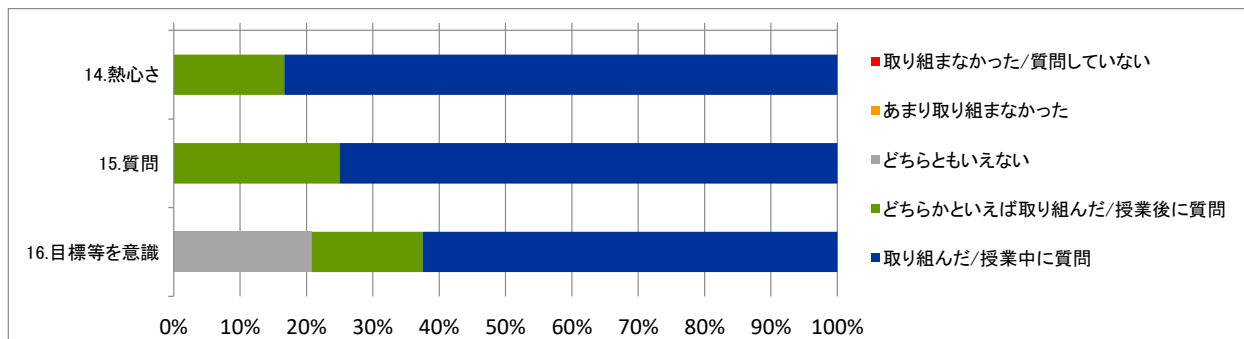
24 名

◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。

19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

83. 総合演習

担当教員

石川清・加藤真弓・杉山成司・宮津真寿美・木村菜穂子・松村仁実・
 臼井晴信・山田南欧美・齊藤誠・山下英美・石黒茂・種田陽一・高田政夫・
 横山剛・加藤真夕美・清水一輝・松田裕美・渡邊豊明・瀧田光佑

専攻・配当年次

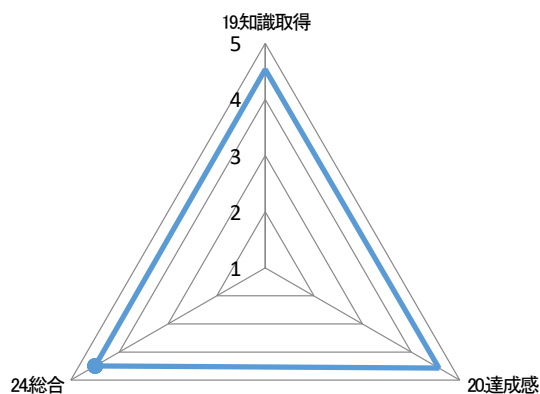
PT 3年

回答者数

28 名

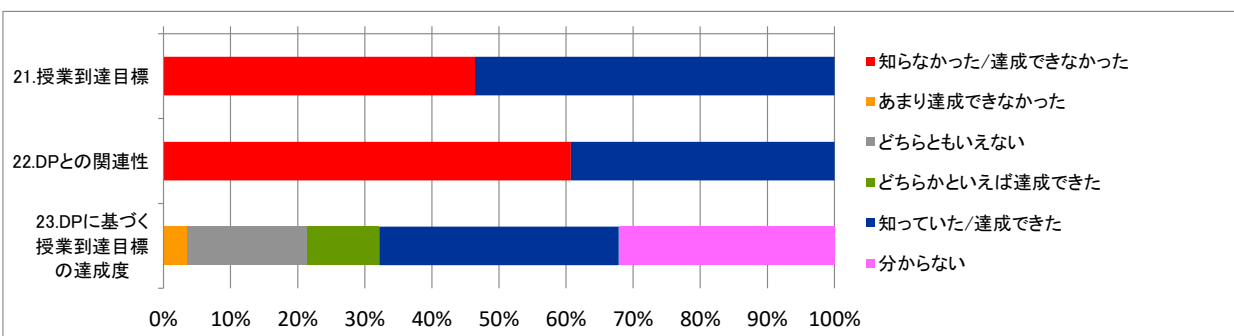
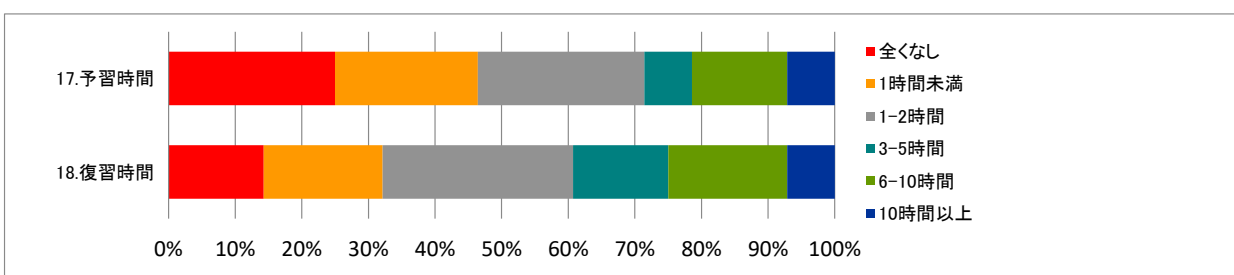
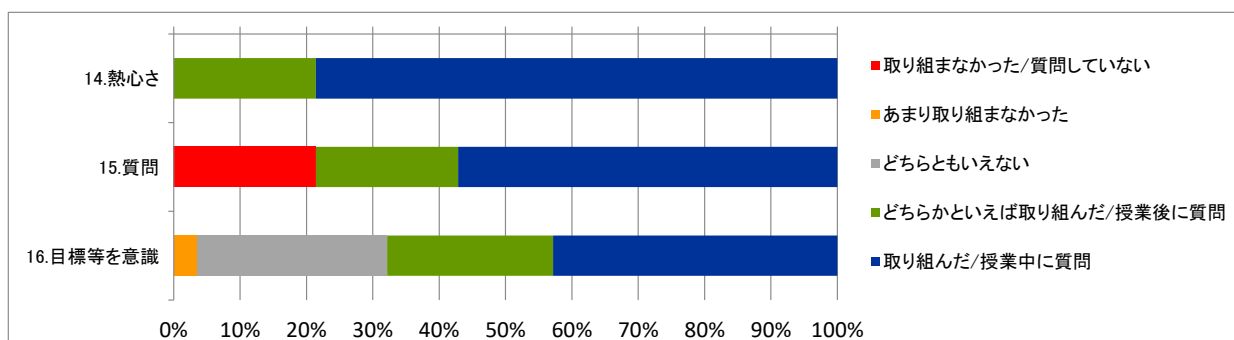
◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



19 学生の満足度(知識習得)
 20 学生の満足度(達成感)
 24 総合

(軸単位:5段階評点)



◆集計データ結果について

第8回まではオンライン形式の授業となったため、事前にパワーポイントに音声で解説を付けた動画を配信し、重要な箇所を空欄にしたスライドの資料を事前に郵送し、当日講義の中で穴埋めをしながら進める形式とした。第9回以降は対面形式の授業としたが最終回はオンライン形式とした。
全体として3.7～4.5の評価となった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

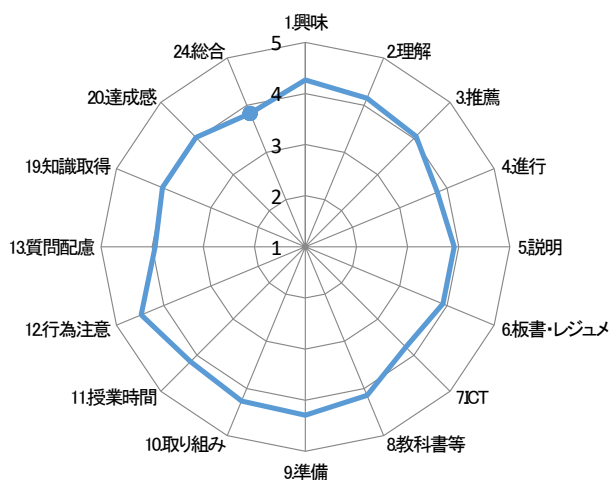
講義の動画に関しては、分かりやすかったとの記載が複数見られ、オンラインの授業でもスムーズな流れで授業を行ってくれて良かったとの記載も見られた。一方対面になってからは教科書を読むだけでなく、もう少し演習などを行いたかったとの記載も見られた。

教員名を指名されています(二名の意見)私の授業についてと思われるもの(五名の意見:計七名)がありますので、他の先生の名誉もありますし、これ以降、個人的な見解を述べます(高田)
まずは遠隔授業時のトラブルについて、①全員顔を出すようにしたら通信状況が悪くなった。②出席取りを途中で中止した。③授業の振り返りシートの回答済みとなっていた。④教員の途中退出が4回あった。更に⑤無駄口が多い、滑舌が悪い、聞き取りづらい。⑥『障害者ですか』と名指しされた。⑦資料の誤字・脱字が多い。の七項目が挙がっています。
①について全員顔を出すようにしたのは回数の少ない二回目でもあり、他大学での全員顔を出した授業での経験から教員のみ顔を出し学生が全く顔を出さないのはいかかなものかと考え、顔を出したくない学生はあらかじめ断りのメッセージを入れるように手続を取り数名の方は最初から顔を出さなくても良しとしました。②の出席とりは全ての顔と名前を確認してと実施しましたが、通信状況が悪くハウリングを起こし途中でやめざるを得ない状況となりました。出席については学生参加の人数と名簿を確認しました。③の授業後のフィードバック提出は前もって支援室に可能か動作確認した時点では問題ありませんでした。このトラブルは原因不明です。④の私の4回の退出は、機器のトラブルでなく、操作されたものである可能性が高いとの情報管理室の調査結果です。これも原因不明です。⑤については無駄口はありません。君たちのことを思い話しています。ただ伝わりにくいことは反省しています。卒業生からは授業時は判らなかったが、臨床に携わって初めて先生の言われたことが分かったとの話を多く聴きます。⑥は先天性の障害や自閉症スペクトラム障害の説明の中で障害者と健常者の区別のつかない状況を説明する中でしたことでした。悪意はありません。⑦のスライドの誤字・脱字については、改めてスライドを見たところ、1か所の誤植がありました。ゼロにしないといけませんね。『管轄』という難しい言葉を使いながら説明が不十分でした。これも誤字と数えているかもしれません。
以上が全て状況報告です。担当二回の授業は最初の予定から追加し障害当事者の講演としましたが、コロナ禍で中止となり、元の内容に戻った状況です。当事者の講演が出来なかったのは残念でたまりません。このことも影響しているのかもしれない。反省するところです(高田)

◆今後の改善に向けて

今年度はコロナ禍で初めてのオンライン授業ということで、事前に音声付きの動画を準備することにより、不具合を回避することに努め、ある程度の目的は達成できたと考える。しかし、対面授業が可能となった際、グループワークの実施方法などに関して制約もあり、教科書を読むだけとなった点は、今後工夫すべき点であると考えている。

貴重な2時間をいただきながら、1年生と過ごす最後の大切な時間が残念な形となったことを猛省しています(高田)



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆集計データ結果について

すべての項目で平均4.0点以上であり、バランスのとれた評価であった。本講義の工夫としては例年通り①教科書をしっかり読む習慣をつけるために、教科書のガイドとなるようなレジュメを作成すること ②体験学習を多く取り入れて「体で理解する」仕掛けを用意すること ③学生を授業中に積極的に拾うこと の3点である。②について、本授業は講義という形式の授業であるが、疑似体験しながらそれに関する知識をその都度入れていくことにより、共感的に対象者を理解することを推進している。

学生自身の取り組み姿勢としては「熱心に取り組んだ」「どちらかといえば熱心に取り組んだ」(14)と答えた学生が95%以上であり、学生の意欲を引き出すような授業を展開できていたと考えている。一方復習時間(18)は「まったくなし」と答えた学生が1割強おり、今後の課題となった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

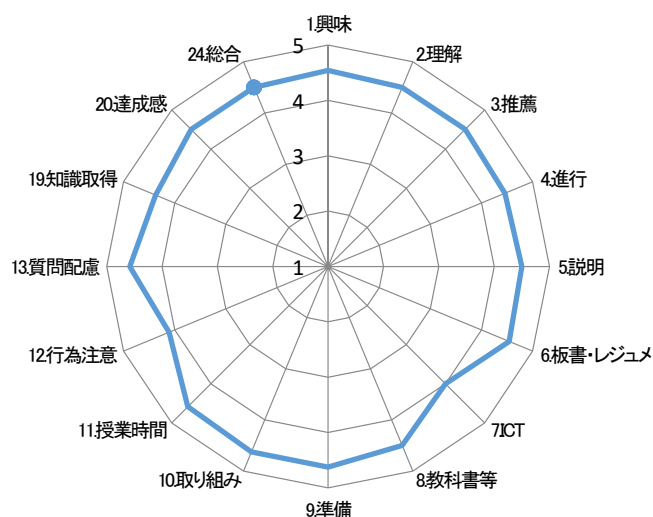
内容については「疑似体験はこれからの患者さんを見る視点でよい経験となった」「実際にやってみると普通に生活していると分からない事が障害のある人には難しいことがわかってよかった」「人の動きを絵にする力が少しはついたと思った」と成果が実感できたとの意見が挙げられた。教員の態度については「わからなかったらすぐ聞ける環境だったのがすごく良かった」「実技を交えながら説明をしてくださったのでわかりやすかった」「盛りだくさんの内容でしたが、加藤先生の説明がスムーズでわかりやすかった」との肯定的な意見が挙げられた。

一方で「レジュメの文字が詰められ過ぎていて読みづらいと感じたので改善してほしい」との意見が1件あった。今後の課題である。

◆今後の改善に向けて

今年度より、1年次開講となった科目である。この授業の役割として、1年次の運動学(総論・上肢・下肢)がいかに臨床活動に結びついているかを理解すること、臨床実習において求められる「動作分析」の基礎を押さえること、臨床実習の場で実践できるよう最低限の動作分析技術を身につけること、の3点を意識している。まだ運動学が十分に習得されていない学生にとって、臨床的応用となると理解しがたいと思い、極力体験的で、学生の身近に引き寄せた授業を心掛けた。その思いの大半は、学生らが汲み取ってくれたようであり、1年次開講だという教員の心理的負担感は、やや軽減した。

一方で、レジュメに関して、今まで2年生対象科目であったため内容が、学生によっては理解しがたかったようである。重要な点は逃さず、しかし理解を促す資料となるよう、工夫を重ねたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

86. 基礎作業学

担当教員

山下 英美 ・ 松田 裕美

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

20名

◆集計データ結果について

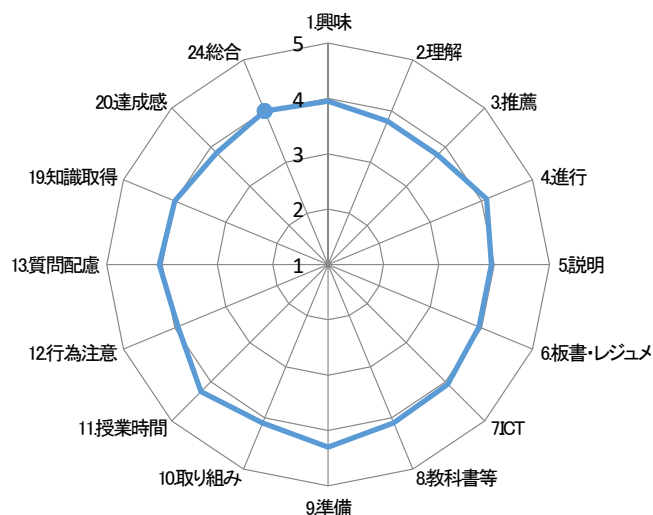
集計データ結果から、どの項目も平均的な値を示しており、授業全体としては大きな問題なく実施できたと考えられる。しかし、予習時間が「全くない」と回答した学生が4割を超えていることや質問をしていない学生の多さは今後の課題と言える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実際の作業を用いて作業分析を実施することや分析を用いてグループディスカッションを行ったことは学生としても前向きに捉える意見が多くあり、今後も継続実施していくことが望ましいと考えられる。今年度は新型コロナウイルスにより、年間の授業予定が大幅に変更になったこともあり学生にとっては学習内容の把握が困難であった側面もあったと考えられる。しかし、後期の授業では前期の授業の振り返りを実施後に後期の授業内容を行うなどの配慮は実施した。また、本科目は基礎作業学実習という実習科目の学習内容と並行した理解が必要であるという科目上の特性についても学生に説明していく必要があると考えられる。

◆今後の改善に向けて

予習時間については、本科目は基礎作業学実習という実習科目の基礎となる科目であるため、予め実習科目の前に作業を見る視点を考えておくよう伝えるなど、実習科目との繋がりを考えた予習課題を課していくとよいのではないかと考えられる。本科目の特性を伝えた上で学習内容や意義の説明を丁寧に実施していく必要があると考えられる。また、配布資料の文字の大きさについては、今後も学生にとって見やすい資料作りを心掛けていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

87. 基礎作業学実習

担当教員

横山 剛 ・ 森下 章生 ・ 後藤 潤子

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

18名

◆集計データ結果について

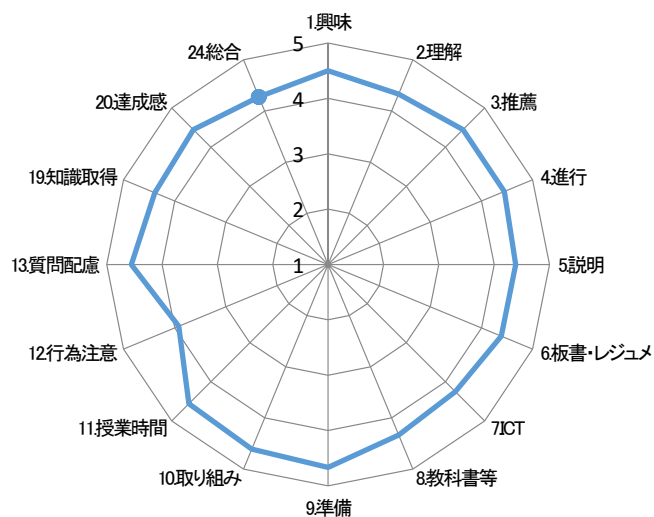
回答者が18名であり、授業評価の在り方などに問題があると思われるが、行為注意を除いてレーダーチャートは4点台でありおおむね評価は良好であると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

おおむね各種作業を通して楽しんでいただいていたようであった。座学のみではないため好評なのだと考える。

◆今後の改善に向けて

作業をするのみになるのではなく、その意味を考えられるような仕掛けを作る。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

88. 作業療法評価法

担当教員

清水 一輝 ・ 松田 裕美

専攻・配当年次

OT 1 年

回答者数

23 名

◆集計データ結果について

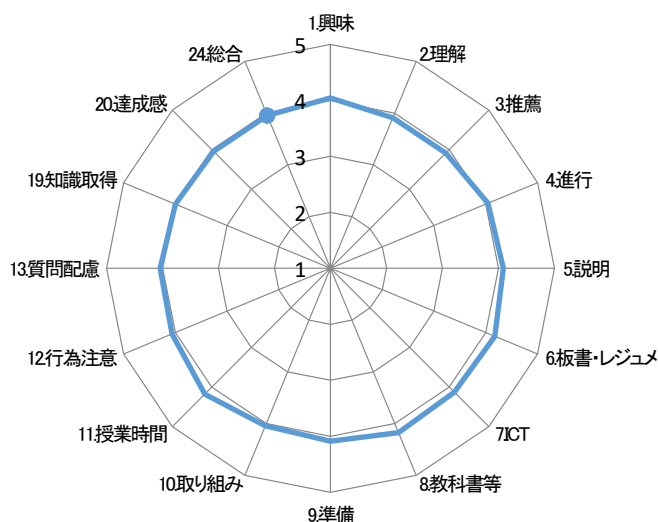
集計データ結果から、どの項目も平均的な値を示しており、授業全体としては問題なく実施できたと考えられる。
毎回の授業後にGoogleフォームにて授業に対する質問を設ける機会を設定したが、学生の意識として実際に質問した者は50%を切っており、半数は質問をしていないことがわかる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目は座学の授業であるが、実際の作業や評価を用いて意義や必要性について伝える授業展開は学生にとっても理解をしやすいものであったと考えられる。
小テストの範囲は授業内で扱ったものを用いたが、対象となる教科書の範囲が広く学生にとっては学習のしづらさを感じた要因の一つと考えられる。

◆今後の改善に向けて

学生の意識として質問を行った少なさについて、今後は質問の意図や質問の仕方などの説明も必要かと思われる。
本科目で扱う対象となる教科書の範囲が広いため、他の科目の授業範囲等も踏まえて今後検討していく必要があると考えられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

89. 作業療法評価法実習Ⅰ

担当教員

渡邊 豊明 ・ 加藤 真夕美 ・ 清水 一輝 ・ 松田 裕美

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

22名

◆集計データ結果について

この科目に対する期待は大きく、質問配慮や達成感について、高い評価を受けていた。一方で理解や進行でやや評価が低い部分が指摘された。授業の予習や復習に1時間以上の時間をとっていた学生が半数以上認められた。科目の目標やディプロマポリシーとの関連において、半数程度の学生が理解していない結果であった。総合評価では、7割以上の学生が4点(どちらかといえれば良い)の評価であった。

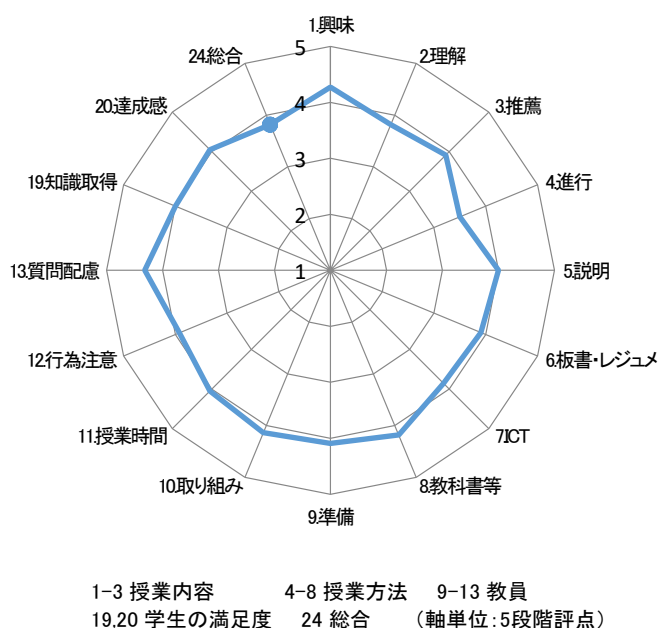
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

ROM, MMTにおいて、教科書の実施場所を示しながら、重要な部分には下線を引いたり、チェックするなど確認がしやすいように授業を進めた。各自で実習を行う時には十分な時間と教員2名が巡回し、実技の確認や質問を受けられる体制で進めてきた。各回の授業の前半部分で前回の復習を実施し、実技の定着度を確認してきた。実技の内容も優先順位を示し、実技試験の配慮を行ってきた。時間は限られている中で、学生の声を聞きながら改善していきたい。

触察において、カリキュラムの変更による授業時間の短縮に合わせて授業内容を調整したが、実習時間や小テストの時間不足に関しての意見が挙げられた。来年度は授業で扱う内容を再調整していきたい。また、デモの被験者となることについて事前のガイダンスで連絡していたが、被験者をするに対しての否定的な意見も挙げられた。ガイダンスでの説明を十分に行い、学生の声をしっかりと確認していきたい。

◆今後の改善に向けて

ROM, MMTにおいて、ルーブリックを示し、ポイントを明確に示してきたが、実技の注意点や姿勢など、要点をまとめたものを用意すると復習などに役立つため、資料の作成を検討していきたい。各授業の最後に、授業アンケートをとり、授業の進め方、理解度、質問などを確認し、授業の進行に活かしていきたい。触察において、上記の通り授業スケジュールを再構築し、限られた時間の中で学生の学びが得られるように対応していきたい。また、事前の予習課題を具体的に示し、授業時間を有効に使えるように準備をしていきたい。



◆集計データ結果について

すべての平均が4.0以上であり、概ねバランスの取れた評価であった。学生の意識として、熱心に取り組んだか(14)、目標を意識したか(16)では、半数以上の学生が「取り組んだ」「どちらかと言えば取り組んだ」と回答した。一方で、質問(17)は、7割弱の学生が「していない」と回答した。また予習・復習時間がゼロの学生も、3割前後いた。この科目では多くの単元で課題を提示していたため、復習の回答結果には違和感がある。課題も含めて復習なのだという点を、改めて学生に伝えていく必要がある。

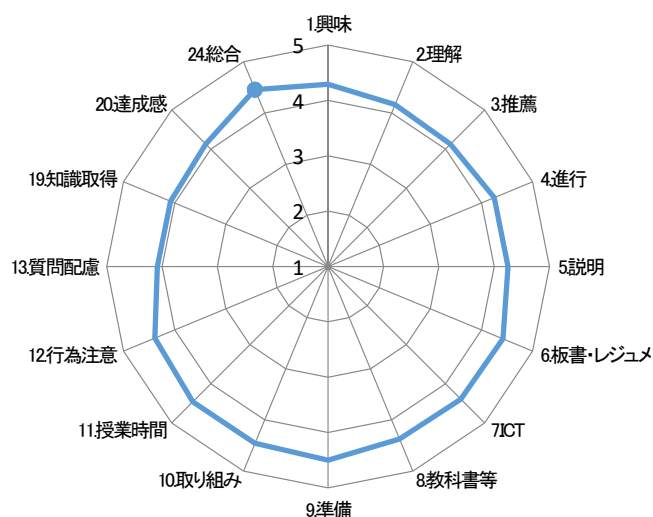
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

レジュメについては「レジュメなどを用意していただき、語句を埋めていく形だったので、重要な場所が分かりやすかった」、小テストについては「覚えることが多かったけどその都度小テストがあったり、プリントが見やすく勉強しやすかった」、課題については「レポート課題でイメージを広げる事ができた」「毎回のレポートが大変だったけど、自分の考えを深めるためにすごく役に立って良かった」「詰め込みの授業で課題もたくさんありましたが、課題に取り組んだら内容が把握できるので良かった」など、おおよそ教員の意図が伝わったようである。一方で、授業の時間配分については「2コマ連続の授業だったので動く作業などを加えると眠くならずにもっと集中できたかなと思った」「休憩時間はこまめにとるより普段通りの配分でいいと思った」など、今後の課題となる意見が挙げられた。

◆今後の改善に向けて

本授業は、身体障害領域の作業療法を学ぶ、入門編の位置づけである。今までに学んだ解剖・生理学や運動学の知識が臨床でどのように繋がっていくかを学生は理解する必要があり、特に脳神経系に関する復習には時間を割いた。図や別途資料を用意したり、演習を交えたり、課題の中で作業療法との繋がりを考えてもらったり、小テストで基礎知識を復習したり、様々な方法を駆使して学生理解の促進を試みている。課題へのコメントには、学生の知的好奇心や向学心を引き出すようなことを加えるようにも心掛けた。

今年度から当科目の配置が1年次となり、解剖・運動・生理学の基礎知識が不十分な状態での受講となったため、基礎的事項の復習や丁寧な解説を心掛けたが、それがかえって時間的余裕のなさに繋がったかもしれない。学生の理解度と全体の配分を照らし合わせ、適度なペース配分となるよう授業内容を再構築していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆集計データ結果について

質問配慮が3.9、その他はすべての項目で平均4.0以上であり、バランスの取れた評価であった。学生の意識では「どちらかといえど取り組んだ」「取り組んだ」の合計が、「目的等を意識」が70%、「質問」が25%、「熱心さ」が90%弱であり、積極的な姿勢で授業に取り組んだ様子が伺われた。

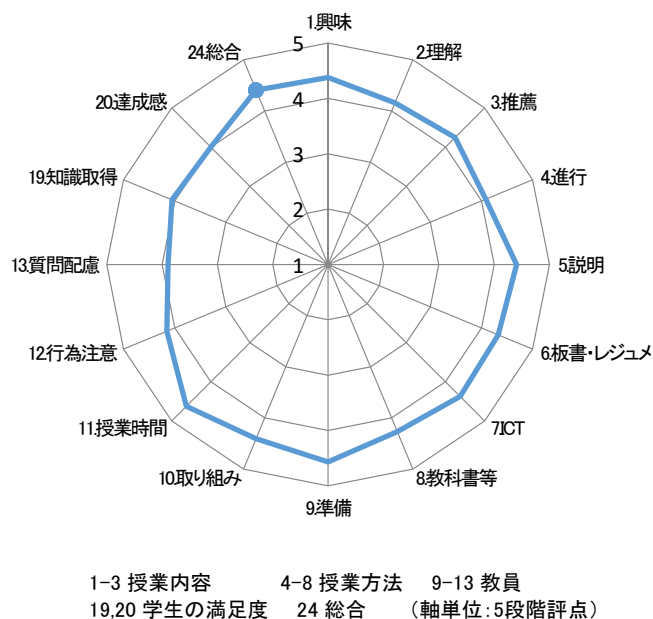
一方、復習時間は「まったくなし」が20%超、「3-5時間」「1-2時間」を合わせたものが25%で超え、自習への取り組みは二分された。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

内容については「実践的に体験できて飽きずに授業が受けられた」「グループワークで他者の考えを知ることができた」「自助具を見てイメージが膨らんだ」など、各自にとっての成果が得られたようである。

教員の関わり方については「プリントが分かりやすかった」「課題の量などが適切でバランスが良い」「説明が具体的でわかりやすい」など肯定的な意見が多く、おおむね教員の意図が伝わったようである。

一方「プリントにページ数を載せてほしかった」「レジュメには単語だけでなく説明を簡単に載せてほしい」「ポイントごとにまとめたプリントがあると良かった」「試験で出ること大切なことが何かを教えてほしかった」「説明が早すぎてききとりづらかった」との改善要望が挙げられた。



◆今後の改善に向けて

本授業は、作業療法を学ぶ学生の入門編にあたる位置づけである。作業療法を学ぶにあたって必要不可欠な日常生活活動(ADL)についての基礎をしっかりと理解してもらうために、学生自身の身近に引き寄せた演習を取り入れたり、自助具を実際に見てもらったりと、講義以外の内容にも時間を割いた。一方で今年度は感染症防止の観点から、例年行っている文献レビューを取りやめ、課題を大幅に減らさざるを得なかった。

本授業は、感染症による登校不可期間が開けてすぐの対面授業であった。90分間集中して座って授業を受けることに慣れておらず、対面で教員が話したことをメモするという習慣がついておらず、学校で授業を受けるということ自体に困難を抱えていた学生も少なくないようである。教科書の該当ページはレジュメにその都度明記していたし、レジュメに項目のみ記載した箇所は、教科書の該当部分を示しながら解説することに心掛けた。しかしそのことを受け取る余裕のない学生も若干名おり、コロナ禍でのオンライン授業を通して、初年次教育の重要性を痛感している。大学は自発的な学びの場であるという基本的な概念を、学生が前向きに意識できるようになるために、教職員が立ち向かわねばならない課題は例年以上に多いと感じている。

科目名

92. 臨床実習Ⅰ（見学）

担当教員

山下 英美・高田 政夫・加藤 真夕美・横山 剛・渡邊 豊明・清水 一輝・
松田 裕美

専攻・配当年次

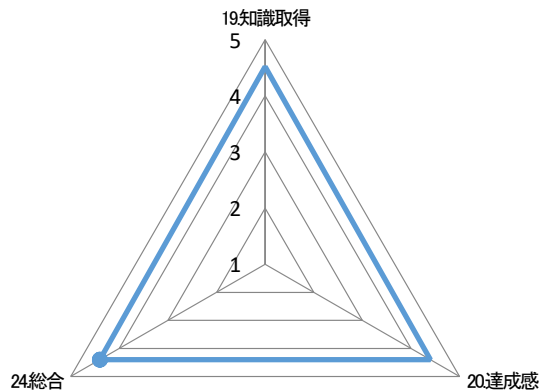
OT 1年

回答者数

25 名

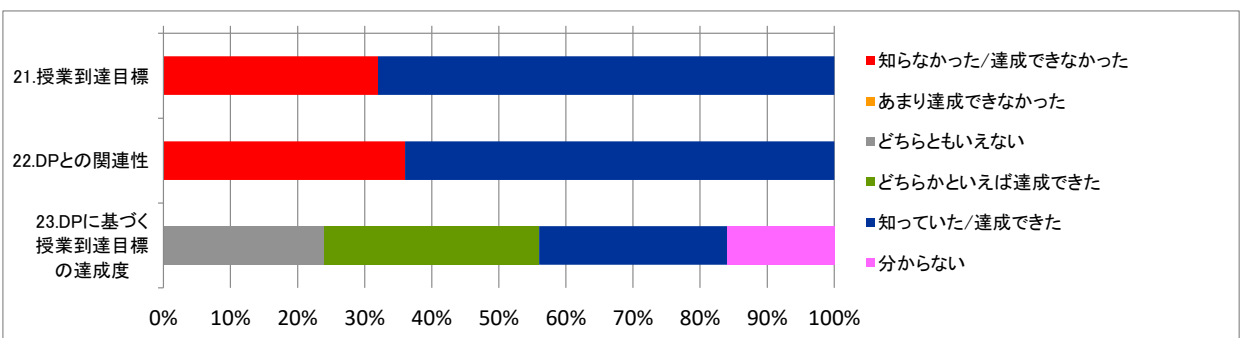
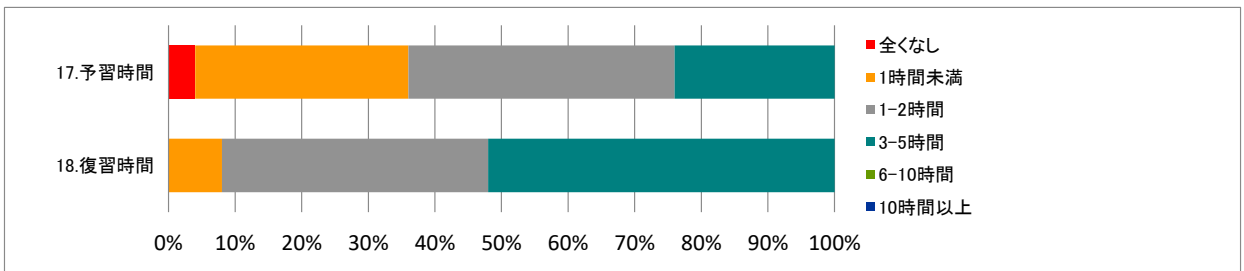
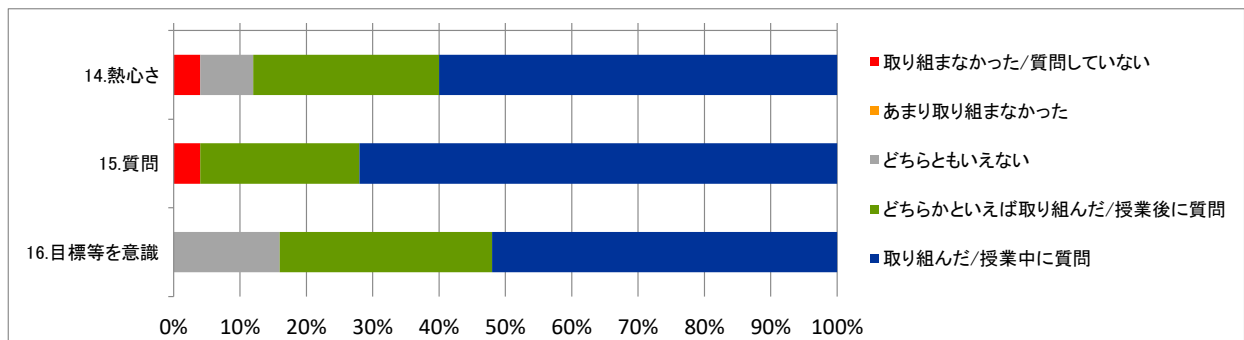
◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

93. 臨床実習Ⅱ（地域）

担当教員

山下 英美・高田 政夫・加藤 真夕美・横山 剛・渡邊 豊明・清水 一輝・
松田 裕美

専攻・配当年次

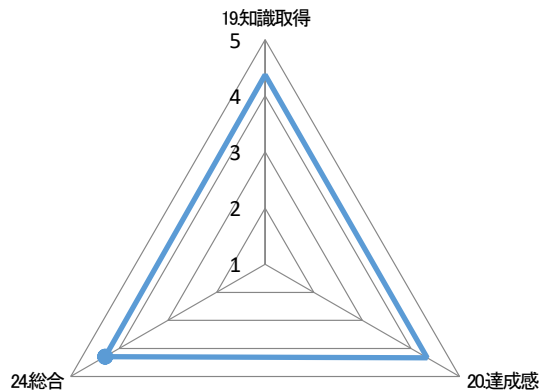
OT 1年

回答者数

24 名

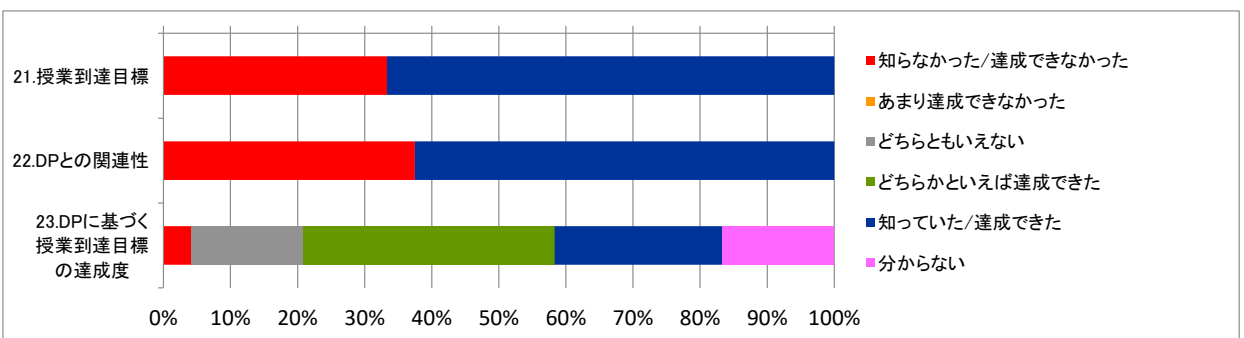
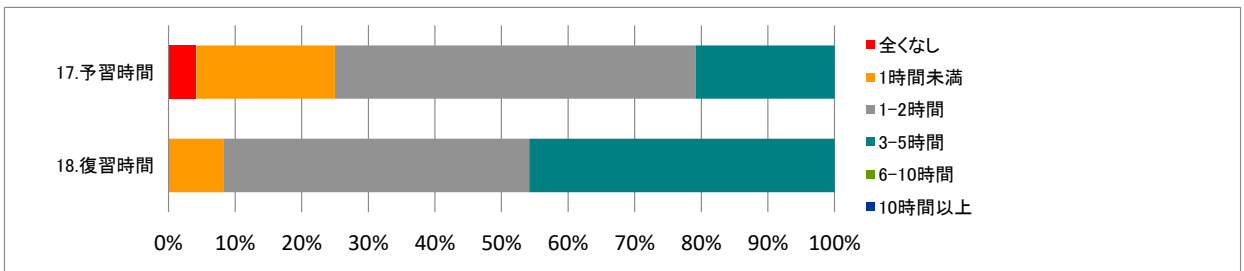
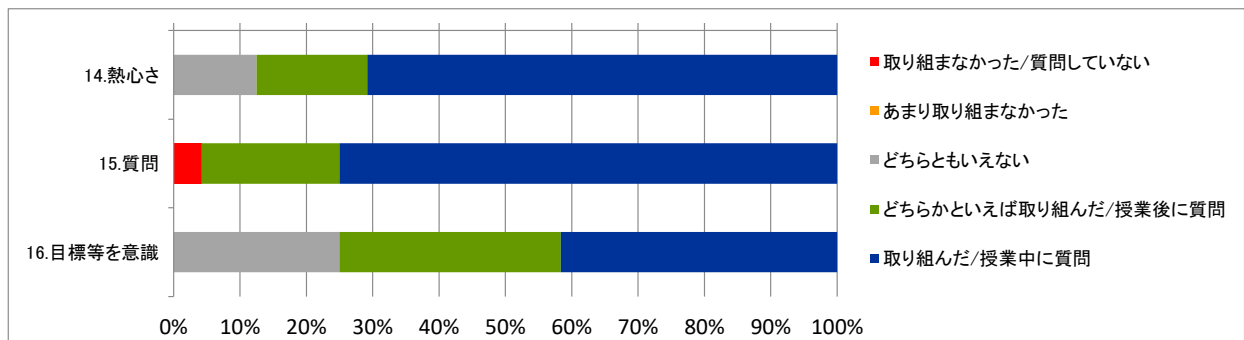
◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



◆集計データ結果について

コロナ禍の影響のためクラス一堂に会しての文献検索授業ができなかったため、授業形態を例年のない形で二クラスに分け実施した。このため、クラス全体での授業は、全講座15回の内9回となった。他は、2グループに分け同時並行授業4回、卒業研究担当教員別授業2回実施する形態をとった。

2グループに分けた同時並行授業は、遠隔利用の同時配信授業とすべきであったと反省している。同時に使用可能なPC数とデータベース回線数を考慮すると同時並行複式授業は学生にとって同じ内容で機器を使用しながら受けることが出来る利点がある反面、2回実施する教員にとっては負担であったようである。更に、担当する教員間の十分な連絡及びコミュニケーションが取れていなかったため、学生にとっては同じ資料を使用したにもかかわらず混乱を招いたようだ。その結果全体として3.0～4.1と低評価となった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載については厳しい意見が多い。グループによって発言・指示内容が異なるなどの改善すべき事項が19件と圧倒的に多い。作業療法分野の広々とした視点での学びが出来て良かったなどの肯定意見が12件であった。

原稿提出締め切りを提出する学生に任せたり、レポート内容について曖昧な個別意見を述べたのが良くなかったと反省されている。公のクラスの場合での質問をするようにクラスで指示したが、個別研究室での意見交換後の指示に変更したことが誤った解釈を生んでいる点もある。個別に対応した学生にクラス全体へ知らせるように指示したが確認を怠った事もまずかったようである。加えて私のどちらともとれる話し方がさらに混乱を招いたようである。

◆今後の改善に向けて

来年度は2020年度よりスタートした新カリキュラムでの2年生の授業がスタートする。新カリでは作業療法研究法の半分の時間に統計学が組み込まれている。7.5回で消化できる統計学については、統計の基礎となる考え方をしっかり教授しなければならない。更には学生の理解しやすい資料作りと話し方を心掛けるよう努めたく考えている。



◆集計データ結果について

すべての項目で平均4.3点以上であり、バランスのとれた評価であった。本講義の工夫としては例年通り①教科書をしっかり読む習慣をつけるために、教科書のガイドとなるようなレジュメを作成すること ②体験学習を多く取り入れて「体で理解する」仕掛けを用意すること ③学生的心声を授業中に積極的に拾うこと の3点である。②について、本授業は講義という形式の授業であるが、疑似体験しながらそれに関する知識をその都度入れていくことにより、共感的に対象者を理解することを推進している。

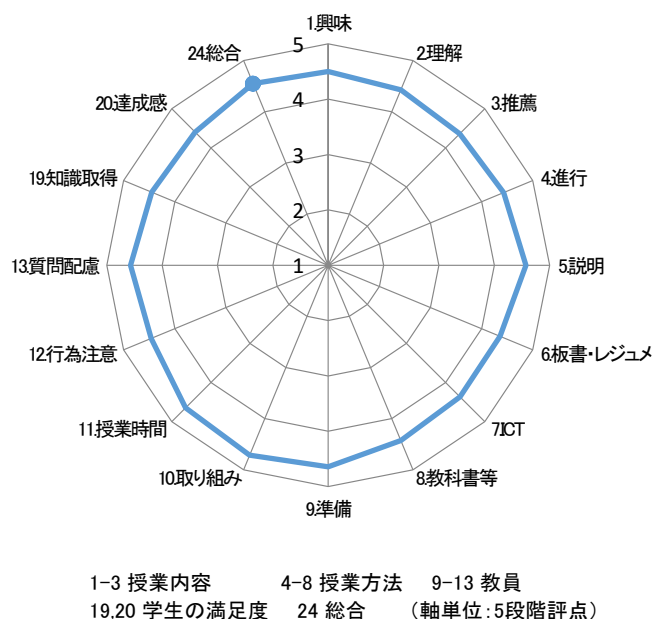
学生自身の取り組み姿勢としては「熱心に取り組んだ」「どちらかといえば熱心に取り組んだ」(14)と答えた学生が90%であり、学生の意欲を引き出すような授業を展開できていたと考えている。復習時間(18)は「まったくなし」と答えた学生が1割であり、3割近くあった昨年度より改善した。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

内容については「スティックピクチャーをかく練習が出来て良かった」「介助をする上で基礎となることを学ぶことができた」「教科書を見ただけでは理解しにくい点も実際に自分たちが体験して行う事で理解できたのでとても理解を深める事が出来た」「実際に疾患についてどのような動きなのかを自分や友達と考えることができてよかった。また、動きからどのようなことに困難さを感じているのかを想像でしかないがわかった気がする」との意見が挙がった。教員の態度については「授業でわからないことがある時に、どんな質問でも丁寧に答えてくださるので、とても質問がしやすかった」、授業の進め方については「授業内で課題を進められるのが良かった」との意見が挙がった。今年度は、否定的な意見は挙げられなかった。

◆今後の改善に向けて

この授業の役割として、1年次の運動学(総論・上肢・下肢)がいかに関臨床活動に結びついているかを理解すること、臨床実習において求められる「動作分析」の基礎を押さえること、臨床実習の場で実践できるよう最低限の移動介助技術を身につけること、の3点を意識している。実際に、今年度の評価実習において、スティックピクチャーの技能が役立ったという学生や、動作分析の際に、本授業のノートを見返したという学生がおり、そのように報告してくれた。本授業は1年次開講となるが、臨床で使える知識や技術を重視し、今後も工夫を重ねたい。

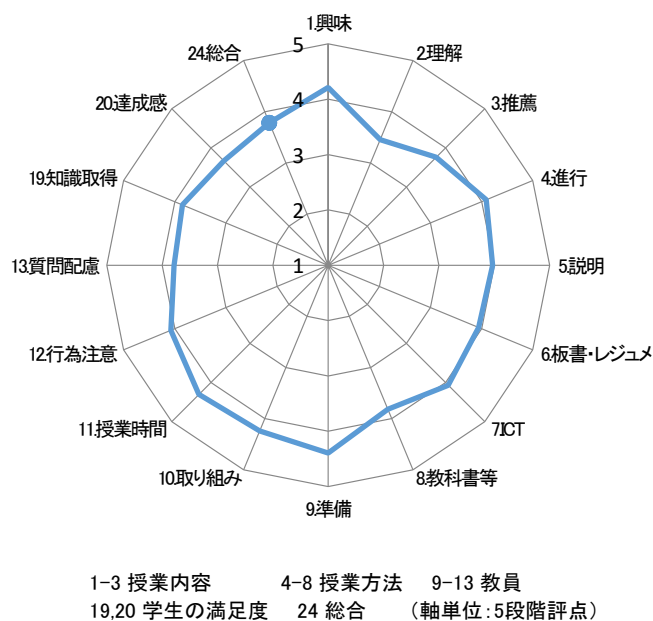


◆集計データ結果について

本科目は、知識を暗記する授業形態でなく、抽象的な内容多い授業の一つである。オンラインの影響もあり、毎授業で前回の振り返りや学生からの質問に答え双方向のコミュニケーションとなるよう工夫した。集計データの2「理解」に関しては本科目の内容の全てを完全に理解するには実際に他者とコミュニケーションを取る中で起こる事象や自身の感情に気づくなど今後の授業や実習を通して理解が深まっていくものだと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の内容を概観すると一つの事象に対しポジティブな側面とネガティブな側面が見受けられる。例えば質問への回答については「詳しく答えてもらった」と感じる学生と「答えてもらえず意欲が下がった」と感じる学生も存在した。導入時に質問の扱い方や質問の仕方の工夫について学生にわかりやすく枠組みを提示することによってネガティブな捉え方や感じ方を軽減していけると考えられる。また本科目はノンバーバルなコミュニケーションについても扱う授業であるため、自身がネガティブな側面自体を感じた背景についても考察をしていけるよう促していく。



◆今後の改善に向けて

昨年度までは学生同士の対話実習を通して本科目を実施してきたが、今年度はオンラインでの実施となった。今後も新しい生活様式が求められる中でどのような授業形態にしていくかという部分から検討していく必要があると考えられる。オンラインで教員同士が面談をする様子を学生が客観的に観察する中で授業の中で学習した知識や概念的な内容について全体像を知ることについては達成できる内容であったと考えられる。今後はこれらの内容も踏まえながら学生自身が知識などを用いて実施していける場についても新たに設置することを検討していく。

◆集計データ結果について

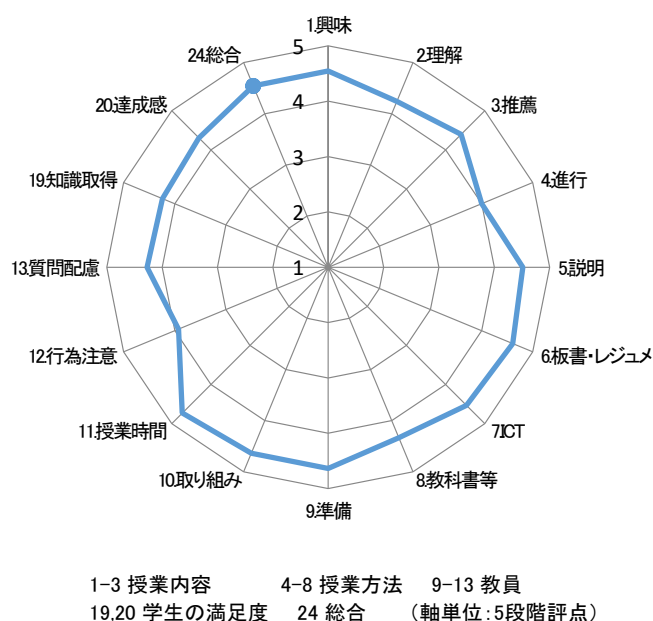
問12を除くすべての平均が4.0以上であり、バランスの取れた評価であった。行為注意が3.9であったが、全課程オンライン授業のため、教員側から注意喚起を行うことはできなかったという状況である。学生の意識については「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」の合計で、「目標等を意識」は70%超、「質問」は70%、「熱心さ」は90%であり、おおむね学生の授業への取り組み姿勢は意欲的であったようである。classroomを通して質問しやすかった環境も功を奏したかもしれない。

一方、学生の復習については「1時間未満」が25%超、残りは1～5時間と幅はあるが、「まったくなし」の学生はいなかった。毎回classroomで課題を提示しており、しっかり取り組んだ自覚があるようである。一方予習では「まったくなし」が45%であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

教員の進め方については、「説明が丁寧でわかりやすい」「レジュメがわかりやすい」「質問にその日のうちに回答してくれた」「声が聞き取りやすかった」「課題にコメントがあり課題の評価が分かりやすかった」との肯定的な意見が多かった。一方で数名より「進み方が早かった」「少し早口のところがあつた」との改善要求の意見も挙げられた。

授業内容では「疑似体験を通して生活上のような不都合が起こるのかが想像できたと、体験型の課題を好意的に捉えていた学生が多かった。



◆今後の改善に向けて

本授業は、身体障害領域の作業療法を学ぶ、入門編の位置づけである。1年次に学んだ解剖・生理学や運動学の知識が臨床でどのように繋がっていくかを学生は理解する必要があり、特に脳神経系に関する復習には時間を割いた。図や別途資料を用意したり、演習を交えたり、課題の中で作業療法との繋がりを考えてもらったり、小テストで基礎知識を復習したり、様々な方法を駆使して学生理解の促進を試みている。課題へのコメントには、学生の知的好奇心や向学心を引き出すようなことを加えるようにも心掛けた。

今回は更に感染症対策として本科目の全課程がオンラインであり、前週までに紙資料を送付し、講義当日は紙資料と同じ内容のパワーポイントを画面に提示し講義を行った。その際、紙資料と教科書のどこを進んでいるのかわかるように随時示した。課題はclassroom上で提示し、classroom上にPDFファイルで提出してもらった。提出物や質問には1週間以内に解答するように心掛けた。学生の学習が進んでいるか不安はあったが、試験結果は例年と遜色なく、丁寧に学習できている学生が多い印象であった。

今年度後期より、新カリキュラムの為同授業を1年次の学生が受講することになる。少し増えた授業時間数で、いかに効果的に教授できるか、検討を重ねたい。

科目名

98. 精神障害作業評価学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

28 名

◆集計データ結果について

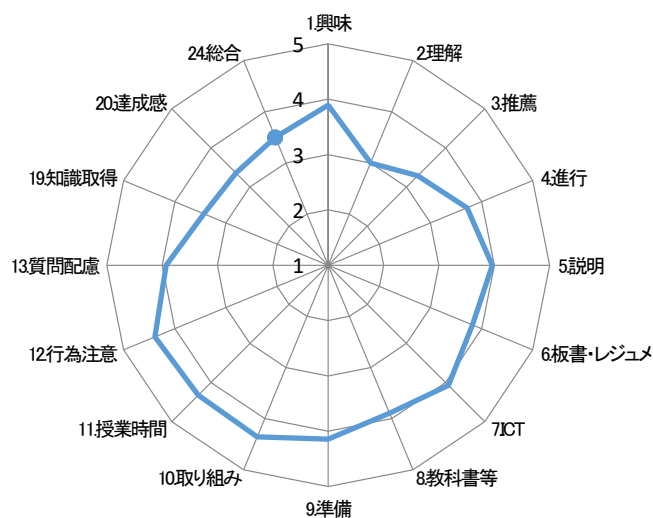
3点台のものがある。何を学ぶのか、を理解していないためにこうなっていると考えられます。暗記中心の科目でないことを、分からないことを気づけるようになることの重要性をもっと理解いただけるように工夫が必要であろうと思います。またこれら作業を通して、分からないことに触れることを楽しめるように工夫が必要でありました。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

1時限が75分間とせられていたこともあり、学生方には大変申し訳なく思っています。そのためか中途な感じで授業が終わってしまったというような記載がありますが、その分質問表を用いるなどして授業内、授業外で質問を受け付ける体制を最大限整えていましたのでぜひ利用していただきたかったと思います。反面、担当教員は、学生方にしっかり向き合って質問に答えてくださったとの意見もあるため、実際に質問したのかどうかカギを握っているように思われます。答えを聞いて書き止め覚えて試験用紙に書くだけの学習を卒業していただくべく企画している授業であるので、学生の理解をさらに進められるような工夫が必要であると考えられました。

◆今後の改善に向けて

目には見えない精神を学ぶのもっとも学生の話に耳を傾けながら説明するなどのことを継続していきたいと思われました。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆集計データ結果について

今年度は日本作業療法士協会2019年作成のコア・カリキュラムに基づき内容を絞った。

初回より遠隔授業となり、前もって録音して臨んだパワーポイントの音声が悪く、再度、オンラインでパワーポイント資料の説明をすることとなった。

遠隔授業の実施にあたっては、実際の音声画面がどのような状態なのかモニターで確認すべきであった。以降の講義は最終の2回を除き遠隔での実施となった。

発達過程の運動動作及び認知について動画資料を使用した。遠隔時の配信は画質を落とさねばならず動画編集に苦労した。しかし、学生の理解には動画に勝るものは無かったようである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

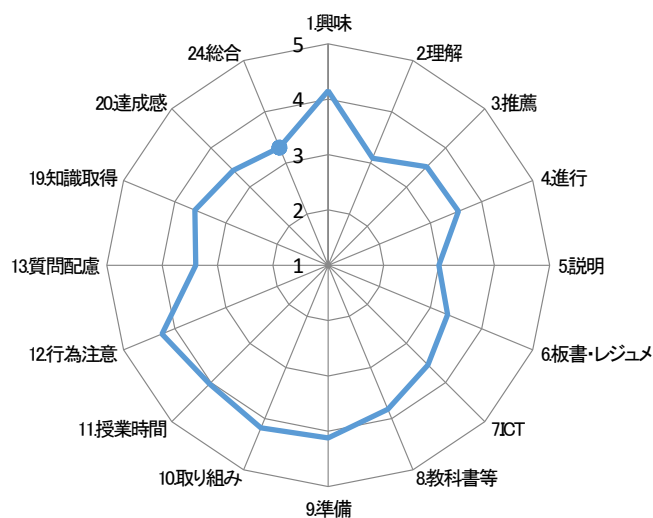
初期の遠隔授業ではかなり音響具合が低下し音声の質が悪くなった。

具体的な経験談を入れながらの講義に務めたが伝わりにくかったようである。

最初の講義の失敗がそのまま8回と回数少ない本講義の全体に影響したようだ。

遠隔講義のため資料動画を配信したが、興味深く学生は鑑賞し、運動発達と認知発達の理解が深まったようである。

話し方については、学生に伝えたい臨床での経験や医療の社会的状況を思い浮かぶがままに今回は話した。聴き手にとって何が重要かわかりにくいものとなったようである。これらの事柄に関係なく重要な要点は小テストの内容として実施した。この説明は初回にしかしておらず、学生には混乱を招いたようである。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

図らずも本学での最後の講義となった。来年度については良い後継者が見つかることを祈るばかりである。

私自身は、わかりやすい講義内容に今後も務めよう。学生の理解度に合わせた進行と内容が必要である。分かりやすい資料と言い回しについて相手に合わせて実施すべきである。反応がないときは学生の理解が深まっていない証拠と理解したほうが良い学生が多いようだ。講師側の憶測のみでの判断は残念な結果を生むことを反省すべきである。

◆集計データ結果について

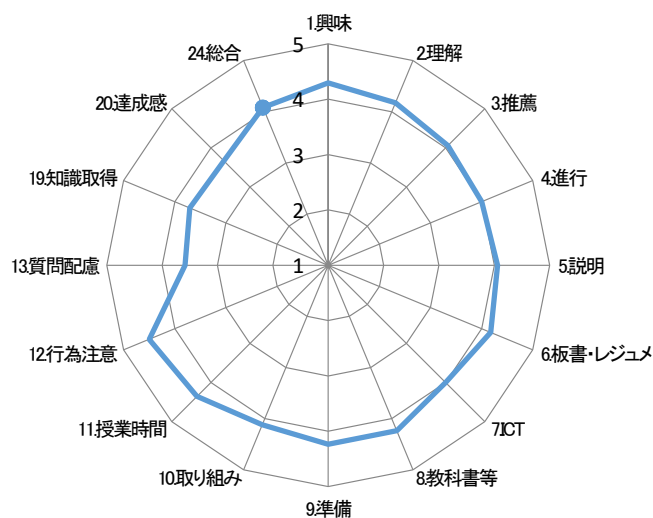
全ての項目が3.6～4.5となっており、概ね問題無い評価であった。

学生の意識としては、「目標等を意識」「熱心さ」ともに取り組んだ(どちらかといえばを含む)者は約75%に留まり、「質問」に至っては、65%がしなかったと回答した。そして、約45%の者が復習を全くせず、約55%の者が予習を全くしなかったと回答した。これらのことから、積極的に学習に取り組んだ者は少なかったと言える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

各理論をグループごとに分担して発表したことに関しては、「理解が深まった」という意見が多く見られ、「生徒が主体的に行う機会が多く、座学より理解が深められた」との記載もあった。しかし、「発表前に先生からのフィードバックを受けた方が良いのではないか」との意見も数名みられた。

また、「教科書の内容が難しかった」との意見が複数あり、「例えを入れてくださりながら教えてくださったので分かりやすかったです」「どこが重要であるのか、また国試に出るのか明快に把握し理解することが出来たので良かったです」との記載があった一方、「もう少しかみ砕いていただけたら良かったと思いました」「プリントなど用意すると分かりやすかったと思います」といった意見も見られた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

“理論”というものの枠組みを理解してもらうために、各理論の説明の部分に関しては、グループワークの形を取っている。自由記載にあったとおり、それを肯定的に捉える学生は多いようであるが、発表前のフィードバックが欲しいとの声もあり、検討の必要があると思われる。

理論の変遷に関する部分は講義形式にならざるを得ないが、“理論”という捉えにくい内容を、いかに分かりやすく伝えるかは、限られた時間数の中ではあるが、工夫する必要があるであろう。

◆集計データ結果について

全ての項目で4点以上となり、特に「準備」が4.6「取り組み」が4.7と高評価を得ることができた。

学生の意識としても、75%以上が目標を意識して(どちらかといえばを含む)取り組み、80%以上が授業中あるいは授業後に質問し、全員が熱心に(どちらかといえばを含む)取り組んだと返答しており、積極的に取り組んだことがうかがわれる。

これは、この科目が臨床実習の直前に配置されており、学生自身が臨床実習を見据えて主体的に学ぼうという意識を持って取り組んだためだと考えられる。実際、約85%が予習・復習を行っているところからも意欲がうかがわれる。

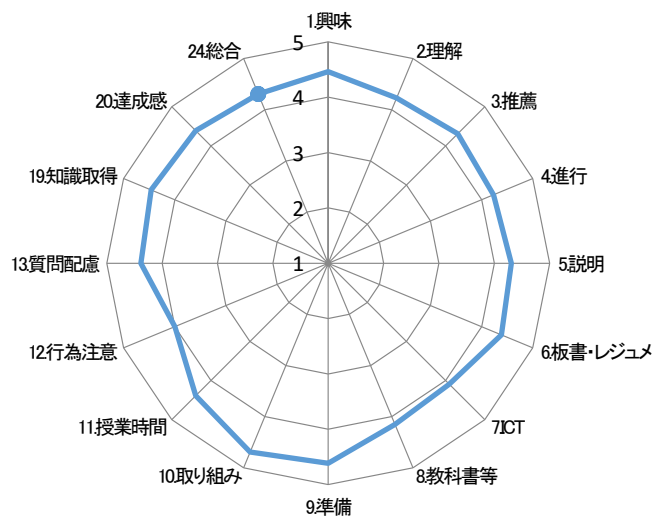
しかし、質問せず、予習・復習もしなかった者がそれぞれ15%おり、これらの学生にどのようにしたら危機感を持って取り組んでもらえるかを検討する必要があると思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

まず、実践形式の授業であったことに対して肯定的記載が複数あり、「臨床実習を仮定した練習ができて良かった」「実習に必要な知識など臨床でのことを中心に話して下さった」というような、臨床実習を見据えた授業内容に対しての肯定的記載も見られた。また、テスト後のフィードバックについても「自分のできていないところを知ることができて良かった」「フィードバックを基に練習できたことが良かった」というような肯定的記載が複数見られた。

しかし、「先生によって言われることが違うので統一してほしい」「先生達の間で採点基準がずれていたのを統一してほしい」といった記載も見られた。

さらに、「事前説明の時間が長すぎる」「タイトなスケジュールで辛い」といった意見もみられた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

来年度は新カリキュラムになるため、この科目自体の内容に変更があることが予想されるが、臨床実習前後のOSCEは必須となるため、このような内容の科目は実施されるはずである。

その際、「臨床実習を見据えた実践的な内容」を具体的に教員が指導するとともに、学生自らが学ぶ姿勢を促し、active learning を実践していく事が望ましいであろう。

今回、テスト後のフィードバックが有効であったとの声が多くあり、OSCEを形成的な評価として利用し、各自が明らかとなった自身の課題に取り組む時間を多くとり、その間も教員からのフィードバックを続けていけると良いと考える。

その際、教員間で情報交換を密にし、指導内容・評価基準の統一に努めていく必要があると考える。

◆集計データ結果について

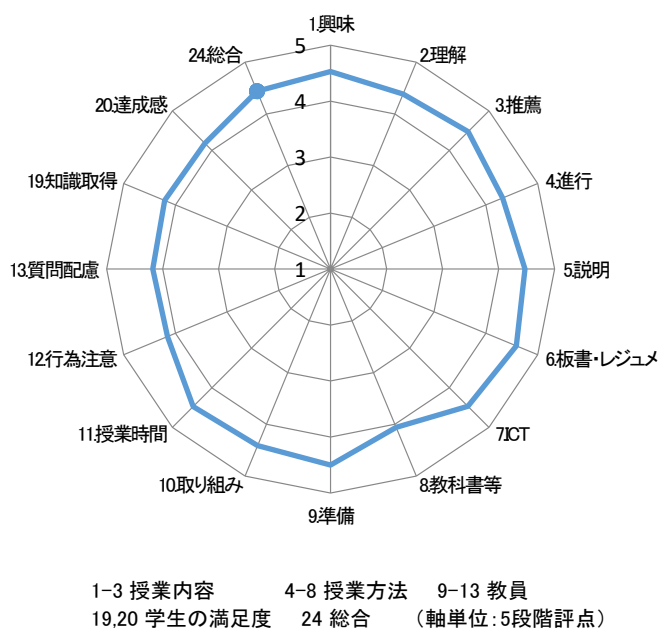
今回の授業は全てオンラインで実施した。そのため、資料の印刷は学生が各自で行うこととなった。印刷ページが多かったため、こちらで事前準備をするなど配慮があっても良かった。今年度の初めての授業のため、資料作成に時間がとられ、資料の提示が遅れたことも原因である。授業全般は、できるだけ簡潔な資料作り、国家試験の問題の併用、動画によるイメージをしやすくさせることを意識して実施した。全ての項目で4以上であるため、概ね良いと思われるが、一部改善の余地があると思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

資料の印刷については、授業資料作成を早く完成させ、事前に資料を配布するなど工夫を検討します。オンラインによる小テストにより実施時間の問題がありました。次年度は、終了時刻をアナウンスする、次の授業に影響が出ないように、改善を図りたいと思います。授業の時間配分が上手にできていなかった部分は、計画的に授業が進行するように気をつけて実施します。

◆今後の改善に向けて

次年度からは、授業資料作成に時間が取られないため、資料の事前配布が可能になると思います。小テストに関しては、時間のアナウンスをして、安心してテストが実施できるように配慮します。動画を用いることは良い印象であったため、さらに良い動画を提供できるように心がけます。授業の1コマが疾患別に分かれていましたが、時々復習を入れるなどの確認をとり、知識定着に努めていきます。授業資料だけでなく、教科書を開くなど有効活用をしていきます。これらのことから授業満足度を向上させていきたいです。

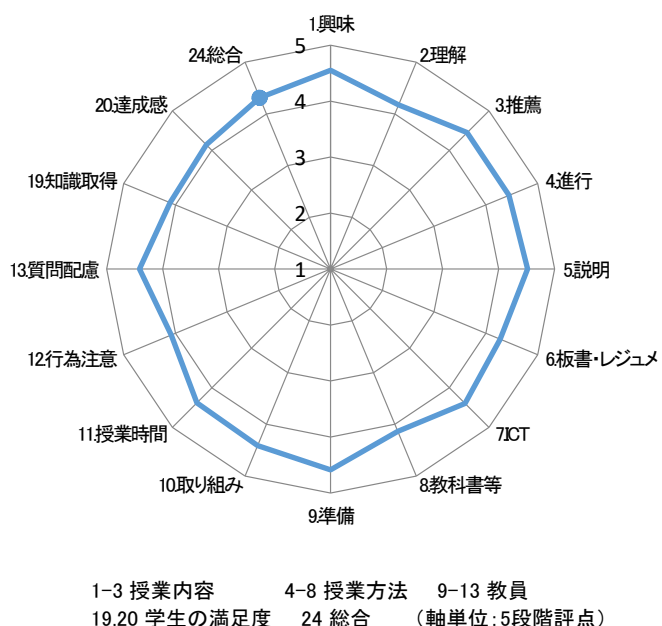


◆集計データ結果について

全ての項目について4.0以上であったため、概ね良好であったと思われる。しかしながら、授業目標を知らなかったという学生が半数近くいる状況であったため、講義の中で目標を意識してもらえよう構成を考えていきたい。また、予習を全くしていないという学生が3割弱いるため、継続的に学習を促せるような構成としていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

資料の見やすさ、事前に配信した動画教材に対して肯定的な意見が多くあった。また、「症例について記載してある文をよみ、そこから治療計画であったり、対象者が不便に感じているであろう事を考える時間が良かった」と事例に基づいた学習が良い学習につながっている様子が伺えた。その一方で、「復習課題が難しかった」「臨床現場でどのように行っているかを聞きたかった」という意見もあった。本科目は扱う範囲の広さから知識を一方向的に伝えることが多くなってしまうが、その中でも臨床での様子が想像できるような授業としていきたい。



◆今後の改善に向けて

今回はオンラインということで事前に動画を収録して配信、講義時には小テストを実施しその解説を行う形態で実施した。動画教材に関しては今後もうまく活用していった。また、事例情報や事例の動画など積極的に取り入れながら、臨床につながるイメージを学生に持ってもらえるように展開していきたい。

◆集計データ結果について

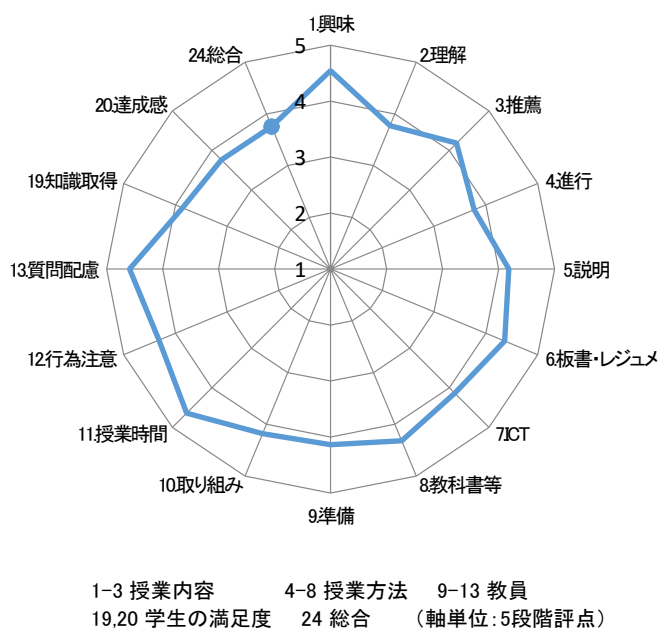
概ね4点以上の評価ではあったが、理解、進行、知識取得、達成感では4点を下回る結果となった。予習復習の重要性を伝えてきたが、1時間未満の学生が大半を占めている。授業時間の都合で教員から教授する時間を最低限にとどめ、学生同士で実習する時間を多く作っているが、そのことが影響し学生の理解度によって十分な学びにつながらなかった可能性がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの教員が関わり質問しやすい環境であったことが肯定的な意見としてあったが、授業時間や説明の少なさ、教員間の指導内容の不一致に対して否定的な意見があった。集計データ結果と同様、積極的に学ぶことができる学生にとっては良い環境であった可能性はあるが、参加の仕方によっては十分な学びにつながらなかったことが伺える。来年度からは授業内容を変更することになるが、学生がこまめに予習復習を行い、その到達度を確認できるような授業の構成にしていきたい。

◆今後の改善に向けて

毎年、授業時間の制約が評価結果につながっているが、来年度からは本科目で扱っていた評価技術の多くを別の科目で実施することとなる。今年度の反省を活かしながら、科目の主である作業療法治療について学ぶ機会を多く作り、臨床実習につなげていけるような科目としていきたい。



科目名

105. 精神障害作業治療学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

20 名

◆集計データ結果について

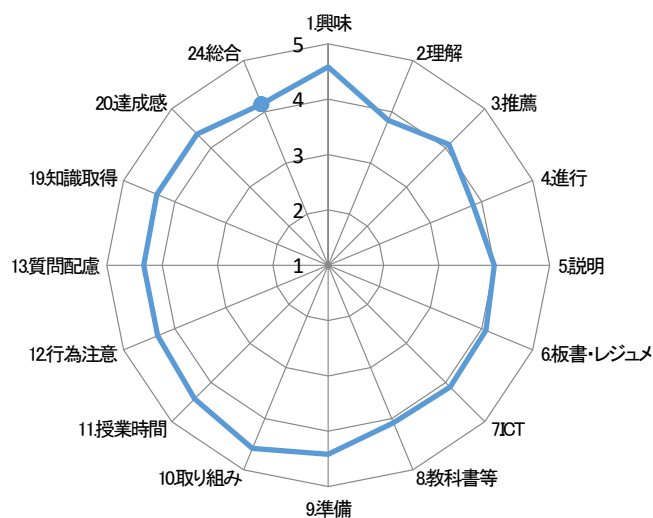
レーダーチャートは、理解、進行を除いて4点台であり、おおむね好評であったと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

教科書をただ覚えることが学習ではないことが記されており、この授業の目的として掲げていたことに近づいていると考える。様々な疾患・障害を対象として限られた時間の中での学習はかなりタイトなスケジュールをこなしていくため、なかなか思うようにはいかずに不満のようなものもあったかもしれない。

◆今後の改善に向けて

グループワークは行うにしても成果発表を全体ではなくこれもジグソーのようにグループで行えるようにする。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

106. 精神障害作業治療学実習

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

21 名

◆集計データ結果について

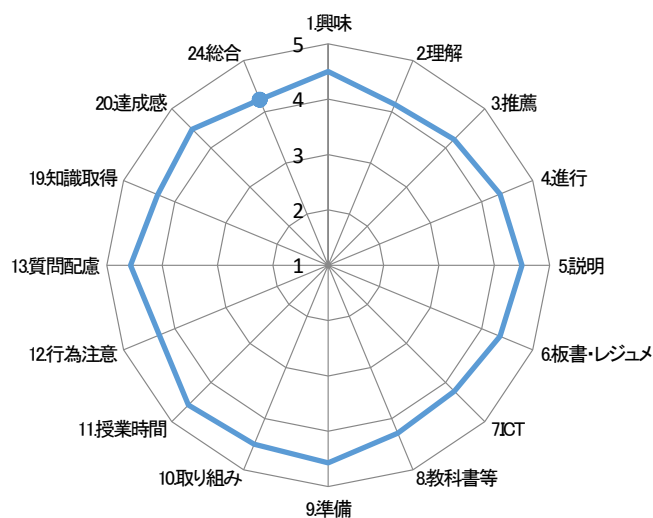
レーダーチャートは4点以上であり、好評であったと考える。予習、復習の時間が十分でないという結果になっているが、例年伝えられているように、フィードバックの時間も予習や復習の時間であることの認識に乏しさがあるようだ。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

個別で全員にフィードバックすることも含めての授業であるため、授業時間外での縛りのようなものに嫌悪感を持っている起債が見られたがその反面遅い時間まで時間を割いたことに対しての教員へのねぎらいのようなものまであり、2極化しているように見える。

◆今後の改善に向けて

この授業の担当教員を2名体制で実施する。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆集計データ結果について

授業開始時、反転授業として位置づけグループワーク実施することとした。そこでまず初めに試みたのはこのコロナ禍グループ作業をどのように進めるかである。

最悪の状況を想定し、クラスルームに8グループの小クラスルームを作成した。幸いにもこの小クラスルームを使用せず、感染者を出すこともなくグループワークを最終授業まで実施することができた。これは受講学生が日ごろに健康記録や感染対策をしっかり実施してくれたおかげであったと感謝している。

授業は学生が自主的に学習する体制を作ることから始めた。積極的な学習を可能にするために、教科書予習ページと学習到達目標を細分化した授業ノートを作成し配布した。

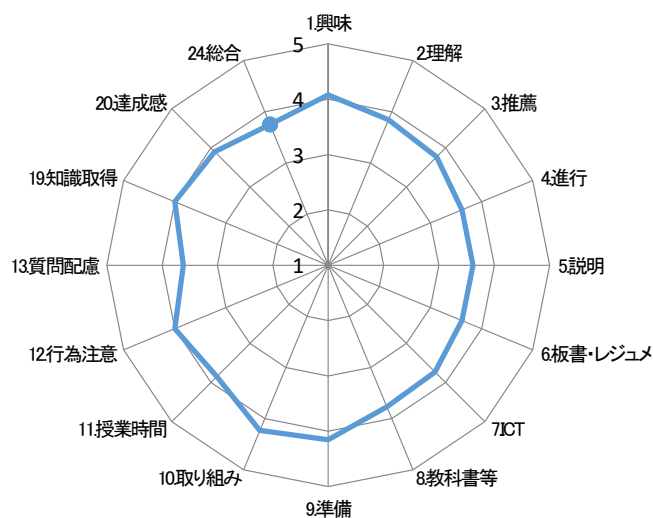
授業評価の結果は4に届かず残念な結果となった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

『授業で分からない所があっても質問の回答が的を得ていないので、質問しに行かなくなった』との意見があった。

私は、学生には自ら学び、問題点を整理し、解決策を見つける学びをしてほしいと考えています。目の前の問題点を的確にとらえ整理し解決する手立てを学ぶことは作業療法士にとって大切なことです。発達障害児が抱えている課題はそれぞれ異なります。個別に抱えている問題を整理し、解決の手立てを考える。発達障害作業療法の臨床では大切な力となります。

質問に対しては、常にこのようなことを考えながら答えたつもりです。即答するのではなく学生自身が考えるヒントを返すように心がけました。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

一年間お付き合いいただきありがとうございました。

医学の進歩は日進月歩です。常に新たな疾患や新たな構造の障害が次々と明らかにされ医学的対象療法理論と技術も構築されることでしょう。しかし、リハビリテーションの基本は変わらないはずで、クライアントの残存機能を育成し、新たに構築される障害を予防することです。病態から障がい構造を分析し、作業参加と環境作りからの臨床理論の考え方を伝えたいつもりです。

卒業時には作業療法に貢献できる新人作業療法士になることを期待しています。

ともにあゆみ学会研修会や勉強会でお会いすることを楽しみにしています。

その時は、お声がけください。

科目名

108. 発達障害作業治療学実習

担当教員

清水 一輝 ・ 高田 政夫 ・ 横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

19 名

◆集計データ結果について

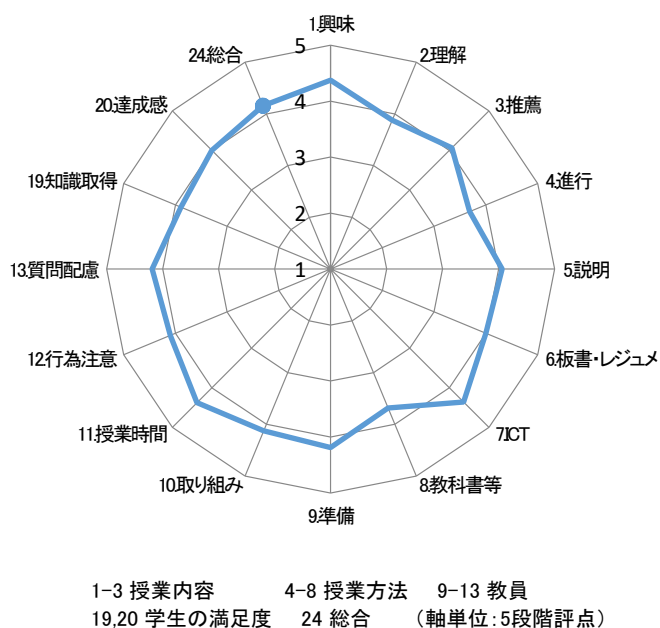
概ね4点以上の結果であったが、進行、教科書で4点を下回った。今年度は急遽オンラインでの実習となり計画通りに進行できなかったことが影響していると考えられる。約半数が質問をしなかったと回答している。グループでの学習が主であり適宜教員も関わるような体制を整えていったが、教員の体制づくりが不十分であった可能性がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

オンラインではあったが、園児と交流したことに対する肯定的な意見が多くあった、その一方でオンラインでの実施に向けて授業変更などが続いたことに対する否定的な意見やグループワークの進め方に対する意見があった。この科目ではグループでの活動が主であり、グループメンバーによって学びの差が生じてしまう可能性があるが、今年度はオンラインが主であったためそれがより顕著であった可能性がある。

◆今後の改善に向けて

次年度もオンラインでの実施が想定されるため、今年度の取り組みを生かし計画的に進めていきたい。また、グループワークに関しては、やはり参加する学生の目的意識によってグループ間での負担感や達成感の差が生じてしまうため、より具体的な枠組みを作ることも検討していきたい。



◆集計データ結果について

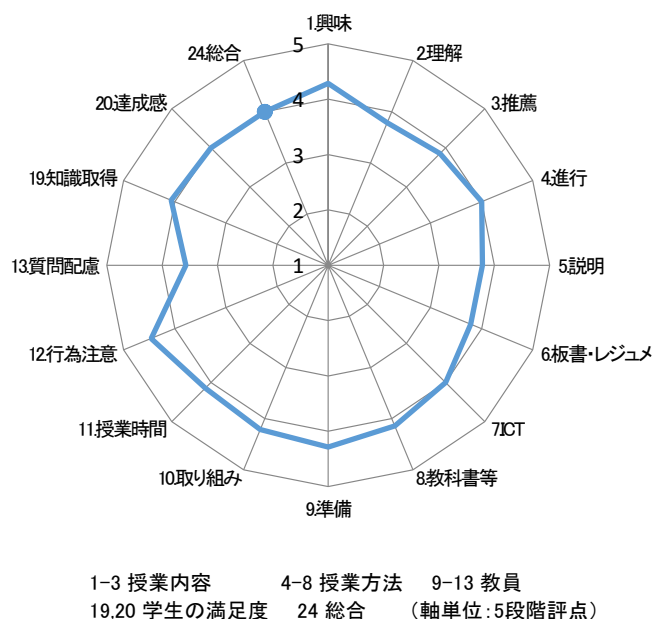
全ての項目が、3.6～4.5の間であり、特に大きな問題はないという評価であった。
 学生の意識としては、約80%が目標を意識して(どちらかといえばを含む)取り組み、約85%が熱心に(どちらかといえばを含む)取り組んだと回答した。しかし、約90%の者が質問をしなかった。
 復習に関しては約15%が、予習に関しては50%が全くしなかったと回答した。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「認知症のスクリーニングテストを実際に体験したことで、大変勉強になった」「認知症についての理解が深まった」との記載が複数あり、「補足の資料などがとてもわかりやすく教科書だけでは理解しきれないこともプリントの配布と授業で扱ったことで理解が深まったので良かったです」との肯定的な記載もみられた。
 また、「臨床現場での話をしてくださり教科書以外の知識を知ることができた」との記載があったが、「授業以外の内容を話して時間がなくなり、最後の方でペースが速くなったりした部分が気になりました」との記載もみられた。

◆今後の改善に向けて

認知症に特に力を入れて進めたことにより、理解が深まった部分もあったと思われるが、全体の流れの中で、バランスを工夫する必要があるであろうと思われる。

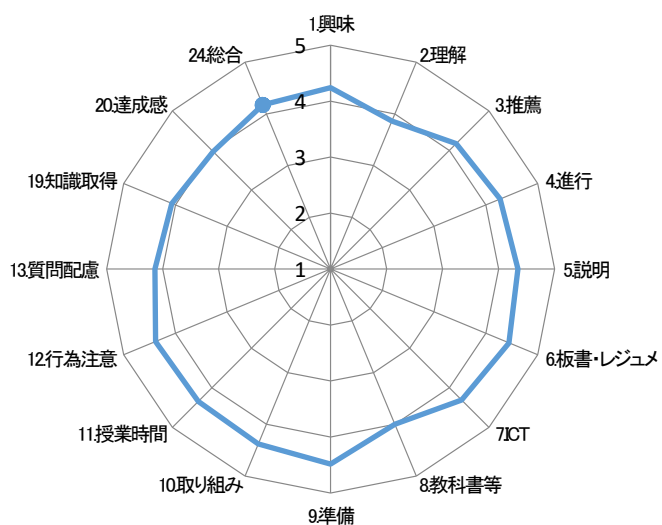


◆集計データ結果について

ほとんどの項目で4.0以上となっていたが、2.理解の項目で4.0を下回る結果となっている。予習・復習時間については全くなし／1時間未満という学生が多く占めていた。学生の理解を深められるような講義内容とともに、予習・復習の課題も合わせて検討し、学生の理解を深められるような構成としていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見として、「課題などで考えることや、授業内容を詳しく理解できるようにおこなってくれたことが良かった」「作業療法で生かせる評価項目について学べたので、とてもいい勉強になった。また日常の評価項目を知ることが出来て、楽しんで学ぶことが出来た」などがあった。その一方で、「もう少し噛み砕いた分かりやすい説明をしていただくと分かりやすかった」「具体的に何を勉強したらいいのかよく分からなかった」という否定的な意見があった。上記と同様、学生の理解を深められるような構成を検討していった。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

日常生活作業を支援する作業療法のプロセスとその評価方法を学ぶ構成としている。具体的な評価項目を体験を通して理解してもらうよう進行しており、その点は学生の理解も深められているため今後も継続していきたい。今年度から行った作業療法のプロセスに関して、やや難解な内容もあったのではないかと思います。実際の事例の情報などを利用しながら具体的にイメージしやすいように授業を展開していきたい。

◆集計データ結果について

すべての項目で平均が4.2以上であり、バランスの良い評価であった。本講義では①トランスファーや車椅子操作などの基本的な技術を、その場で修正しながら徹底的に身に付けてもらう、②各疾患の特性によるADL上の特徴を、自身で調べたり体験したりしながら身をもって理解してもらうという、臨床実習に向かうための技術獲得の場という位置づけを重視した。

随時、技能評価試験を行い、その都度フィードバックしたためか、14「熱心さ」、15「質問」は多くの学生が「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」を選択した。一方17,18の予習・復習では十分に時間を割くことができていない学生が多かった。

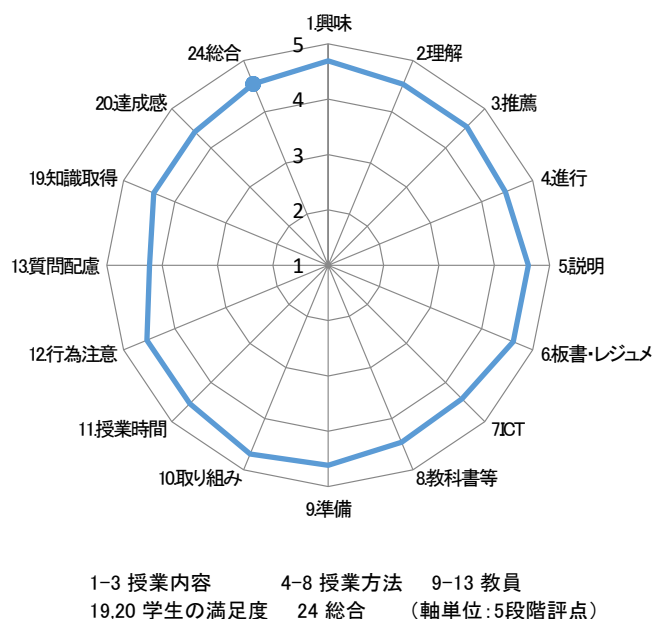
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

移乗介助実技については「患者さんの自分でできる力を引き出しながらの介助について実際に行いながら知り、学ぶことができたのでよかった」「最初は介助に自信がなかったが、講義内やフィードバックで細やかな指導をしてくださったのでは今では自信を持って介助出来る様になった。嬉しい」「車椅子の操作方法や対象者の方がどのような点に恐怖を感じるのかを実際に自分で動かしたり、体験できたりしてよかった」との意見が挙がった。また架空事例に基づいた学習については「症例に基づいて評価計画を立てたり、自分で考えることができた授業だったので、臨床に出る上でとても学びに繋がった」「事例についてまとめる課題では、自分で分からないところを調べ分かったりやすくまとめていく力を身に付けることができ良かったと思う」との意見が挙がった。今年度は、否定的な意見が挙げられなかった。

◆今後の改善に向けて

昨年度は「授業の数か月後には覚えたはずの技術が身についていない」との意見が挙がっていた。技術は一度覚えるだけでは身につかず、繰り返し学習がいかに必要かということを、学生に自覚してもらうような指導を心掛け、必要に応じて自習にも付き合った。今年度、同様の意見はなかったが、学生の定着状況の確認は継続していきたい。

また、今後は養成校指定規則の改正に関係して、クリニカル・クラークシップやOSCEの導入など、臨床実習を取り巻く状況が大きく変化する。そのような中で、技術の獲得はもちろん、クリニカルリーズニングを身につけてもらえるような内容を取り入れていく予定である。他の関連科目と協同し、授業内容の再構築に努めたい。



◆集計データ結果について

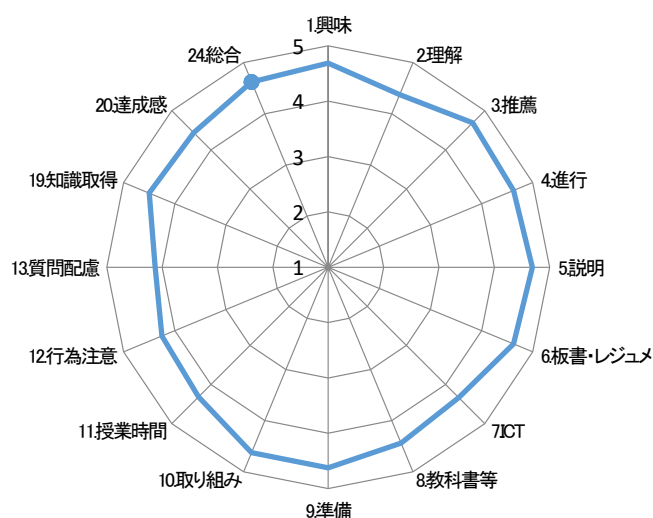
すべての平均が4.1以上であり、おおむねバランスのとれた評価であった。本科目の授業準備や進行で工夫していることは、①わかりやすく、後に活用できるレジュメを作ること ②演習を取り入れること ③関連論文を学生一人一人に探してもらうこと の3点である。①については、臨床実習や国家試験を念頭に置き、ポイントをわかりやすく示すことを意識した。また②についても同様に、臨床実習や国家試験で体験を生かせるよう、できる限り多くの演習を限られた時間の中で盛り込んだ。③は前半がオンライン授業であったため、後半の対面授業になってから、まとめて文献検索してもらった。前半は、関連するサイトや教科書のコラムを読んだ感想をレポートしてもらうなど、工夫して課題を課した。

学生の取り組みについては多くの学生が質問14,15,16に「取り組んだ」あるいは「どちらかといえば取り組んだ」と回答していた。予習・復習とも、回答者の約半数が「1時間未満」と答えていた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「レポートで文献検索したり、グループワークでの活動で良い復習にもなったし、わかりやすい授業だった」「学生同士で評価し合う、器具を使ってみる授業がとても良かった」「実際に自分に適応して考えてみる事ができた」「授業中の説明もレジュメも凄くわかりやすく、いい授業だった」「重要点が分かり、国試対策も取り組めたので良かった」「先生が実際に経験したお話も含めながらの症状の説明があったのでとても分かりやすく、学ぶことが出来て良かった」など肯定的な記述が主で、担当教員の上記工夫が伝わったようであった。

一方で「それぞれの障害に対する評価方法が多くあり、理解が難しいと感じた」との意見があり、更に分かりやすく伝える工夫が必要と感じた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆今後の改善に向けて

毎年、高次脳機能の領域に対し、「難しいからイヤだ」ではなく「難しいからこそ面白い」と思ってもらえるような、高次脳機能の入門編としての位置づけの授業が展開できたらと思い、授業を進めている。年を重ねるごとに、学生がどこに興味を抱くのか、どこに躓きやすいのかの経験値としてのデータが蓄積され、マイナーチェンジを繰り返している。

今年度は、前半をオンラインで行うという、初の取り組みであった。オンラインでできることの可能性を探りながら、一方で検査の試行や他者との意見交換は、対面授業の方が効果的であることもわかった。今後どのような状況であっても、学習の質を低下させない工夫を重ねていきたい。

科目名

113. 義肢装具作業療法学

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

27 名

◆集計データ結果について

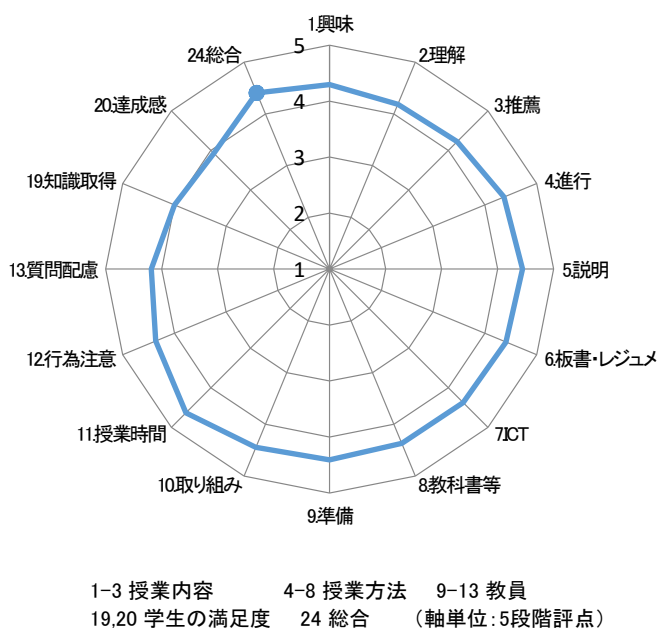
義手や装具はあまり馴染みがなく、難しい科目です。そのため、動画を用いてイメージしやすい工夫をしました。教科書に掲載されているポイントを簡潔にまとめて、わかりやすさを重視してレジュメ資料を作成しました。また、国家試験に対応ができるように、その都度問題を提示し、解説を加えて講義を進めました。オンラインの授業が半分程度あったため、実際に義手や装具に触れる時間を提供できなかったことが残念です。今年度が初めての授業であり、資料作成に時間がかかり、配布が遅くなったところは改善していきたいと思います。総合的に4点以上の評価が付けられていたことは、良かったと思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の資料の配布が前日の夕方になることが何回かありました。次回からは、学生が予習できるように早めに配布できるように努めます。授業資料の見やすさ、動画の評判が良い、国家試験対策が分かりやすかったところは継続していきたいです。

◆今後の改善に向けて

授業資料を早期に作成し、学生が予習や印刷準備が早めに行えるように努めていきます。引き続き、学生がわかりやすく、見やすい資料作りをし、動画の映像などを効果的に用いていきます。また、できるだけ、義手や装具に触れられる時間を提供する工夫をしていきたいです。

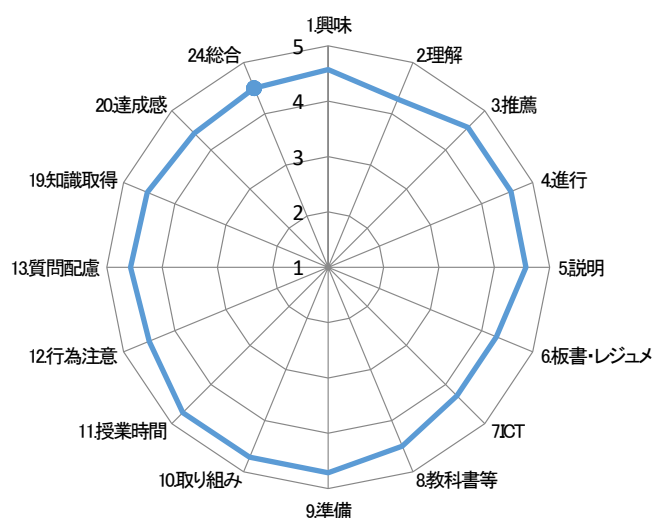


◆集計データ結果について

個人的にはすべての項目において、平均「4」以上となっており充実した授業であったと満足しているが、予習、復習の数値が低いので、授業の終了時に次回の講義の内容について触れ、予習を1時間程度行って授業に臨むと、より理解が深まるのではないかなと思う。シラバス等をあまり活用していない学生が多いと感じる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「実際に」というワードが非常に多く、この授業の特殊性がうかがえる。授業中に実物の義肢や装具を手にとって見たり、触ったり、観察する事により、重さや質感などがわかり、決してリモートの授業では伝わらない部分ではないかなと思う。「実際に」スプリントを製作して楽しかった、経験が出来てよかった、製作してより理解が深まったとあるように、「実際に」製作することの大切さを感じる。ただ、スプリント製作を始める前に、時間の関係上難しいと思うが、最初に講師側がすべての行程の手本を見せてから始めた方がよかったのかと考えさせられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

まず、このアンケート結果がわかりづらいので、アンケートの(5択以内・6択のページ)数値の横に、回答者の人数を記載していただくと、わかりやすいと思います。アンケートの設問と回答を照らし合わせないといけないので、わかりづらいと思います。授業に関する改善としては、学生の自由記載にもありますが、義肢・装具の教材が大変古く、種類も少なく、破損していたり、状態もよくないものもあり、もう少し充実できるとよいと思います。学校にないものは、個人的に用意をして実物を見せておりました。スプリント製作実習についてですが、製作する回数を増やして、もっと様々な装具を作製出来たらよいと思います。義肢・装具の実物の教材や、スプリント製作の材料はコストがかかり、学校の予算との兼ね合いがあると思いますので、なかなか難しい問題なのかもしれません。私は今年度で離れますし、非常勤講師という立場で、学校の予算等についてはわかりかねますので、次の先生に期待いたします。

科目名

115. 作業科学

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

20 名

◆集計データ結果について

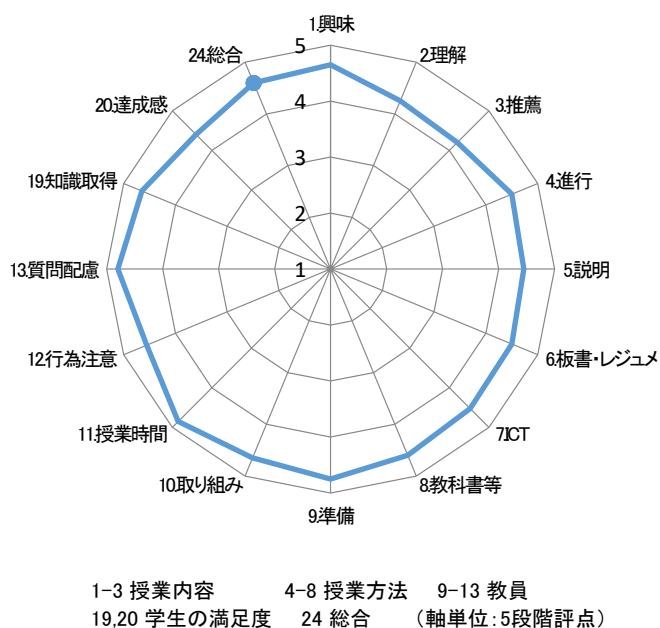
全ての項目において4.0を超える結果となり、概ね良好な結果であった。その中で理解の項目が低値となっていた、作業科学で扱う内容の理解のしにくさも影響していると思われるが、より実践的な知識を伝えることで理解をしてもらえるように工夫していきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループでのディスカッションの機会を多く設けたことに対して肯定的な意見が多くあった。一方で、様々なワークについての説明が不足していたり、その目的が共有できていないことがうかがえる意見もあったため、それぞれのワークの枠組みをより明確に示していきたい。

◆今後の改善に向けて

カリキュラムの変更に伴い来年度までの開講科目となるが、基本的には今年度の枠組みで講義を進めていきたい。3年生の実習終了後のカリキュラムとなっているため、今後できるだけ臨床実践につながるような工夫を多く取り入れていきたい。



◆集計データ結果について

全ての質問項目で4以上となり、4.8の項目もみられ、概ね高評価であったと言える。

学生の意識に関しても、90%が目標などを意識して取り組んだ(どちらかといえばを含む)と回答し、95%が熱心に取り組んだ(どちらかといえばを含む)と回答した。しかし、質問に関しては80%が質問していないと答えた一方、授業中に質問したと答えた者は20%にとどまった。

また、予習に関しては全員が1時間未満であり、内40%が全くしていなかった。復習に関しても95%が1時間未満であり、内55%が全くしていなかった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「時間と量が一致せず、ひたすら詰め込まれている感じだった」との記載に代表されるように、範囲が広いにもかかわらず時間数が少なかったため、「スピードが速い」「進むペースが早かった」といった記載が複数見られた。

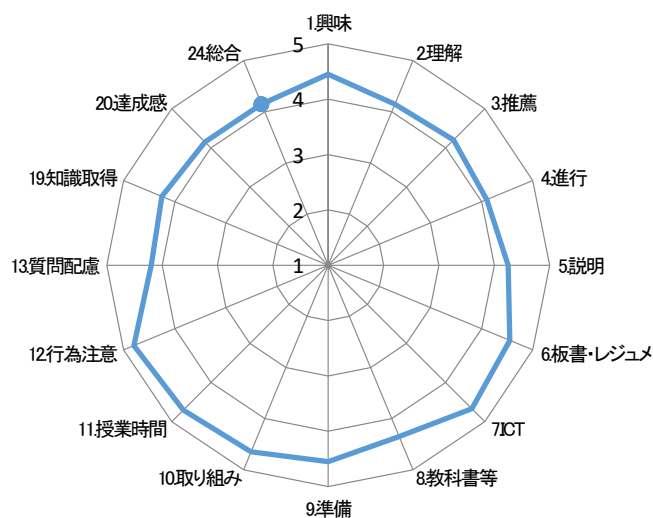
その一方で、評価の1つであるOSAの演習を取り入れたことに関しては、「OSAを実際にやったことで、過去問を解くうえで参考になった」「OSAを実際にやることで身体に染みついて理解できた」といった記載も見られた。

また、「国家試験に直接つながる知識を直前に教えていただけて勉強になった」との記載や、「わかりやすかった」「良かった」との記載もあり、「卒業後も勉強していきたい」との記載も見られた。

◆今後の改善に向けて

人間作業モデルという1つの理論について、現在の時間数でその概要から実際の利用の仕方まで教授することは大変困難であろうと考える。

これまで、3年次の国家試験直前の時期に限られた時間数の中で、『理論』という考え方の枠組みに関する知識への理解を促し、かつ国家試験対策としてのポイントを伝えるだけでなく、『理論に基づいた実践』の一部を具体的な体験を通して理解を促すように授業を構成してきた訳であるが、今後、さらに学生の理解を促す方略を検討頂ければ幸いである。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

117. リハビリテーション関連機器

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

33 名

◆集計データ結果について

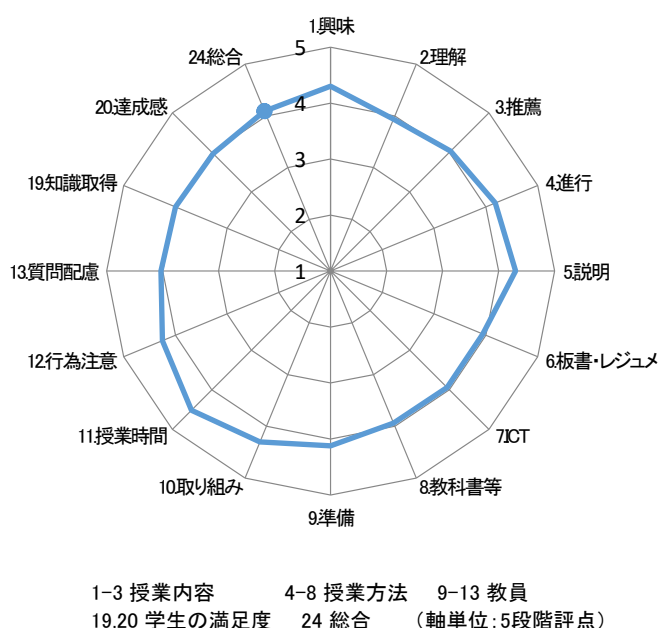
本授業計画では、グループディスカッションを中心に実施する予定でした。しかし、オンライン授業となり、実施が困難でした。いろいろな角度から意見を出し、考えて欲しかったです。授業は講義により知識を伝えるのではなく、課題を提示し、主体的に教科書や参考書などを調べ提出する形式の授業スタイルでした。もう少し、具体的な疾患像や実際の自助具や福祉用具に触れる機会を作ることが必要かと思われます。計画では、ウェルフェアに参加して、最新の機器類に触れてもらう予定でしたが、これも中止となりました。別の形で提供することができなかったことはとても残念です。授業の進め方、課題の提示、フィードバックの方法に改善の余地がありましたので、改善をしていきたいと思っています。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

症例設定が十分でなく、わかりにくい意見がありました。もう少し、具体的な症例提示をしていきたいと思っています。質問にも回答ができていないことがあったため、学生の声に耳を傾け、適切なタイミングで返答していきたいと思っています。動画を途中から導入しました。この点については、理解が得やすかったようなので、この後も継続を考えます。

◆今後の改善に向けて

各ADL項目ごとに必要な自助具等を提示し、しっかりと説明をしたいと思っています。その後、もう少し細かい症例を提示し、グループで考えてもらう形式を実施します。レポートのフィードバックは十分な説明が取れませんでした。学生が理解しやすい形式を検討していきます。



◆集計データ結果について

第6回まではオンライン授業となったため、事前に音声付きの動画を配信し、途中で小テストを実施して進めた。結果として「ICTの使用」が4.3、「講義の準備」が4.5であり、全ての項目も3.7～4.7の間となり、オンラインでの授業ではあったが概ね評価は良かったと思われる。

授業への取り組みについては、「熱心に取り組んだ」「どちらかと言えば熱心に取り組んだ」を合わせると約9割となったが、予習は3割が全くしておらず、復習も5割は1時間未満、全くしなかった者も1割あった。

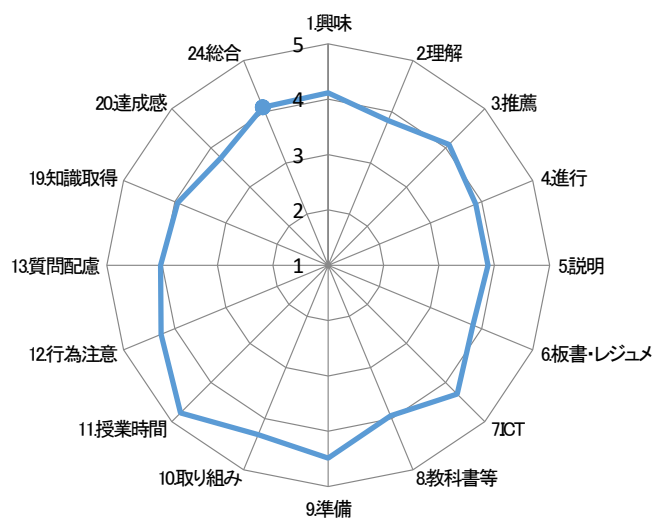
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義動画が分かりやすかったとの記載が多く見られ、後で見直すことができて良かったとの記載も複数見られた。動画のスライドに関して、重要な箇所を空欄にしたものを事前に郵送しておき、講義当日穴埋めしながら進めていったが、その方法によって理解が深まったとの記載もあった。しかし、空欄が小さくて穴埋めしづらかったとの意見もみられ、これは郵送枚数を減らす目的もあり、1スライドが小さくなってしまったためであったが、工夫の余地はあったかもしれない。

またオンライン授業であったため、授業後のフォームに質問を記載される例も多かったが、すぐ回答してくれて良かった、丁寧に対応してもらえたといった記載も見られた。対面授業では質問が出にくい、フォームによる質問の利点であったと思う。

◆今後の改善に向けて

今年度は、コロナ禍での初めてのオンライン授業ということで、不具合が起こる可能性を予期して、あらかじめ音声での解説を加えた動画を配信しておくことにしたが、このことが大きなトラブルがなかったことに繋がったと考える。また、フォームでの小テストも配信時間を設定しておき、休憩時間を取れるようにするなど、スケジュールを細かく計画して準備した。実際、自由記載の中には「慣れないオンライン遠隔授業であったけれど声が聞き取りやすかったり、進捗が良く混乱を招くことがなく分かりやすかった」との記載も見られ、まずは円滑に進められたと考える。今後に関しては引き続き遠隔授業での実施も視野に入れ、さらに準備を進めて行く必要があると思われる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆集計データ結果について

全ての項目が3.8～4.4の中に入り、概ね問題のない評価を得られたといえる。

学生の意識としては80%以上が目標を意識して(どちらかといえばをふくめて)取り組んだと回答し、90%以上が熱心に(どちらかといえばを含めて)取り組んだと回答した。

しかし、復習時間は3～5時間と回答した者が約20%であった一方、全くしなかったという者が約10%であり、予習に関しても3～5時間が約10%であった一方、全くしなかった者が約30%であり、取り組み方に大きな個人差があったことがうかがえる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

レクリエーションの準備に関しては「大変だった」との記載が複数見られたが、その言葉に続けて「実際に実施できてとても良い経験になった」というような肯定的な記載がみられ、「利用者の方々と交流できてよかった」「喜んでいる顔が見れてやってよかった」「達成感があった」というような肯定的な記載も多く見られた。その一方で、「普段のデイケアの様子や情報をもう少し教えて欲しかった」「事前情報が少なかった」といった記載もみられた。

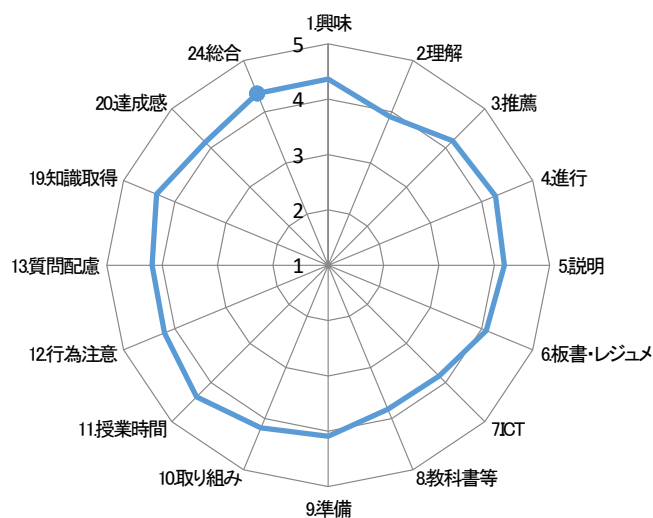
また、コロナ禍で準備の時間が減ったり、グループを前後半に分けざるを得なくなったこともあり、「模擬練習はもう少し綿密にやるべきだと感じた」「時間のない中慌ただしい準備でまだまだ改善の余地があった」「班員全員でレクを行えなかったのが残念だった」との記載もみられた。

さらに、「どのような身体機能を観察したいか目標を決めて、それに向けてレクを計画していく流れを理解できた」との記載もあった。

◆今後の改善に向けて

コロナ禍での実施となったため、事前の見学ができなくなり、その分を過去の画像や口頭での説明・利用時間外に短時間の入室にて事前情報を得るしかなくなり、支障をきたしたことは否めない状況であった。また、グループを前後半に分けることでなんとか実施可能となったが、この点も例年とは違う状況となった。そんな中でも、実際にデイケア利用者に対して自ら計画して準備したレクリエーションを提供することで、得たものは多かったと考える。

今後も、感染予防対策を徹底し、実施方法を工夫して、可能な限り、学生にとって有意義な経験をする機会を作っていく必要があると思われる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

120. 就労支援学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

20 名

◆集計データ結果について

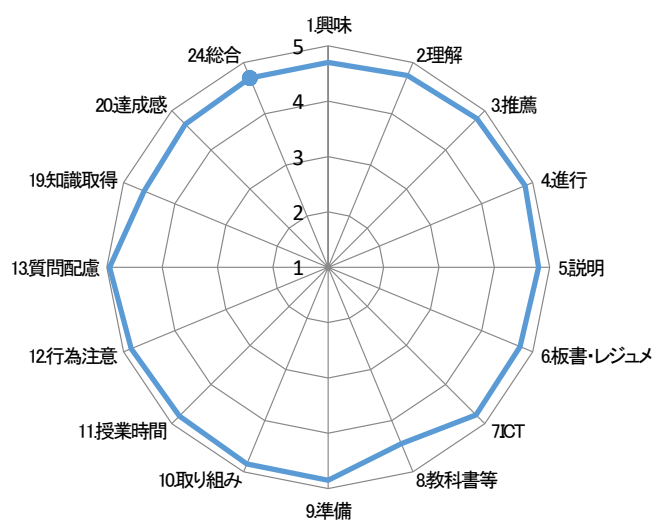
予習、復習をした時間の項目以外は4点4以上であった。予習・復習は何か机の前に座り、テキストやノートをひろげ、何か書き写したりすることを指していると思いいしないでください。この授業ではそのような学習を進めては来ませんでした。生涯にわたって働いていく意味を探し、議論する授業でした。そして自身が作業療法士という職業に就くにあたってのテーマを見出そうと努めてきました。つまり日々作業療法士になろうとする取り組みや活動が学習の時間であったのだと考えています。4点以上の得点であったことから、働くことの意味を考え、自身に置き換えて、新たな取り組みを始められていたのだと思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

ほとんどの学生が好意的な感想を述べています。自身が卒業を控え、どういった作業療法士として働いていくかについて今一度検討する機会にもなったのだと思います。そのことを通して学習したことは、将来対象者の方々にとっての大きな力となるのだと思います。

◆今後の改善に向けて

学生たちが安心して自身の考えを述べ、互に議論し、新しいものを受け取っていく授業として今後も展開していきたいと考えています。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

121. 臨床実習Ⅱ（評価）

担当教員

山下 英美・高田 政夫・加藤 真夕美・横山 剛・渡邊 豊明・清水 一輝・
松田 裕美

専攻・配当年次

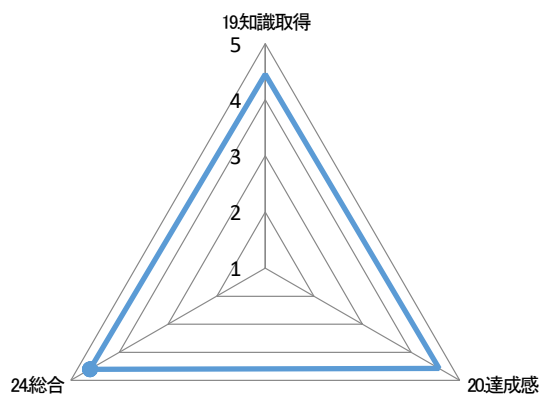
OT 2年

回答者数

33 名

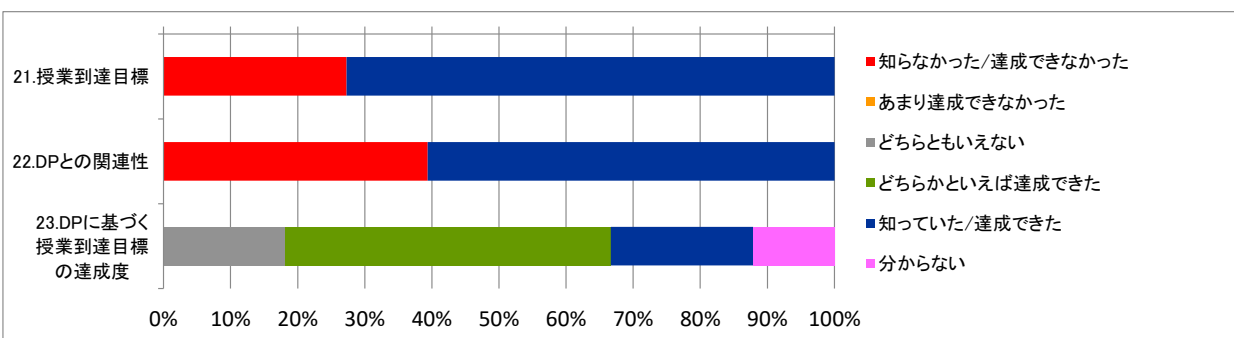
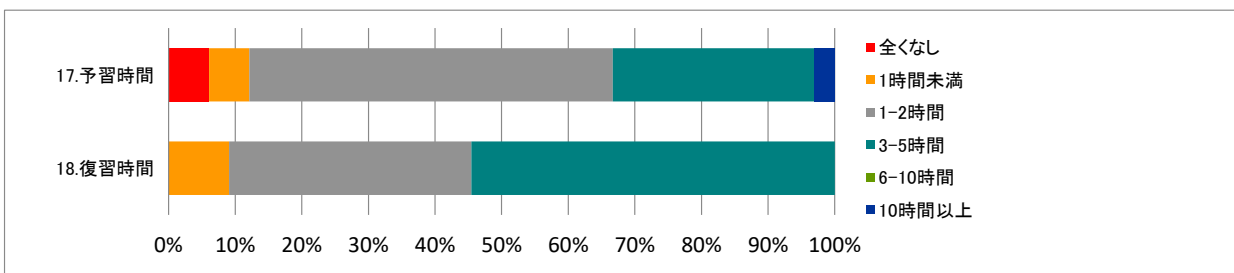
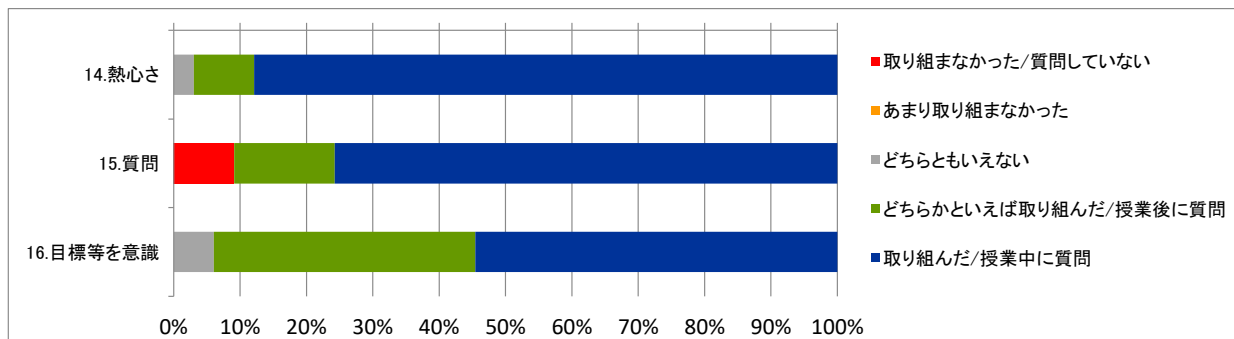
◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

122. 臨床実習Ⅲ（総合1）

担当教員

山下 英美 ・ 高田 政夫 ・ 加藤 真夕美 ・ 横山 剛 ・ 渡邊 豊明 ・ 清水 一輝 ・
松田 裕美

専攻・配当年次

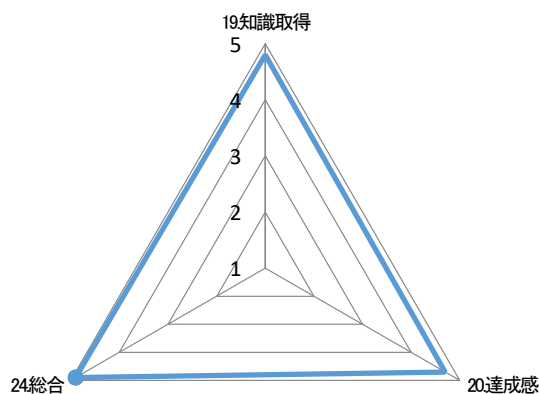
OT 3年

回答者数

20 名

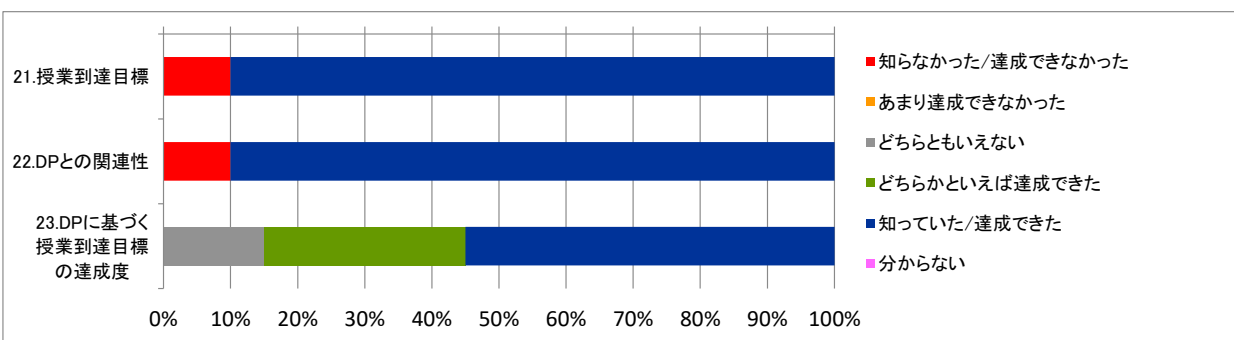
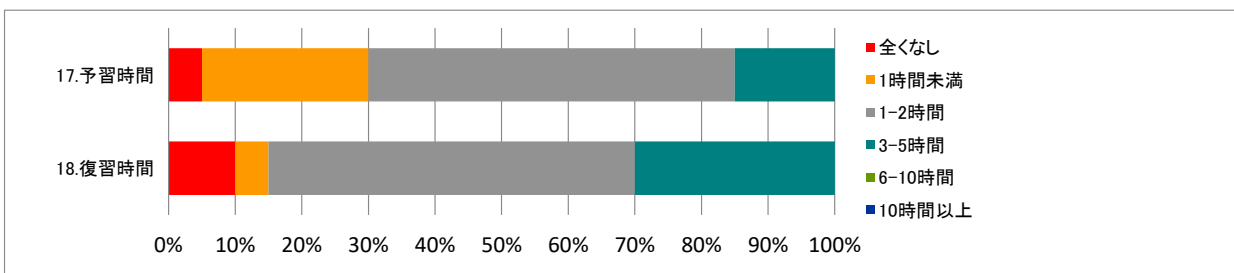
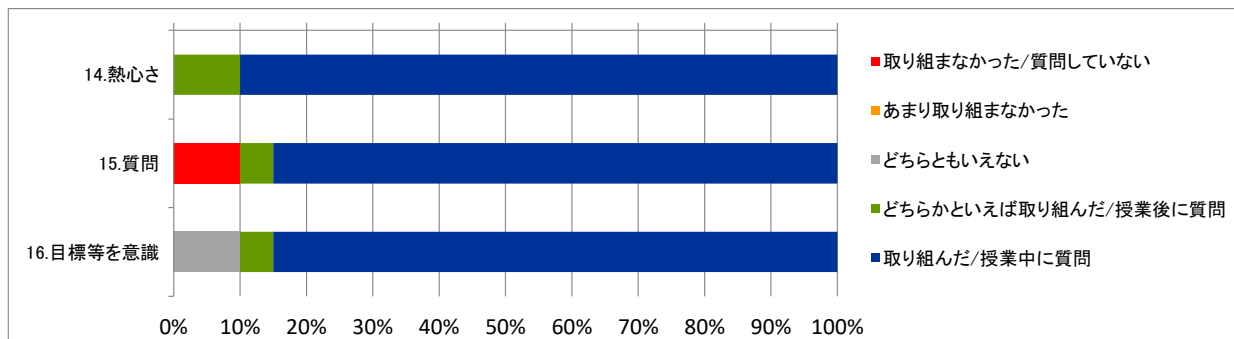
◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

123. 臨床実習Ⅳ（総合2）

担当教員

山下 英美 ・ 高田 政夫 ・ 加藤 真夕美 ・ 横山 剛 ・ 渡邊 豊明 ・ 清水 一輝 ・
松田 裕美

専攻・配当年次

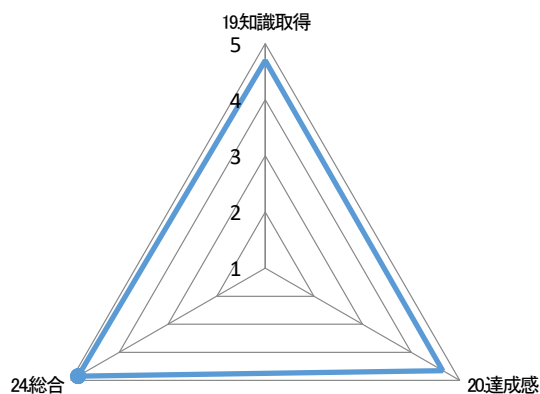
OT 3年

回答者数

20 名

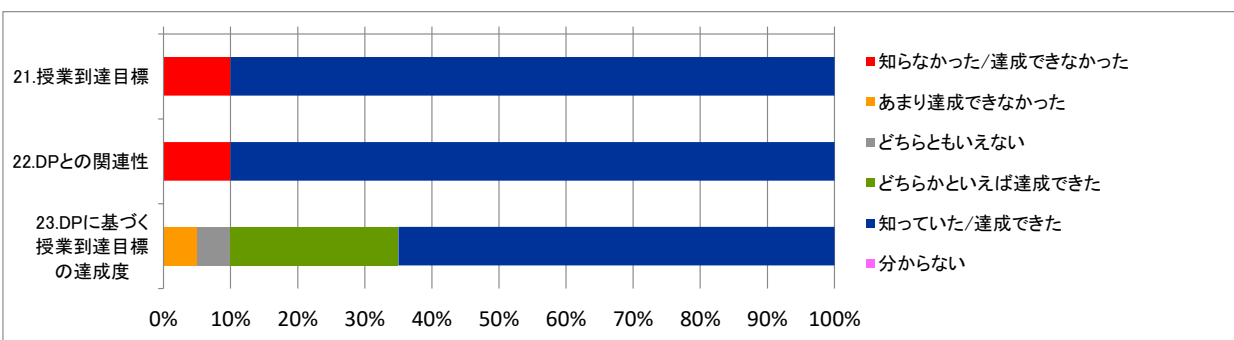
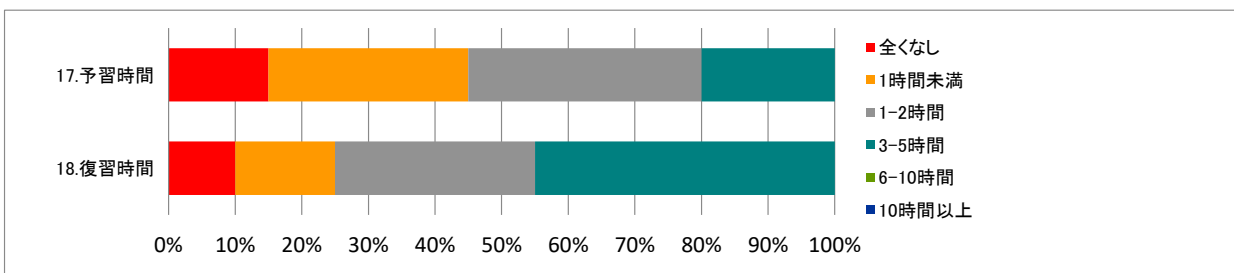
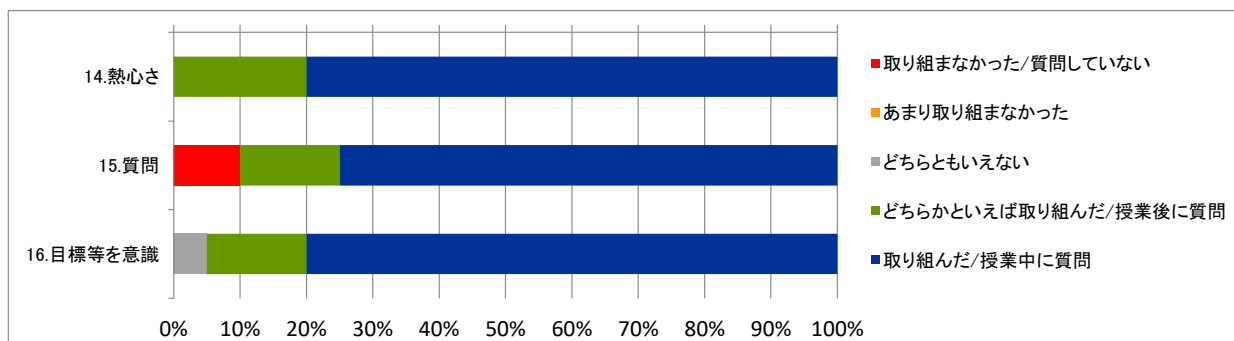
◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

124. 卒業研究 (20T)

担当教員

山下 英美 ・ 高田 政夫 ・ 横山 剛 ・ 加藤 真夕美 ・ 清水 一輝 ・ 渡邊 豊明

専攻・配当年次

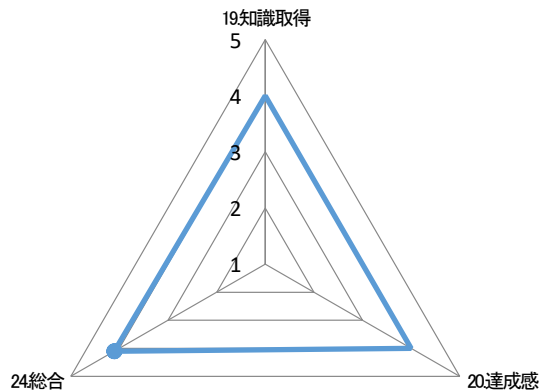
OT 2年

回答者数

19 名

◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。

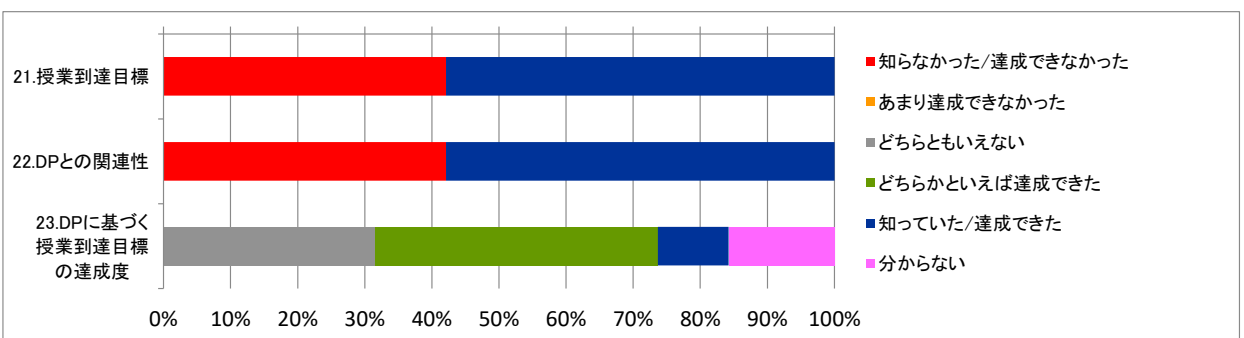
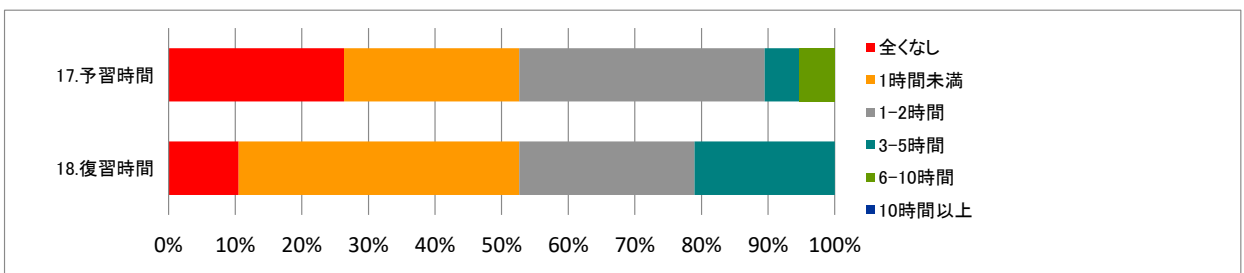
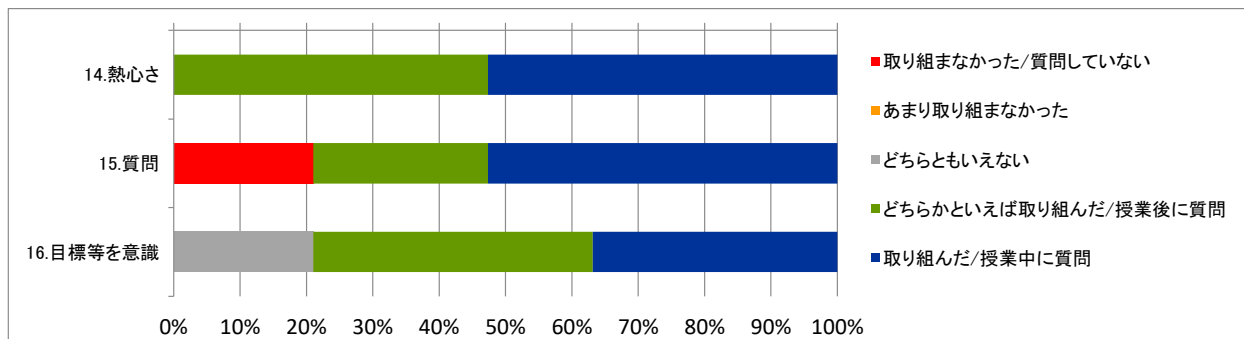


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

125. 卒業研究 (30T)

担当教員

高田 政夫 ・ 山下 英美 ・ 横山 剛 ・ 加藤 真夕美 ・ 清水 一輝

専攻・配当年次

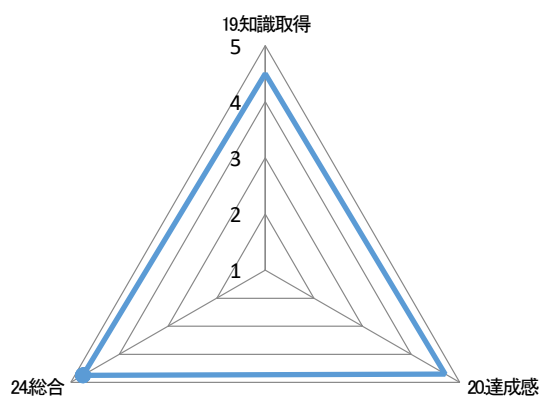
OT 3年

回答者数

20 名

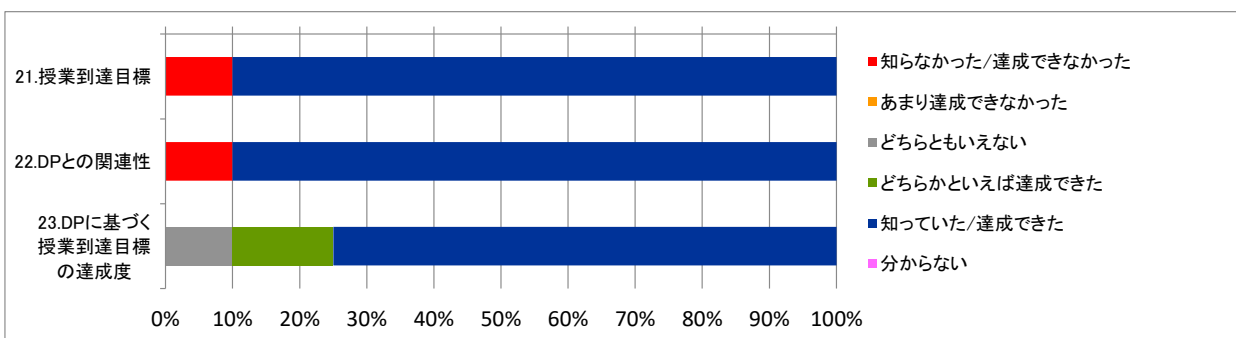
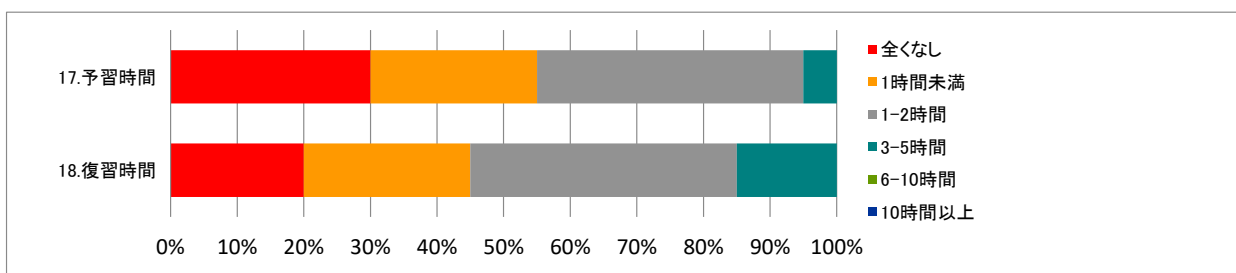
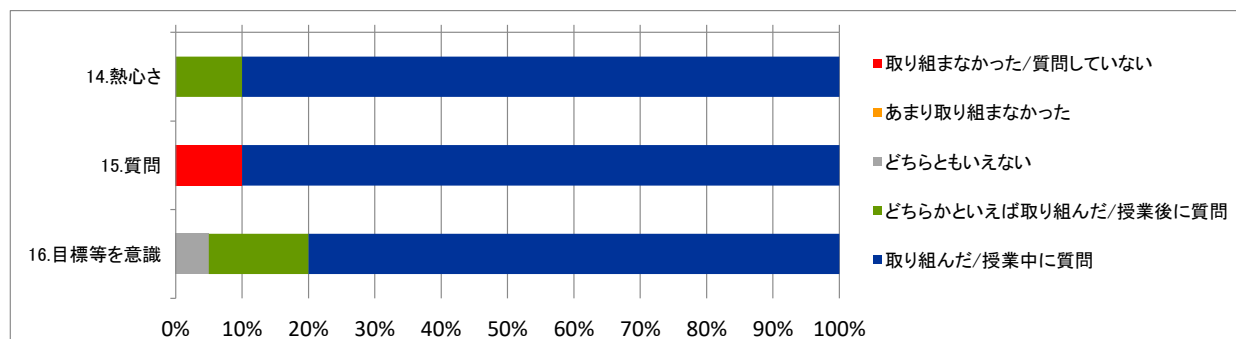
◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

126. 総合演習

担当教員

石川清・加藤真弓・杉山成司・宮津真寿美・木村菜穂子・松村仁実・
 臼井晴信・山田南欧美・齊藤誠・山下英美・石黒茂・種田陽一・高田政夫・
 横山剛・加藤真夕美・清水一輝・松田裕美・渡邊豊明・瀧田光佑

専攻・配当年次

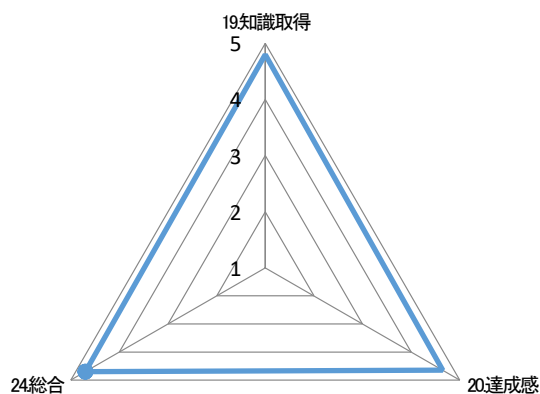
OT 3年

回答者数

20 名

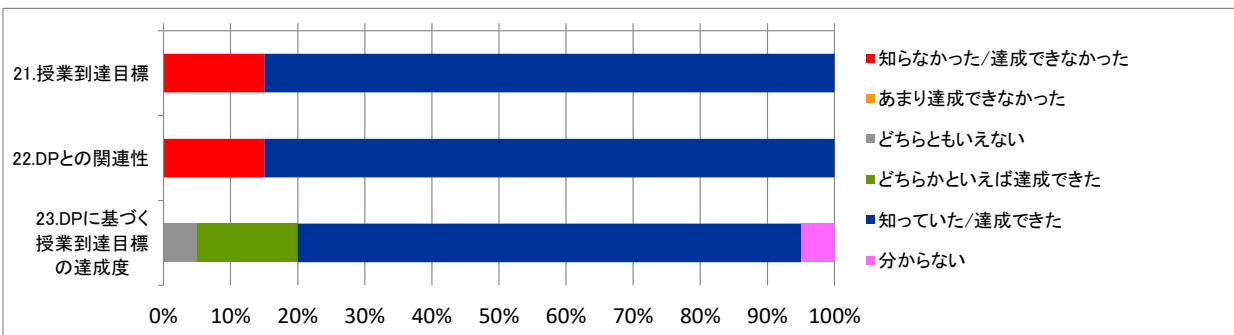
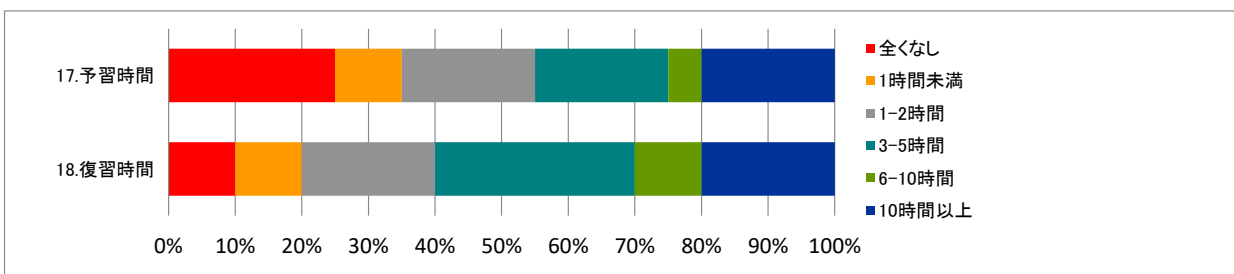
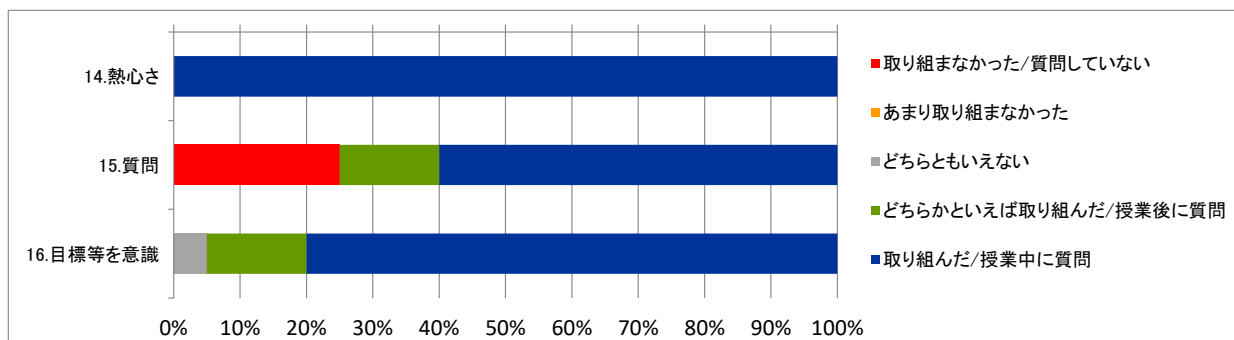
◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



19 学生の満足度(知識習得)
 20 学生の満足度(達成感)
 24 総合

(軸単位:5段階評点)



編集委員

横山 剛	(FD&SD委員会委員長)
加藤 真弓	(FD&SD委員会)
木村 菜穂子	(FD&SD委員会)
齊藤 誠	(FD&SD委員会)
外倉 由之	(FD&SD委員会)
大谷 智美	(FD&SD委員会)
齊藤 寛子	(FD&SD委員会)
中村 尚平	(FD&SD委員会)
松浦 智美	(FD&SD委員会)

2020 年度 授業評価レポート

発行日 令和 3 年 6 月 23 日

発行者 学校法人 佑愛学園

愛知医療学院短期大学

〒452-0931 愛知県清須市一場 519

TEL 052-409-3311

<http://www.yuai.ac.jp>